

令和 3 年度

仙台市自然環境に関する基礎調査

報 告 書

令和 4 年 2 月

仙台市

目次

第1章	調査概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査期間	1
1.3	調査対象地域	1
1.4	調査項目	1
1.5	調査方法	1
1.6	自然環境基礎調査検討会	2
第2章	これまでの経緯	4
第3章	調査結果	7
3.1	保全上重要な種のリスト, 選定理由票, 分布図の更新	7
3.1.1	保全上重要な種のリストの更新	7
3.1.2	選定理由票の作成	16
3.1.3	保全上重要な植物種	30
3.1.4	保全上重要な動物種	44
3.1.5	保全上重要な種 減少の要因について	58
3.2	ふるさと種の更新	62
3.3	植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の更新	66
3.3.1	植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の選定方針	66
3.3.2	植物生育地として重要な地域	68
3.3.3	動物生息地として重要な地域	75
3.4	保全上重要な地形・地質等のリスト及び分布図の更新	82
3.4.1	学術上重要な地形・地質・自然現象	82
3.4.2	自然景観資源	88

第1章 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、本市の自然環境の最新情報を把握することにより、本市が実施している環境影響評価制度や土地利用調整条例、生物多様性保全推進事業等に活用することを目的とした。

1.2 調査期間

自 令和3年7月12日

至 令和4年2月28日

1.3 調査対象地域

本調査の対象地域は仙台市全域とした。

1.4 調査項目

- (1) 保全上重要な種のリスト，選定理由票，分布図
- (2) ふるさと種リストの更新
- (3) 保全上重要な種の生息地・生育地の更新
- (4) 保全上重要な地形・地質等のリスト及び分布図の更新

1.5 調査方法

1.5.1 保全上重要な種のリスト，選定理由票，分布図の更新

平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査（以下、「平成28年度調査」という。）において選定した保全上重要な種のリスト，選定理由票，分布図について，後述する文献や自然環境基礎調査検討会からの意見をもとに見直しを行った。

分布図の作成にあたっては，平成28年度調査において作成した分布図に準じ，文献調査等を基に得られた生育・生息場所の地名をもとに，旧日本測地系3次メッシュ情報のGISデータとして整備した。各メッシュには，文献名，確認場所，確認者，確認年，区分等を記録した。ただし，選定理由票及び分布図については，希少な動植物の保護の観点から，非公表とし，報告書本冊子とは別に取りまとめた。

1.5.2 ふるさと種リストの更新

平成28年度調査において選定したふるさと種リストについて，後述する文献や自然環境基礎調査検討会からの意見をもとに，更新を行った。

1.5.3 保全上重要な種の生息地・生育地の更新

平成28年度調査において選定した「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」について，令和2年度仙台市植生図等の既存文献や自然環境基礎調査検討会からの意見をもとに，更新を行った。

1.5.4 保全上重要な地形・地質等のリスト及び分布図の更新

平成28年度調査において取りまとめた以下の2項目について、文献収集をもとにリスト及び分布図を更新した。分布図はGISデータにより作成した。

- ・学術上重要な地形・地質・自然現象
- ・自然景観資源

1.6 自然環境基礎調査検討会

本調査の実施にあたっては、本市の生きもの及び自然環境に精通した専門家からなる自然環境基礎調査検討会（以下、「検討会」という。）を設置するとともに、下に示す協力者に協力を頂いた。

検討会及び協力者からは、「保全上重要な種」の「リスト」及び「選定理由票」の見直し、「ふるさと種」の更新、「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」の見直しにあたり、専門的な見地からの意見を頂いた。検討会委員を表 1.6-1に、検討会開催日時・議題を表 1.6-2に示す。

表 1.6-1 検討会委員（敬称略，五十音順）

委員	所属	分野
五十嵐 由里	宮城昆虫地理研究会 事務局幹事	動物（昆虫類）
太田 宏	東北大学 助教 宮城県野生動植物調査会 両生類・爬虫類分科会 代表	動物 (両生類・爬虫類)
斉藤 千映美	宮城教育大学 教授 宮城県野生動植物調査会 哺乳類分科会 代表	動物（哺乳類）
佐藤 賢二	株式会社エコリス 次長 公益財団法人日本野鳥の会 宮城県支部 幹事	動物（鳥類）
旗 薫	株式会社エコリス 課長 宮城県野生動植物調査会 汽水・淡水魚類分科会 代表	動物（魚類）
平吹 喜彦	東北学院大学 教授 宮城県野生動植物調査会 植物群落分科会 代表	植物

【協力者】（敬称略，五十音順）

- 杉山 多喜子 宮城植物の会
滝口 政彦 宮城植物の会

表 1.6-2 検討会の開催日・議題

回次	開催日	議題
第1回検討会	令和3年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境基礎調査 調査概要及び検討手順 (案) 説明 ・ 保全上重要な種のリスト (案)
第2回検討会	令和3年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回検討会議事を踏まえた修正・検討事項 ・ 保全上重要な種の生息地・生育地 (案) ・ ふるさと種の更新
第3回検討会	令和4年 1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回検討会議事を踏まえた修正・検討事項

第2章 これまでの経緯

仙台市自然環境に関する基礎調査は、これまでに第1回調査（平成6年度～平成7年度）、第2回調査（平成13年度～平成15年度）、第3回調査（平成21年度～平成22年度）、第4回調査（平成27年度～平成28年度）、第5回調査（令和2年度～）が実施されており、本調査は第5回調査の2年度目にあたる。

過去の調査概要を以下に示す。

2.1 第1回調査（平成6（1994）年度～平成7（1995）年度）

本市の環境の保全と創造に関わる政策・施策の基本的な方向性を定める「仙台市環境基本計画（杜の都環境プラン）」の策定に資するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

【第1回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の作成
 - ・現存植生図
 - ・特定植物群落（保全上重要な植物群落及び植物種の分布図）
 - ・動物分布図（保全上重要な動物種の分布図）
 - ・自然環境保全関連指定地域図 等
- ②保全上重要な植物種リスト、保全上重要な動物種リストの作成

2.2 第2回調査（平成13（2001）年度～平成15（2003）年度）

第1回調査から一定の期間を経たことを踏まえ、本市の自然環境の最新の情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

なお、「生物多様性国家戦略」の策定（平成7（1995）年10月）、国のレッドデータブック（以下「RDB」とする。）の見直し（平成12（2000）年～）、宮城県RDBの作成（平成13（2001）年3月）を踏まえ、国及び県RDBとの整合性を図るとともに、身近な減少種や市民とのふれあい等の視点を加味し、本市における保全上重要な種に「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい種」の区分を加えた。

また、自然環境現況図及び保全上重要な種の分布図は地理情報システム（GIS）を用いて整理した。

【第2回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新（GIS化）
 - ・現存植生図
 - ・保全上重要な種分布図
 - ・自然環境保全関連指定地域図 等
- ②保全上重要な種のリストの更新

2.3 第3回調査（平成21（2009）年度～平成22（2010）年度）

第2回調査から一定の期間を経たことを踏まえ、本市の自然環境の最新の情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）の制定（平成16（2004）年6月）や「生物多様性基本法」の制定（平成20（2008）年6月）等も踏まえ、本市の自然環境の変化の状況や要因についての分析を新たに行った。

【第3回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新
 - ・現存植生図，自然環境保全関連指定地域図
 - ・保全上重要な動植物の生息地・生育地 等
- ②保全上重要な種のリストの更新
- ③自然環境の変化の状況等の分析 等

2.4 第4回調査（平成27（2015）年度～平成28（2016）年度）

第3回調査から一定の期間を経たこと、また平成23（2011）年に発生した東日本大震災（以降「震災」とする）に伴う津波や、その後の復旧・復興工事等により、市域東部田園地域・沿岸部を中心として本市の自然環境に大きな変化があったことを踏まえ、本市の自然環境の最新情報を把握するとともに、本市の自然環境保全行政に資する基礎的資料を整備することを目的に実施した。

さらに、本市の生物多様性を保全していく上で重要な地域である里地・里山について、その分布状況や状態についての把握を行った。なお、里地・里山の質の低下は生物多様性国家戦略において、我が国の生物多様性を脅かす4つの危機の一つとして挙げられている。本市においてもその変化が大きい環境であることから、里地・里山の分布状況やその状態についての調査を新たに行った。

【第4回調査の主な成果】

- ①自然環境現況図の更新
 - ・現存植生図，自然環境保全関連指定地域図 等
- ②平成28年度仙台市野生生物目録，保全上重要な種の生息地・生育地，保全上重要な種のリストの更新，ふるさと種の選定
- ③里地・里山の分布状況及びその状態の把握

2.5 第5回調査（令和2（2020）年度～）

第4回調査から一定の期間を経たこと、震災に伴う津波や、その後の復旧・復興工事等により、本市の自然環境の変化が進行していることを踏まえ、本市の自然環境の最新情報を把握し、様々な環境施策の検討や各種公共事業・開発事業の持続可能な方向への誘導のための基礎資料を作成することを目的として実施した。

【第5回調査の主な成果】

①自然環境現況図の更新

・現存植生図，自然環境保全関連指定地域図 等

②令和2年度仙台市野生生物目録，保全上重要な種の生息地・生育地，保全上重要な種のリスト，ふるさと種の更新

③保全上重要な地形・地質・自然現象の更新

なお，以上の調査結果については，仙台市環境基本計画（杜の都環境プラン）の策定や改定，評価や，本市の生物多様性保全のための事業検討等に当たっての基礎資料としている。また，「仙台市環境影響評価条例」や「杜の都の風土を守る土地利用調整条例」等を通じて，環境に配慮した開発事業を促す上での基礎資料としている。

第3章 調査結果

3.1 保全上重要な種のリスト，選定理由票，分布図の更新

3.1.1 保全上重要な種のリストの更新

「保全上重要な種」の選定にあたっては，下記の資料・法令に基づき検討を行った。

- ① 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市，平成 29 年 3 月）
- ② 「環境省レッドリスト 2020」（環境省，令和 2 年 3 月）
- ③ 「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」（宮城県，令和 3 年 3 月）
- ④ 「文化財保護法」（昭和 25 年律第 214 号，最終改正：令和 2 年 6 月 10 日）
- ⑤ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 法律第 75 号，最終改正：令和元年 6 月 14 日）および「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号，最終改正：令和 3 年 1 月 4 日）

保全上重要な種のリストは，令和 2 年度調査で作成された「令和 2 年度仙台市野生生物目録」を基に作成した。「令和 2 年度仙台市野生生物目録」及び今年度調査で使用した文献を表 3.1-2 に示す。保全上重要な種のリストは下記の手順で抽出した。

- ・令和 2 年度仙台市野生生物目録掲載種について，「環境省レッドリスト 2020」，「宮城県レッドリスト 2021 年版」，「平成 28 年度仙台市自然環境基礎調査における保全上重要な種」を抽出した。
- ・抽出した種を「国・県・市の全てで重要種に指定されている種」，「国または県で重要種に指定されているが，市で指定のない種」，「市で重要種に指定されているが国または県で指定のない種」，「国・県・市のいずれも重要種指定のない種」の 4 通りに区分した。
- ・国・県の重要種指定種のうち，評価（ランク）の変更のあった種をさらに抽出し，市の重要種として追加もしくは評価（ランク）変更とするか検討対象とした。
- ・抽出した「保全上重要な種（案）」について，p15 以降に示す(1)～(3)の選定カテゴリー（学術上重要な種，減少種，環境指標種）に基づいて見直し，「保全上重要な種」を選定した。保全上重要な種の選定の過程では，専門家からの助言を受けてリスト及び選定理由票を作成した。

保全上重要な種リストの抽出方法について，表 3.1-1 に示し，抽出フローを図 3.1-1 に示す。また保全上重要な種の選定基準について，詳細を表 3.1-3 に示す。

表 3.1-1 保全上重要な種 抽出方法

H28 選定状況	R3 段階の国・県の評価状況	評価の方向性	令和3年度対応
H28 市指定重要種・ 国・県指定重要種	国・県評価変更なし	H28 市前回評価を踏襲	継続
	国・県評価変更あり	最新の国・県のランクを考慮して検討	検討
国・県（もしくはいずれか）のみ重要種	国・県評価変更なし	H28 市前回評価を踏襲	継続
	国・県評価変更あり	最新の国・県のランクを考慮して検討	検討
H28 市指定のみ重要種	国・県評価変更なし	H28 市前回評価を踏襲	継続
	国・県評価変更あり	最新の国・県のランクを考慮して検討	検討
どの選定基準にも該当しない普通種	-	重要種として評価しない	継続

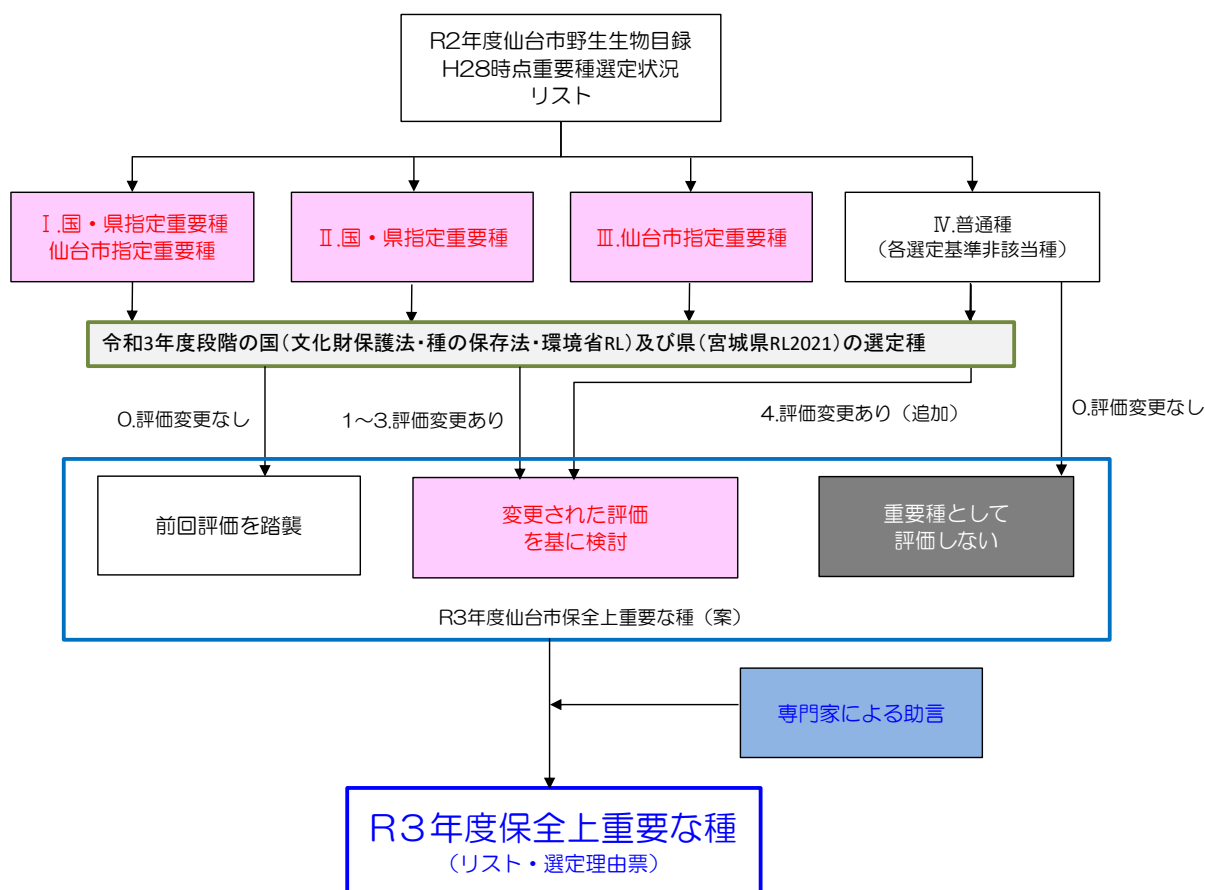


図 3.1-1 保全上重要な種 抽出フロー

表 3.1-2 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）（1/5）

文献 No.	文献名称	発行年
1	「広瀬・名取川水系魚類相調査報告書」（1976 仙台市）	1976
2	「青葉山保存緑地調査報告書」（1979 青葉山保存緑地調査臨時専門委員会）	1979
3	「第2回自然環境基礎調査河川調査報告書」（1979 宮城県）	1979
4	「太白山県自然環境保全地域学術調査報告書」（1985 宮城県）	1985
5	「蕃山・斉勝沼県緑地環境保全地域、権現森緑地環境保全地域学術調査報告書」（1985 宮城県）	1985
6	「第3回自然環境基礎調査河川調査報告書東北版」（1987 環境庁）	1987
7	「仙台城址・青葉山地域の魚類」（仙台城址の自然 1990 仙台市教育委員会）	1990
8	「仙台城址の自然-仙台城址自然環境調査総合報告-」（1990 仙台市教育委員会）	1990
9	「河川水辺の国勢調査結果 一級河川名取川 調査結果」（1991-2004 国土交通省）	1991
10	「青葉山丘陵の雑木林Ⅱ，青葉山市有林の植物相. 東北植物研究 7」（1991 長嶋康雄・生方正敏・蜂須賀克明）	1991
11	「泉ヶ岳山麓の溜池に生息するテツギョについて」（仙台市科学館研究記録第1号 1991 仙台市科学館）	1991
12	「太白山自然観察の森魚類の観察ポイント」（太白山自然観察の森環境調査報告書 1991 仙台自然教育研究会）	1991
13	「七北田川の魚類について」（仙台市科学館研究報告第2号 1992 仙台市）	1992
14	「河川水辺の国勢調査平成4年度名取川水系魚介類調査報告書」（1993 東北地方整備局）	1993
15	「県民の森緑地環境保全地域の魚・両生類・爬虫類・甲殻類・貝」（県民の森緑地環境保全地域学術調査報告書 1993 宮城県）	1993
16	「青葉山地区環境影響評価調査」（1993 仙台市）	1993
17	「仙台の汽水性魚類について」（仙台市科学館研究報告第3号 1993 仙台市科学館）	1993
18	「東北大学理学部附属植物園自生植物目録 第4版」（1993 東北大学理学部附属植物園）	1993
19	「インセクトマップオブ宮城 No. 1~No. 33」（1994~2010 宮城昆虫地理研究会）	1994
20	「広瀬川流域の自然環境-広瀬川流域自然環境調査報告-」（1994 仙台市環境局環境計画課）	1994
21	「仙台市史特別編1 自然」（1994 仙台市）	1994
22	「仙台市名取川水系のイワナ類の分布について」（仙台市科学館研究報告第5号 1995 仙台市科学館）	1995
23	「平成6年度自然環境調査報告書」（1995 仙台市）	1995
24	「河川生態系総合調査報告書」（1996 ㈱建設環境研究所）	1996
25	「仙台市芋沢川の河川環境事前調査報告書」（1997 (有)ネイティブサイン研究所）	1997
26	「河川水辺の国勢調査平成9年度名取川水系魚介類調査報告書」（1998）	1998
27	「梅田川いきもの調査報告書」（1998 ㈱水産生物研究室）	1998
28	「平成10年度河川水辺の国勢調査(魚介類調査)業務委託報告書-七北田川-」（1999 ㈱建設環境研究所）	1999
29	「丸田沢緑地環境保全区域学術調査報告書」（2000 宮城県）	2000
30	「宮城県植物目録 2000」（2001 宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会） 「宮城県維管束植物目録 2008」（2008 上野雄規）	2001
31	「日本野鳥の会宮城 提供データ 会報 雁 鳥信より 2001-2010」（2010 日本野鳥の会宮城）	2001
32	「平成14年度名取川水系河川水辺の国勢調査(魚介類調査)委託報告書」（2002 宮城県）	2002
33	「平成14年度名取川水系河川水辺の国勢調査(魚介類)現地調査結果」（2003 東北地方整備局）	2003
34	「平成15年度自然環境調査報告書」（2003 仙台市）	2003
35	「河川水辺の国勢調査平成15年度七北田川水系魚介類調査報告書」（2004 宮城県）	2004
36	「蒲生海岸鳥類生息調査結果 1971-2003」（2004 蒲生を守る会）	2004
37	「広瀬川ブラックバス生息状況調査」（2004 仙台市環境管理課）	2004
38	「平成15年度ブラックバス生息状況調査報告書」（2004 仙台市）	2004
39	「平成15年度自然環境に関する基礎調査業務報告書」（2004 仙台市）	2004
40	「仙台市高速鉄道東西線建設事業に係る環境影響評価書」（2005 仙台市）	2005

表 3.1-2 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）（2/5）

文献 No.	文献名称	発行年
41	「宮城教育大学環境教育研究紀要第8巻」（2006 宮城教育大学環境教育実践研究センター）	2006
42	「平成19年度名取川水系河川水辺の国勢調査魚類調査夏季調査結果中間報告書」（2007 パシフィックコンサルタンツ㈱）	2007
43	「東北大学青葉山新キャンパス整備事業 環境影響評価書」（2008 東北大学）	2008
44	「平成19年度河川水辺の国勢調査業務（筑川環境調査）報告書」（2008 ㈱建設環境研究所）	2008
45	「平成20年度七北田川水系河川水辺の国勢調査（魚類調査）中間報告資料」（2008 いであ㈱）	2008
46	「（仮称）仙台市荒井東土地区画整理事業 環境影響評価書」（2009 仙台市荒井東土地区画整理組合設立準備委員会）	2009
47	「仙台市茂庭土地区画整理事業（仮称）環境影響評価書」（2009 仙台市茂庭土地区画整理組合設立準備委員会）	2009
48	「宮城野野生動物研究会 提供データ（公開準備中資料）」（2010 宮城野野生動物研究会）	2010
49	「仙台市科学館 提供データ」（2010 仙台市科学館）	2010
50	「ハチ類生息状況に関する情報提供」（2011 郷右近勝夫）	2011
51	「標本に基づいた仙台市野生植物目録」（2010 財団法人 仙台市公園緑地協会） 【凡例】●：標本に基づいた目録記載種 △：標本が確認できず目録への収録が保留とされた種「標本に基づいた仙台市野生植物目録（追補）発行予定資料より」（2011 財団法人 仙台市公園緑地協会）	2011
52	インセクトマップオブ宮城 No.32～41	2010
53	ジャパングリーン環境調査（動植物）報告書 2010.10-2011.11 ver2	2010
54	平成23年度国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区植生モニタリング業務報告書	2011
55	仙台市科学館研究報告第21号平成23年	2011
56	仙台市科学館研究報告第21号別冊平成23年	2011
57	緑を守り育てる宮城県連絡会議ニュース No.188～235	2011
58	宮城の植物 第36号～40号	2011
59	宮城の自然観察 第99号～114号	2011
60	仙台市荒井南土地区画整理事業 環境影響評価書	2011
61	仙台市新墓園建設事業（第2期）環境影響評価書 報告書及び資料編	2011
62	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第4回）	2011
63	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第2回）	2011
64	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第3回）	2011
65	仙台市新墓園建設事業（第2期）事後調査報告書（第1回）	2011
66	新仙台火力発電所リプレース計画 環境影響評価書	2011
67	仙台市科学館蒲生調査レポート速報版（No.1～No.88）	2011
68	平成24年度国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区植生モニタリング業務報告書	2012
69	平成24年度東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務報告書	2012
70	東日本大震災による仙台湾沿岸湿地への影響	2012
71	仙台市科学館研究報告第22号平成24年 東日本大震災関連調査	2012
72	宮城教育大学環境教育研究紀要 第14巻	2012
73	蒲生を守る会だより No.64～65	2012
74	市立病院移転新築事業 環境影響評価書	2012
75	仙台市荒井西土地区画整理事業 環境影響評価書	2012
76	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第5回）	2012
77	愛宕山林道作業道路設置事業 作業道路建設に伴う動植物調査報告書	2012
78	（仮称）産業廃棄物最終処分場増設事業（第3期）環境影響調査報告書	2012
79	仙台市環境共生課提供資料（平成24～26年度）クマ出没箇所	2012
80	平成25年度国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書	2013

表 3.1-2 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）（3/5）

文献 No.	文 献 名 称	発行年
81	平成 25 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・湿地変化状況等調査報告書	2013
82	平成 25 年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査報告書	2013
83	仙台湾の水鳥を守る会シンポジウム 2013	2013
84	仙台市科学館研究報告第 23 号平成 25 年	2013
85	宮城教育大学環境教育研究紀要 第 15 巻	2013
86	仙台市富沢駅西土地地区画整理事業 環境影響評価書	2013
87	東部復興道路（主要地方道塩釜亘理線外 1 線）整備事業 環境影響評価書	2013
88	青葉山新キャンパス整備事業 事後調査報告書第 1 回及び第 2 回	2013
89	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第 6 回）	2013
90	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 4 回）	2013
91	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 2 回）	2013
92	愛宕山林道作業道路設置事業 作業道路建設に伴う動植物調査報告書（補足）	2013
93	「集落・里山・田園ゾーン（愛子及び周辺地域）」の利活用に伴う 保全対策検討のための環境調査（動植物）報告書	2013
94	生出物語-平成の風土記- 生出まち物語作成委員会 平成 25 年	2013
95	仙台市科学館研究報告第 24 号平成 26 年	2014
96	仙台市荒井南土地地区画整理事業 事後調査報告書（第 1 回）	2014
97	仙台市荒井西土地地区画整理事業 事後調査報告書（第 1 回）	2014
98	仙台市荒井東土地地区画整理事業事後調査報告書（工事中第 1 回）	2014
99	仙台市高速鉄道東西線建設事業 事後調査報告書（第 7 回）	2014
100	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 5 回）	2014
101	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 3 回）	2014
102	阿部善産業(株)坪沼採石場動植物調査報告書	2014
103	仙台ハイランド樹木調査 調査報告書	2014
104	太陽光発電所設置に係る自然環境調査 仙台市青葉区大倉地内 調査報告書	2014
105	平成 26 年度自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査に係る情報収集等業務報告書	2014
106	仙台市農政企画課提供資料（平成 26 年度荒廃農地調査・野生動物による農作物被害箇所）	2014
107	平成 26 年度国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査業務報告書	2014
108	森のおくりもの 仙台市太白山自然観察の森情報誌（下記 URL 参照） http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/backnum/index.html	2015
109	宮城野植物 第 40 号別冊 「平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う津波が仙台市若林区井土浦のハマナス群落に及ぼした影響」	2015
110	都市計画道路川内旗立線整備事業 事後調査報告書（第 6 回）	2015
111	仙台市新墓園建設事業（第 2 期） 事後調査報告書（第 4 回）	2015
112	太陽光発電計画に係る自然環境調査 仙台市青葉区芋沢地内 調査報告書	2015
113	学識者によって生物目録に追加された生物	2015
114	宮城昆虫地理研究会提供データ	2016
115	仙台市環境共生課資料（ニホンジカ確認資料）	2016
116	日本野鳥の会宮城 提供データ 会報 雁 鳥信より 2014-2020（2020 日本野鳥の会宮城）	2014
117	モニタリングサイト 1000（H26～H31）	2014
118	東部復興道路整備事業（事後報告書）（第 1 回）	2015
119	仙台市荒井西土地地区画整理事業（事後調査報告書）（第 2 回）	2015
120	仙台市高速鉄道東西線建設事業（事後報告書）（8 回）	2015
121	新仙台火力発電所リプレース計画（事後調査報告書）（第 1 回）	2015
122	東部復興道路整備事業（事後報告書）（第 2 回）	2016
123	都市計画道路川内旗立線整備事業（第 7 回）	2016

表 3.1-2 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）（4/4）

文献 No.	文 献 名 称	発行年
124	仙台市立病院移転新築事業（事後報告書）（供用後）	2016
125	仙台市茂庭土地区画整理事業（事後報告書）（第1回）	2016
126	仙台市茂庭土地区画整理事業（事後報告書）（第2回）	2016
127	仙台市富沢駅西土地区画整理事業（事後報告書）（第1回）	2016
128	いづみ墓園第5回事後調査報告書	2016
129	仙台市荒井南土地区画整理事業（事後報告書）（2回）	2016
130	仙台市荒井東土地区画整理事業（事後報告書）（2回）	2016
131	仙台市荒井西土地区画整理事業（事後調査報告書）（第3回）	2016
132	インセクトマップオブ宮城 No. 45～52	2016
133	宮城の植物 第41号～44号	2016
134	河川水辺の国勢調査（H28～H30）	2016
135	太白山自然観察の森情報誌「森のおくりもの」No. 292～352	2016
136	東部復興道路整備事業（事後報告書）（第3回）	2017
137	都市計画道路川内旗立線整備事業（第8回）	2017
138	泉パークタウン第6住区開発計画（環境影響評価書）	2017
139	いづみ墓園第6回事後調査報告書	2017
140	仙台市高速鉄道東西線建設事業（事後報告書）（9回）	2017
141	仙台市荒井南土地区画整理事業（事後報告書）（3回）	2017
142	仙台貨物ターミナル駅移転計画（環境影響評価書）	2017
143	平成28年度 国指定仙台海浜鳥獣保護区自然環境調査	2017
144	宮城植物誌 2017	2017
145	環境省ガンカモ調査（H29～R2）	2017
146	東北大学青葉山新キャンパス整備事業（事後報告書）（第3回）	2018
147	東部復興道路整備事業（事後報告書）（第4回）	2018
148	都市計画道路川内旗立線整備事業（第9回）	2018
149	仙台市高速鉄道東西線建設事業（事後報告書）（10回）	2018
150	仙台市荒井東土地区画整理事業（事後報告書）（3回）	2018
151	雨宮キャンパス跡地利用計画（環境影響評価書）	2018
152	Wetland Researches 伊豆沼・内沼研究報告 12巻	2018
153	宮城教育大学 環境教育研究紀要 第20巻（2018）	2018
154	東部復興道路整備事業（事後報告書）（第5回）	2019
155	都市計画道路川内旗立線整備事業（第10回）	2019
156	いづみ墓園第7回事後調査報告書	2019
157	仙台市高速鉄道東西線建設事業（事後報告書）（11回）	2019
158	仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業（準備書）	2019
159	仙台医療センター立替等整備計画（第1回）	2019
160	仙台バイオマス発電事業（準備書）	2019
161	新仙台火力発電所リプレース計画（事後調査報告書）（第2回）	2019
162	東北大学青葉山新キャンパス整備事業（事後報告書）（第4回）	2020
163	都市計画道路川内旗立線整備事業（第11回）	2020
164	仙台市富沢駅西土地区画整理事業（事後報告書）（第3回）	2020
165	いづみ墓園第8回事後調査報告書	2020
166	宮城県内の河川で採集された県内初記録となる暖水性魚類	2020

表 3.1-2 使用文献一覧（仙台市野生生物目録）（5/5）

文献 No.	文 献 名 称	発行年
167	スナメリ <i>Neophocaena phocaenoides</i> の骨格標本の作成と活用	2012
168	東北地方新産のタンザワサカネラン（ラン科）とその生育地および花の形態	2013
169	2011 年東北地方太平洋沖地震から 6 年，蒲生干潟で見られた植物	2016
170	仙台市内におけるカヤネズミ <i>Micromys minutus</i> の記録	2017
171	標識調査で明らかとなった東北地方におけるヒナコウモリ <i>Vespertilio sinensis</i> の生存期間と長距離移動	2017
172	仙台市内の低標高地で確認されたミズラモグラ <i>Euroscaptor mizura</i> の記録	2018
173	宮城県における海棲哺乳類の生息状況	2018
174	仙台の海岸におけるタヌキの食性 - 東北地方太平洋沖地震・津波後に復帰し復興事業で生息地が改変された事例-	2018
175	カヤネズミの新北限産地	2018
176	うみがめニューズレター UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN No. 108 2019	2019
177	宮城学院の植物たち(その 2) -野生ラン-	2020
178	2011 年東北地方太平洋沖地震から 10 年，蒲生干潟で見られた植物	2020
179	令和元年度ツキノワグマに関する各種データ	2020
180	令和元年度ニホンザルに関する各種データ	2020
181	令和元年度ニホンジカに関する各種データ	2020
182	令和元年度イノシシに関する各種データ	2020
183	宮城学院女子大学構内における準絶滅危惧種トウホクサンショウウオの産卵地の発見と個体数の推定	2020
184	東日本大震災「宮城県河川海岸復旧・復興環境配慮記録誌」	2021
185	学識者によって生物目録に追加された生物	2021
186	大津波と里浜の自然誌	2021

注. 網掛けした文献は本調査において新しく追加された文献を示す

表 3.1-3 保全上重要な種 選定基準 (1/2)


No.	選定基準	
①	<p>「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市, 平成 29 年 3 月) の掲載種</p>	<p>《学術上重要種》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1: 仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種 あるいは生息地・生育地がごく限られている種 ・2: 仙台市周辺地域が分布の北限, 南限等の分布限界となる種 ・3: 仙台市が模式産地 (タイプロカリティー) となっている種 ・4: 1, 2, 3 には該当しないが, 各分類群において, 注目に値すると思われる種 (継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など) <p>《減少種》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EX: 絶滅…過去に仙台市に生息したことが確認されており, 飼育・栽培下を含め, 仙台市では既に絶滅したと考えられる種 ・EW: 野生絶滅…過去に仙台市に生息していたことが確認されており, 飼育・栽培下では存続しているが, 野生ではすでに絶滅したと考えられる種 ・A: 現在, ほとんど見ることができない, あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種 ・B: 減少が著しい, あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種 ・(旧) C: 減少している, あるいは近い将来減少のおそれがある種 ・(新) C: 減少している, あるいは存続基盤が脆弱で, 生息・生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有する種 ・+: 普通に見られる, あるいは当面減少のおそれがない種 ・/: もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい ・.: 判断に資する情報がない <p>《環境指標種》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○: 本市の各環境分類における環境を指標する種 (ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)
	<p>【地域区分】</p>  <p>【地域区分】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 山地地域 (2) 西部丘陵地・田園地域 (3) 市街地地域 (4) 東部田園地域 (5) 海浜地域 (後背の樹林も含む) 	
②	<p>「環境省レッドリスト 2020」(環境省, 令和 2 年 3 月) の掲載種</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EX: 絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 ・EW: 野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 ・CR: 絶滅危惧 I A 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの ・EN: 絶滅危惧 I B 類…I A 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの ・VU: 絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種 ・NT: 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 ・DD: 情報不足…評価するだけの情報が不足している種 ・LP: 絶滅のおそれのある地域個体群…地域的に孤立している個体群で, 絶滅のおそれが高いもの

表 3.1-3 保全上重要な種 選定基準 (2/2)

No.	選定基準	
③	<p>「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」(宮城県, 令和 3 年 3 月) の掲載種</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ EX : 絶滅…国 (県内) ではすでに絶滅したと考えられる種 ・ EW : 野生絶滅…飼育・栽培下, あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 ・ CR+EN : 絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種 ・ CR : 絶滅危惧 I A 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの ・ EN : 絶滅危惧 I B 類… I A 類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの ・ VU : 絶滅危惧 II 類…絶滅の危機が増大している種 ・ NT : 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが, 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 ・ LP : 地域個体群…地域的に孤立している個体群 (繁殖個体群を含む) で, 絶滅のおそれが高いもの ・ DD : 情報不足…評価するだけの情報が不足している種 ・ YO : 要注目…県内では現時点で絶滅の可能性が低いものの, その生息・生育状況に注目すべき種 (宮城県独自カテゴリー)
④	<p>「文化財保護法」(昭和 25 年律第 214 号, 最終改正: 令和 2 年 6 月 10 日) に基づく天然記念物および特別天然記念物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別天然記念物 (特天) ・ 天然記念物 (天)
⑤	<p>「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 法律第 75 号, 最終改正: 令和元年 6 月 14 日) および「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年 政令第 17 号, 最終改正: 令和 3 年 1 月 4 日) に基づく国内希少野生動植物種等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内希少野生動植物種 (国内) ・ 特定第一種国内希少野生動植物種 (特一) ・ 特定第二種国内希少野生動植物種 (特二) ・ 国際希少野生動植物種 (国際)

3.1.2 選定理由票の作成

「保全上重要な種」の選定にあたっては、選定カテゴリーの区分、判断理由、分布、個体数、減少（あるいは増加）の要因の内容等について特記すべき事項を記載した「選定理由票」を作成した。

「選定理由票」の様式は p. 29 表 3.1-14 の通り、絶滅あるいは野生絶滅と考えられる種については別様式とし、表 3.1-15 の通りとした。

選定理由票には、「保全上重要な種」を選定した理由として、選定カテゴリーである(1)学術上重要種、(2)減少種、(3)環境指標種の各項目について、選定ランクと選定理由を示した。各選定カテゴリーについて詳細を以下に記す。

<選定ランク>

(1) 学術上重要種

学術上重要種について、表 3.1-4の選定ランクに従って選定し、選定理由票「(1)学術上重要種」の項に選定ランクを1~4の記号で示した。

表 3.1-4 学術上重要種 選定ランク

1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種 あるいは生息地・生育地がごく限られている種
2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種
3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種
4	1, 2, 3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種 (継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など)

(2) 減少種

減少種は、基準年である第3回調査時（平成22(2010)年）頃と比べ、分布域や個体数が著しく減少している種、あるいは今後減少するおそれのある種を表 3.1-5の選定ランクに従って減少種として選定し、選定理由票「(2)減少種」の項に選定ランクをEX~・の記号で示した。

ランク分類及び判断基準は以下のとおりであるが、定量的に判断できる情報を得ることが困難であったことから、生物群ごとに定性的な判断によった。

減少種選定ランクのうちCランクについて、Cランクと同等ランクとみられる生物には、個体数が減少傾向にない、もしくは回復傾向にあるが、元々の個体数が少ない等の理由で将来の存続のおそれがある種があるため、従来の減少傾向にある種に加え、減少傾向の有無にかかわらず、同等に存続のおそれがある種を包括するランクとして、Cランクの判断基準を

「減少している、あるいは存続基盤が脆弱で、生息・生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有する種」

として今回調査にて改めた。

減少種の減少度合いを比較する基準年について、第1回（平成6（1994）年）～第3回（平成22（2010）年）では市街化が本格化し始めた1970年代との比較により判断していた。前回第4回（平成28（2016）年）から、1970年代との比較のための情報が不足していることや、本市の現存植生図がGISデータにより整備され、植生や土地利用の状況を客観的に判断することが可能となった平成15（2003）年頃（第2回調査）との比較とすることとした。今年度も前回を引き継ぎ2回前の第3回（平成22（2010）年）時点との比較とするが、平成23（2011）年3月に発生した震災の津波によって、東部田園地域～海岸地域は大きな攪乱を受け、震災前後では生物相に大きな変化がみられることから、特に震災前との減少度合いの比較として位置づけ、今後の調査回でもしばらくの間第3回（平成22（2010）年）時点との比較を行うこととする。

表 3.1-5 減少種 選定ランク

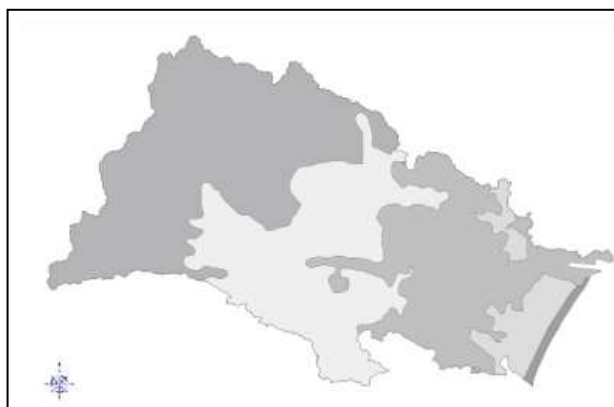
EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
C	減少している、あるいは存続基盤が脆弱で、生息・生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有する種
+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
・	判断に資する情報がない

減少種の選定ランクは仙台市環境基本計画 2021-2030 の地域区分に従い、各地域における減少の度合いを示した。仙台市環境基本計画 2021-2030 の地域区分について、図 3.1-2 に示す。

【地域区分】

- (1) 山地地域
- (2) 西部丘陵地・田園地域
- (3) 市街地地域
- (4) 東部田園地域（丘陵地を含む）
- (5) 海浜地域（後背の樹林も含む）

※詳細は、図 3.1-2を参照



仙台市環境基本計画 2021-2030 による地域区分

選定理由票の「絶滅・野生絶滅種」の様式について、地域区分による減少状況、絶滅の状況、非分布の違いが明らかなものは地域区分ごとに評価を示した。

減少種の地域区分と動植物の生息地・生育地について、地域区分は仙台市環境基本計画に則しているが、地域区分内の局所的な地形等により、種の生態と地域区分名がそぐわない場合がある。このような場合には選定理由票に具体例を示し理由を明記することとした。

具体例として、「東部田園地域」において、宮城野区県民の森一帯は丘陵地であり、「西部丘陵地・田園地域」から大和町・富谷市一帯に連なる丘陵地の東端である。宮城野区県民の森一帯は地形上丘陵地性の生物相がみられ、東部田園地域の他の地域は全体的に海岸平野の地形で水田地帯であり、所々後背湿地等がみられるためだいぶ環境が異なる。

宮城野区県民の森一帯では、アカガシ、ヤマツツジ、ノコギリクワガタなど丘陵地もしくは樹林地性の動植物がみられ、東部田園地域のその他全体では、ヨシ、ガマ、トノサマバツタ、ノシメトンボ等草地や水辺の環境に生育・生息する動植物がみられる。

そのため東部田園地域は「丘陵地を含む」と注釈を付し、環境の違いに留意する。

その他、「山地地域」に含まれる七北田ダム下流域は、河床勾配の緩い箇所ですナヤツメ、コアジサシ等一般的に山地に生息・生育しない種がみられる。

過年度選定理由票の分布情報等について、異なる文献でも出典の標本、写真、確認情報等が同一である場合があるため、確認年情報のあるものは分布地に併記し、過去の情報を保持しつつ、新規情報との混同を避ける。

なお、文献調査や現存植生図の比較によれば、本市では平成 22 (2010) 年以降、震災復興計画により、東部田園地域～海岸地域の災害危険区域内に立地する集落を移転促進地域として指定し、荒井地区をはじめとする内陸部への防災集団移転促進事業を行った。今後も、「宮城県土木・建築行政推進計画 (2021～2030)」によると、仙台空港や仙台塩釜港の機能強化や、広域道路ネットワーク整備の促進、河川やダムの防災減災対策の推進などが計画されている。

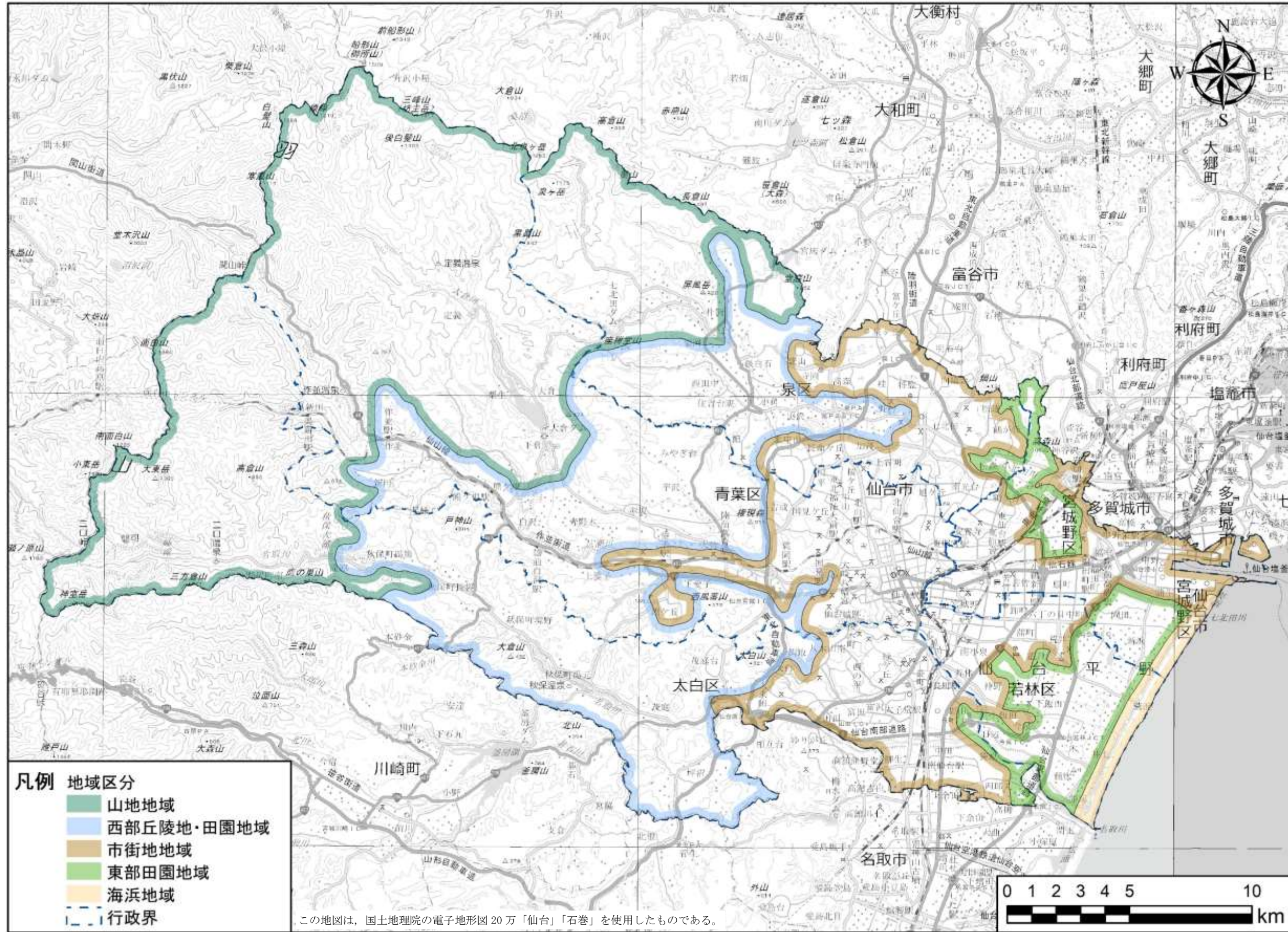


図 3.1-2 仙台市環境基本計画 2021-2030 による地域区分（詳細）

(3) 環境指標種

カテゴリーの内容は以下の通り。

◆環境指標種

○	本市の各環境分類における環境の指標種 (ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)
---	---

今回調査では、第4回調査時（H28(2016)）で指定された環境指標種について見直しを行った。各分類の見直し結果は、表 3.1-6に示すとおりであり、新たに追加もしくは保全上重要種から除外した種を整理した。

この結果、環境指標種は植物104種、哺乳類24種、鳥類47種、爬虫類6種、両生類10種、魚類10種、昆虫類29種である。指標となる環境の内容は表 3.1-7～表 3.1-13に示すとおりである。

表 3.1-6 環境指標種（動物）の前回調査結果との変更点

分類群	科名	種名	前回調査との評価状況
哺乳類	ネズミ	ホンシュウカヤネズミ	今回調査の見直しにより、新たに環境指標種に指定
魚類	ドジョウ	ドジョウ	今回調査の見直しにより、新たに環境指標種に指定
昆虫	ガロアムシ	ガロアムシ類	前回調査時に除外対象となっており、環境指標種からも除外
	トンボ	マユタテアカネ	検討委員の助言により、環境指標種から除外
	トンボ	ノシメトンボ	検討委員の助言により、環境指標種から除外
	トンボ	マイコアカネ	検討委員の助言により、環境指標種から除外
	ボクトウガ	ハイイロボクトウ	検討委員の助言により、前回調査段階で環境指標種に指定
	シジミチョウ	オオゴマシジミ	今回調査の見直しにより、環境指標種に指定
	ハンミョウ	ナミハンミョウ	検討委員の助言により、前回調査段階で環境指標種に指定
	コガネムシ	ヤマトケシマグソコガネ	検討委員の助言により、前回調査段階で環境指標種に指定
	ホタル	ヒメボタル	検討委員の助言により、前回調査段階で環境指標種に指定

表 3.1-7 環境指標種 (植物 1/3)

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
植物 (104種)	イワヒバ	イワヒバ	冷温帯の岩壁の指標
	オシダ	リョウメンシダ	冷温帯の崖錐・溪谷の指標
	オシダ	ジュウモンジシダ	冷温帯の崖錐・溪谷の指標
	マツ	モミ	中間温帯林の指標。大気汚染に弱いため市街地で良好な環境の指標にもなる
	マツ	ハイマツ	亜高山帯（偽高山帯）の環境指標
	ウマノスズクサ	トウゴクサイシン	落葉広葉二次林の人為的自然環境の指標
	モクレン	タムシバ	冷温帯山地帯森林の自然環境の指標
	クスノキ	オオバクロモジ	冷温帯山地帯森林の自然環境の指標
	クスノキ	シロダモ	暖温帯林の指標
	サトイモ	ミズバショウ	冷温帯の湿地の指標
	オモダカ	ヘラオモダカ	水田の人為自然環境の指標
	オモダカ	サジオモダカ	水田の人為自然環境の指標
	オモダカ	アギナシ	水田の人為自然環境の指標
	オモダカ	ウリカワ	水田の人為自然環境の指標
	オモダカ	オモダカ	水田の人為自然環境の指標
	オモダカ	ホソバオモダカ	水田の人為自然環境の指標
	トチカガミ	クロモ	淡水湖沼の指標
	シバナ	マルミノシバナ	塩性湿地の指標
	ヒルムシロ	エビモ	河川下流域の自然環境の指標
	ヒルムシロ	コバノヒルムシロ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	ヒルムシロ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	フトヒルムシロ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	カモガワモ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	センニンモ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	オヒルムシロ	淡水池沼の自然環境の指標
	ヒルムシロ	ホソバミズヒキモ	淡水池沼の自然環境の指標
	シュロソウ	ショウジョウバカマ	丘陵二次林の人為自然環境の指標
	ラン	シュンラン	丘陵地二次林の人為自然環境の指標
	ラン	ネジバナ	短茎草原の人為自然環境の指標
	アヤメ	ノハナショウブ	二次草原の人為自然環境の指標
	アヤメ	ヒメシャガ	落葉広葉樹二次林の人為自然環境の指標
	クサスギカズラ	ヒメヤブラン	海岸防潮林の自然環境の指標
	クサスギカズラ	ユキザサ	冷温帯山地帯森林の自然環境の指標
	ミズアオイ	ミズアオイ	水田の人為自然環境の指標
	ミズアオイ	コナギ	水田の人為自然環境の指標
	ガマ	ミクリ	湿地の指標

表 3.1-7 環境指標種 (植物 2/3)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	ガマ	ガマ	湿地の指標
	カヤツリグサ	コウボウムギ	砂浜海岸の指標
	カヤツリグサ	タヌキラン	段丘崖の自然環境の指標
	イネ	メヒシバ	畑地・果樹園の人為自然環境の指標
	イネ	カゼクサ	踏跡群落の人為自然環境の指標
	イネ	オオウシノケグサ	海岸防潮林の自然環境の指標
	イネ	ケカモノハシ	砂浜海岸の指標
	イネ	テンキグサ	砂浜海岸の指標
	イネ	オギ	河川敷の指標
	イネ	アイアシ	塩性湿地の指標
	イネ	ヨシ	湿地の指標
	イネ	ツルヨシ	河川中流域の自然環境の指標
	イネ	スズタケ	丘陵地の自然環境の指標
	イネ	ネズミノオ	踏跡群落の人為自然環境の指標
	イネ	マコモ	湿地の指標
	イネ	シバ	短茎草原の人為自然環境の指標
	キンボウゲ	ニリンソウ	冷温帯の崖錐の指標
	キンボウゲ	キクザキイチゲ	冷温帯の崖錐の指標
	キンボウゲ	リュウキンカ	冷温帯の湿地や小川の自然泥質地環境の指標
	キンボウゲ	シラネアオイ	冷温帯林の指標
	ユキノシタ	コチャルメルソウ	山地溪流の水辺の自然湿性環境の指標
	ユキノシタ	ダイモンジソウ	山地溪流の岩角地の自然環境の指標
	ベンケイソウ	キリンソウ	冷温帯山地帯の岩壁の自然環境の指標
	マメ	ツクシハギ	段丘崖の指標
	ニレ	ケヤキ	崖錐や自然堤防の指標
	バラ	カスミザクラ	中間温帯林の指標
	バラ	ヤマブキ	丘陵地の崖錐の自然環境の指標
	バラ	イワキンバイ	冷温帯山地帯の岩壁の自然環境の指標
	バラ	ハマナス	砂浜海岸の指標
	ブナ	イヌブナ	中間温帯林の指標
	ブナ	アカガシ	暖温帯林の指標
	ブナ	シラカシ	暖温帯林の指標
	クルミ	オニグルミ	攪乱の多い丘陵地の崖錐や自然堤防の指標
	カバノキ	ハンノキ	湿地の指標
	カバノキ	サワシバ	崖錐の指標
	カバノキ	アカシデ	冷温帯の溪谷の指標

表 3.1-7 環境指標種 (植物 3/3)

分類群	科名	和名	指標する環境の内容
植物	カバノキ	イヌシデ	中間温帯林の指標
	ヤナギ	ネコヤナギ	河川中流域の指標
	ヤナギ	キツネヤナギ	丘陵地林縁の自然環境の指標
	ミソハギ	ヒシ	淡水湖沼の指標
	ムクロジ	ヤマモミジ	崖鍾の指標
	ムクロジ	ナンゴクミネカエデ	奥羽山地亜高山帯の自然環境の指標
	アブラナ	ナズナ	畑地・果樹園の人為的自然環境の指標
	タデ	イヌタデ	中下流域河川敷の洪水などによる泥質の薄く堆積する川原の自然環境の指標
	タデ	ミゾソバ	湿地の指標
	ヒユ	ハママツナ	塩性湿地の指標
	サクラソウ	ヤブコウジ	中間温帯林の自然環境の指標
	サクラソウ	サクラソウ	湿地の指標
	ツバキ	ヤブツバキ	暖温帯林の指標
	イワウメ	コイワウチワ	冷温帯の尾根の指標
	ツツジ	ウメガサソウ	海岸防潮林の自然環境の指標
	ツツジ	ヤマツツジ	丘陵二次林の尾根の人為的自然環境の指標
	ツツジ	シロヤシオ	冷温帯の尾根の指標
	アオキ	アオキ	暖温帯林・中間温帯林の指標
	ヒルガオ	ハマヒルガオ	砂浜海岸の指標
	モクセイ	イボタノキ	湿地の指標
	オオバコ	オオバコ	踏跡群落の人為自然環境の指標
	サギゴケ	ムラサキサギゴケ	水田の人為自然環境の指標
	モチノキ	アカミノイヌツゲ	冷温帯山地帯の尾根の自然環境の指標
	キキョウ	キキョウ	二次草原の人為的自然環境の指標
	キク	オクモミジハグマ	丘陵二次林の人為自然環境の指標
	キク	キッコウハグマ	中間温帯林の指標
	キク	オケラ	丘陵二次林の尾根の人為的自然環境の指標
	キク	アズマギク	二次草原の人為的自然環境の指標
	キク	アキノキリンソウ	丘陵二次林の人為自然環境の指標
	キク	エゾタンポポ	畑地・果樹園の人為的自然環境の指標
	ガマズミ	オオカメノキ	冷温帯山地帯森林の自然環境の指標
	スイカズラ	オミナエシ	二次草原の人為的自然環境の指標

表 3.1-8 環境指標種（哺乳類）

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
哺乳類 (24種)	トガリネズミ	シントウトガリネズミ	自然度が高い山地森林の環境指標
	トガリネズミ	ホンシュウジネズミ	土壌が損なわれていない土地の環境指標
	トガリネズミ	カワネズミ	自然度が高い溪流の環境指標
	モグラ	ヒメヒミズ	森林の環境指標
	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	森林の環境指標
	キクガシラコウモリ	ニホンキクガシラコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	自然林の環境指標
	ヒナコウモリ	カグヤコウモリ	人為的攪乱の少ない自然林を指標
	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ	山地の自然林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	大木のある森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ウサギコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	ユビナガコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	コテングコウモリ	森林の環境指標
	ヒナコウモリ	テングコウモリ	森林の環境指標
	リス	ムササビ	滑空に利用できる高木の多い森林の環境指標
	ネズミ	ハタネズミ	草原・草地の環境指標
	ネズミ	ヒメネズミ	自然度が高い林の環境指標
	ネズミ	ホンシュウカヤネズミ	高茎草地の環境指標
	イヌ	タヌキ	里地の環境指標
	イタチ	テン	山地、森林の環境指標
	イタチ	イタチ	多様な動物相が保たれている水辺周囲の環境指標
	ウシ	カモシカ	山地の環境指標

表 3.1-9 (1) 環境指標種 (鳥類 1/2)

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
鳥類 (47種)	キジ	ヤマドリ	森林の環境指標
	カイツブリ	カイツブリ	水域の環境指標
	サギ	ヨシゴイ	湿地の環境指標
	サギ	アマサギ	湿地や草原の環境指標
	サギ	コサギ	水辺の環境指標
	クイナ	バン	湿地の環境指標
	カッコウ	ホトトギス	里山の環境の指標
	カッコウ	カッコウ	里山の環境の指標
	ヨタカ	ヨタカ	森林の環境指標
	チドリ	イカルチドリ	礫河原の環境指標
	チドリ	シロチドリ	砂浜の環境指標
	シギ	ハマシギ	干潟や海浜の環境指標
	ミサゴ	ミサゴ	水域(河口域など)の環境指標
	タカ	チュウヒ	湿地や草原の環境指標
	タカ	オオタカ	里山の環境指標
	タカ	ノスリ	里山の環境指標
	タカ	イヌワシ	良好な山地森林の環境指標
	タカ	クマタカ	森林における良好な生態系の環境指標
	フクロウ	コノハズク	山地の自然度が高い森林の環境指標
	フクロウ	フクロウ	森林や里地の環境指標
	フクロウ	アオバズク	里地の環境指標
	フクロウ	コミミズク	田園地帯や草原の環境指標
	カワセミ	カワセミ	魚が多く棲む水辺の環境指標
	カワセミ	ヤマセミ	溪流の環境指標
	キツツキ	アオゲラ	山地や丘陵の林の環境指標
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	平地や丘陵の林の環境指標
	モズ	モズ	里地・里山の環境指標
	ヒバリ	ヒバリ	農耕地や草原の環境指標
	ツバメ	ツバメ	市街地も含め、人里の環境指標
	ウグイス	ウグイス	里地・里山の環境指標
	ムシクイ	センダイムシクイ	森林の環境指標
	ヨシキリ	オオヨシキリ	水辺の環境指標
	ヨシキリ	コヨシキリ	湿性草地の環境指標
	セッカ	セッカ	草原の環境指標
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	山地の広葉樹林や混交林の環境指標
	カワガラス	カワガラス	清流の環境指標

表 3.1-9 (2) 環境指標種 (鳥類 2/2)

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
鳥類 (47種)	ヒタキ	トラツグミ	森林や里地の環境指標
	ヒタキ	クロツグミ	森林や里地の環境指標
	ヒタキ	シロハラ	林の環境指標
	ヒタキ	コルリ	山地森林の環境指標
	ヒタキ	コサメビタキ	里山の環境指標
	ヒタキ	キビタキ	明るい森林(二次林, 里山)の環境指標
	ヒタキ	オオルリ	林の環境指標
	セキレイ	セグロセキレイ	水辺の環境指標
	セキレイ	キセキレイ	水辺の環境指標
	ホオジロ	ホオジロ	林縁や疎林及び二次的環境の指標
	ホオジロ	ホオアカ	草原や広い湿原の環境指標

表 3.1-10 環境指標種 (爬虫類)

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
爬虫類 (6種)	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	低山から平地・住宅地にかけての林や草むらの指標
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	低山から平地・住宅地にかけての林や草むらの指標
	ナミヘビ	アオダイショウ	低山から平地・住宅地にかけての良好な自然環境の指標
	ナミヘビ	ジムグリ	森林の環境指標
	ナミヘビ	ヒバカリ	森林の環境指標
	ナミヘビ	ヤマカガシ	水田の環境指標

表 3.1-11 環境指標種 (両生類)

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
両生類 (10種)	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	林や森林の環境指標
	サンショウウオ	クロサンショウウオ	林や森林の環境指標
	サンショウウオ	キタオウシュウサンショウウオ	山地溪流の環境指標
	イモリ	アカハライモリ	里山の環境指標
	アマガエル	ニホンアマガエル	都市部における水辺の環境指標
	アカガエル	トウキョウダルマガエル	田園の環境指標
	アカガエル	ツチガエル	小川や池沼の環境指標
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	良好な水田環境の指標
	アオガエル	モリアオガエル	山地森林の環境指標
	アオガエル	カジカガエル	清流の環境指標

表 3.1-12 環境指標種（魚類）

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
魚類 (10種)	ウナギ	ニホンウナギ	シラスウナギで遡上し川で生活する魚で、魚がのぼりやすい川の環境指標
	コイ	ウグイ	中流の魚で、きれいな水（水質階級Ⅰ）の環境指標
	ドジョウ	ドジョウ	水田や浅い湿地で産卵を行い泥中で越冬する魚で、良好な水田の環境指標
	ドジョウ	ホトケドジョウ	冷水性の魚で、開発の手が及びやすい丘陵地の小川の環境指標
	アユ	アユ	中流の魚で、魚がのぼりやすい川と少し汚れた水（水質階級Ⅱ）の環境指標
	サケ	サクラマス	成魚が春に遡上し秋に上流で産卵する魚で、魚がのぼりやすい川の環境指標
	サケ	サクラマス(ヤマメ)	冷水性の魚で、川の溪流や上流の環境指標
	メダカ	ミナミメダカ	止水性の魚で、行き来ができる用水路と田んぼの環境指標
	カジカ	カジカ	上流や中流の川底が浮石の場所に住む魚で、きれいな水（水質階級Ⅰ）の環境指標
	ハゼ	ヒモハゼ	干潟の魚で、良質な砂泥の場所の環境指標

表 3.1-13 環境指標種（昆虫類）

分類群	科名	種名	指標する環境の内容
昆虫類 (29種)	ムカシトンボ	ムカシトンボ	源流部の自然度の高さの指標
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	山間部の溪流、湧水環境の環境指標
	トンボ	ハッチョウトンボ	湧水のある湿地環境の指標
	トンボ	ナツアカネ	水田の環境指標
	トンボ	アキアカネ	水田の環境指標
	バッタ	ヤマトマダラバッタ	自然植生の豊かな広い砂浜の環境指標
	バッタ	カワラバッタ	礫河原の環境指標
	セミ	エゾゼミ	マツ林など針葉樹林の環境指標
	コオイムシ	タガメ	水生生物が生活できる水環境の指標
	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ	人手の入らない自然な海岸砂丘の環境指標
	ボクトウガ	ハイイロボクトウ	湿地（ヨシ原）の環境指標
	シジミチョウ	スギタニルリシジミ本州亜種	トチノキ林の環境指標
	シジミチョウ	ジョウザンミドリシジミ	ミズナラ林の環境指標
	シジミチョウ	オオゴマシジミ	ブナ林の環境指標
	シジミチョウ	フジミドリシジミ	ブナ林の環境指標
	ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	イネ科植物を主とした草原の環境指標
	タテハチョウ	オオムラサキ	エノキ・エゾエノキ高木を含む林の指標種
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	市街地の緑地の環境指標
	アゲハチョウ	ヒメギフチョウ本州亜種	利用され手入れされている雑木林の環境指標
	オサムシ	ヒョウタンゴミムシ	自然な砂浜の環境指標
	ハンミョウ	カワラハンミョウ	人手の入らない広い自然砂丘の環境指標
	ハンミョウ	ナミハンミョウ	裸地の環境指標
	クワガタムシ	ミヤマクワガタ	手入れのされた雑木林の環境指標
	クワガタムシ	オニクワガタ	ブナ林の環境指標
	クワガタムシ	ノコギリクワガタ	手入れのされた雑木林の環境指標
	コガネムシ	ヤマトケシマグソコガネ	良好な砂浜海岸の環境指標
	ホタル	ゲンジボタル	カワニナの生息する清流の環境指標
	ホタル	ヒメボタル	陸産貝類が生息する湿潤な樹林の環境指標
	ゴミムシダマン	ハマヒョウタンゴミムシダマン	自然な砂浜の環境指標

以上により選定した仙台市内における保全上重要な種は、3.1.3 節および 3.1.4 節に示す。

表 3.1-14 選定理由票様式

No.3							目録No.16		
種和名: イワヒバ		学名: <i>Selaginella tamariscina</i>					イワヒバ科		
調査年	(1)学術上重要種	保全上重要な種					(3)環境指標種	RDB種	
		(2)減少種※1						国RL	県RDB
		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜			
H22(2010)	1	B	B				○		
H28(2016)	1	B	B	・	・	・	○		
R3(2021)	1	B	B	・	・	・	○		
【減少の要因】※2									
①気候の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
②人為的開発	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
③捕獲、採取	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
④外来種による影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑤二次的環境の放置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑥震災影響(自然撓乱)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑦震災影響(人為的影響)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑧その他・原因不明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
【備考】									
岩上や岸壁上に生育。冷温帯の岩壁を指標。園芸植物として乱獲。分布地: ●●区●●(1961年), ●●(1994年), ●●区●●(2008年), ●●区●●(確認年不明)									

確認年情報があれば記載

※1: 減少の程度の判断は、R3(2021年)はH22(2010年)頃との比較によるものである。
 H22(2010年)は1970年代との比較によるため、灰色網掛けとしている。
 ※2: ①気候の変化…温暖化等による生息・生育地の環境の変化, ②人為的開発…都市的土地利用への転換による生息・生育地の減少, ③捕獲、採取…過剰な捕獲、採取による減少, ④外来種による影響…外来種による生息・生育地の競合, 捕食による減少, ⑤二次的環境の放置…里山等人為的な管理により維持されてきた環境の劣化, ⑥震災影響(自然撓乱)…東日本大震災に伴う津波による減少, ⑦震災影響(人為的影響)…東日本大震災後の復旧・復興事業に伴う減少, ⑧原因不明…減少の原因が不明

表 3.1-15 選定理由票様式 (絶滅・野生絶滅)

No.42							目録No.1091		
種和名: クロシジミ		学名: <i>Niphanda fusca</i>					シジミチョウ科		
調査年	(1)学術上重要種	保全上重要な種					(3)環境指標種	RDB種	
		(2)減少種※1						国RL	県RDB
		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜			
H22(2010)	1		A	A			CR+EN	CR+EN	
H28(2016)	1	A	・	EX	/	/	EN	CR+EN	
R3(2021)	1	EX	・	EX	/	/	EN	EX	
【絶滅の要因】※2									
①気候の変化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
②人為的開発	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
③捕獲、採取	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
④外来種による影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑤二次的環境の放置	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑥震災影響(自然撓乱)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑦震災影響(人為的影響)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
⑧その他・原因不明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
【備考】									
本種の生息地は、クスギ、コナラ、カシワなどの疎林、ススキを主とした草地、マツ、カラマツ等の幼木がある草地等である。幼虫は若齢期にアブラムシやキジラミの分泌液を食し、その後、クロオオアリによってアリの巣に運ばれた後、アリから餌を供給される。減少要因として、草地の管理方法の変化、開発による生息地の消滅があげられる。分布地: ●●、●●は開発によって絶滅, ●●の絶滅の原因は不明, ●●区、●●区(市内では1992年の記録が最後)。稀産種であり、仙台市における産地において近年の確認記録はないことから絶滅と評価した。									

非分布の地域とかつて生息していた地域に分けて評価

※1: 減少の程度の判断は、R3(2021年)はH22(2010年)頃との比較によるものである。
 H22(2010年)は1970年代との比較によるため、灰色網掛けとしている。
 ※2: ①気候の変化…温暖化等による生息・生育地の環境の変化, ②人為的開発…都市的土地利用への転換による生息・生育地の減少, ③捕獲、採取…過剰な捕獲、採取による減少, ④外来種による影響…外来種による生息・生育地の競合, 捕食による減少, ⑤二次的環境の放置…里山等人為的な管理により維持されてきた環境の劣化, ⑥震災影響(自然撓乱)…東日本大震災に伴う津波による減少, ⑦震災影響(人為的影響)…東日本大震災後の復旧・復興事業に伴う減少, ⑧原因不明…減少の原因が不明

3.1.3 保全上重要な植物種

(1) 植物相の概要

海岸から奥羽脊梁山脈まで市域が広がっており、本市で最も標高の高い船形山(標高1500.2m)の山頂付近ではキンロバイ、ウスユキソウ、コケモモなどの高山から亜高山帯の植物が、沿岸部ではアカガシ、シロダモなどの暖地系の植物が生育しているなど、植物相は多様である。また、丘陵地帯は暖温帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域で、しかもその領域が広い面積を占めることが特徴である。この領域ではモミーイヌブナ林の発達がみられ、暖地系の植物、寒地系の植物の両方が見られるなど、植物相は非常に多様である。

また、仙台市は太平洋側に位置するが、チシマザサ、タニウツギ、ナガハシスミレなど、多雪の日本海側の地域に特徴的に見られる日本海側要素と呼ばれる植物を含んでいることも多様な植物相を構成する一因となっている。日本海側要素の植物は主に山地帯以高(標高約400m以上)に分布するが、種によっては海岸近くまで分布するものもある。

平成23(2011)年に発生した震災とそれに伴う津波により、海浜地域のクロマツ林(防潮林)の大部分が消失したほか、干潟や砂浜、東部田園地域の植生は大きな影響を受けた。現在新たにクロマツの植林が完了しているが、元の樹林地環境に戻るには年月がかかる。その一方で、ハママツナなど、生育地・個体数が拡大・増加している種や、被災樹林内などに新たに成立した湿地においてはヨシやヒメガマなどが優先する湿性植物群落の成立もみられた。また震災後の復旧・復興事業等により、海浜地域・東部田園地域の改変が続いており、その環境の変化に注視していく必要がある。

(2) 選定結果(植物)

本調査においては、表 3.1-16に示す457種を「保全上重要な種(植物)」として選定した。作成した「選定理由票」は別冊資料として示す。

第4回調査時(H28(2016))から56種を追加し、16種を除外した。その一覧は、表 3.1-17及び表 3.1-18に示すとおりである。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（1/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	ヒカゲノカズラ	スギラン	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
2	イワヒバ	ヒモカズラ	1	・	・	・	・	・				
3		イワヒバ	1	B	B	・	・	・	○			
4	ミズニラ	ミズニラ	1	・	B	・	A	・		NT	NT	
5	トクサ	イヌスギナ		・	B	・	B	・				
6	ゼンマイ	ヤシヤゼンマイ	1	C	C	・	・	・			NT	
7	コケシノブ	コウヤコケシノブ	1	・	・	・	・	・				
8		ホソバコケシノブ		B	B	・	・	・			NT	
9		ヒメハイホラゴケ	1	・	・	・	・	・				
10	サンショウモ	サンショウモ	1	・	・	EX	A	A		VU	NT	
11	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	1, 2	・	B	C	C	・				
12		イノモトソウ	1, 2	・	・	・	・	・			NT	
13	ナヨシダ	ウサギシダ	1	・	・	・	・	・			VU	
14	チャセンシダ	コタニワタリ		・	B	・	・	・				
15	ヒメシダ	ヒメワラビ	2	・	B	B	B	・				
16	コウヤワラビ	イヌガンソク		・	C	・	C	・				
17		クサソテツ		・	B	・	C	・				
18	メシダ	シケチシダ	1, 2	・	・	・	・	・			YO	
19		ホソバイスワラビ		・	C	・	・	・			NT	
20		ヒロハイスワラビ	2	・	・	A	・	・			CR+EN	
21		ヤリノホシケシダ	1	・	・	・	・	・			NT	
22	オンシダ	ハカタシダ	1, 2	・	・	・	・	・			CR+EN	
23		リョウメンシダ		・	B	・	・	・	○			
24		オンシダ		・	B	・	・	・				
25		オオクジャクシダ	1	・	・	・	・	・				
26		ニオイシダ	1, 4	B	・	・	・	・			VU	
27		オオベニシダ	1, 2	・	・	・	・	・				
28		ギフベニシダ	1, 2	・	・	・	・	・			CR+EN	
29		キヨスミヒメワラビ	1, 2	・	・	・	・	・			VU	
30		ナンタイシダ	1, 2	・	・	・	・	・			YO	
31		アスカイノデ	2	・	・	・	・	・				
32		アイアスカイノデ	2	・	・	・	・	・				
33		イワシロイノデ		・	B	・	・	・				
34		イノデ	2	・	・	・	・	・				
35		サカゲイノデ		・	B	・	・	・				
36		ジュウモンジシダ		・	B	・	・	・	○			
37	ウラボシ	ヒメサジラン	1	B	・	・	・	・			VU	
38		エゾデンダ		B	・	・	・	・			VU	
39		イワオモダカ	1	B	・	・	・	・			VU	
40	マツ	モミ		・	C	・	・	・	○			
41		キタゴヨウ	4	B	・	・	・	・				
42		ハイマツ	1, 4	C	・	・	・	・	○			
43	イチイ	カヤ		・	B	・	・	・				
44	スイレン	オニバス	1	・	・	・	EX	・		VU	EX	
45	マツブサ	チョウセンゴミシ		・	A	・	・	・			CR+EN	
46	ドクダミ	ハンゲショウ		・	・	・	・	B	・		VU	
47	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		・	・	C	C	・			NT	
48		トウゴクサイシン		・	B	・	・	・	○			
49	モクレン	タムシバ		・	・	・	・	・	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（2/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
50	クスノキ	ヤマコウバシ	1, 2	・	B	・	・	・				
51		オオバクロモジ		・	・	・	・	・	○			
52		シロダモ	2	・	+	・	+	+	○			
53	サトイモ	ヒメカイウ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
54		ミズバショウ		・	B	・	・	・	○			
55		ヒメザゼンソウ		・	B	・	C	・				
56	オモダカ	ヘラオモダカ		・	C	・	B	・	○			
57		サジオモダカ		・	C	・	B	・	○		NT	
58		アギナシ		・	C	・	B	・	○	NT	VU	
59		ウリカワ		・	A	・	A	・	○		NT	
60		オモダカ		・	C	・	B	・	○			
61		ホソバオモダカ		・	C	・	B	・	○			
62	トチカガミ	クロモ		・	B	・	A	・	○			
63		トチカガミ		・	・	・	B	B		NT	VU	
64		ヒロハトリゲモ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
65		イトトリゲモ	1	・	B	・	A	・		NT	NT	
66		ホッスモ		B	・	・	・	・			VU	
67		トリゲモ	1	・	B	・	A	・		VU	CR+EN	
68		ミズオオバコ	1	・	B	・	B	・		VU	VU	
69		コウガイモ		・	・	・	A	・			VU	
70		シバナ	マルミノシバナ	1	・	・	・	・	B	○	NT	CR+EN
71	ヒルムシロ	イトモ	1	・	C	・	B	・		NT	NT	
72		エビモ		・	B	・	B	・	○			
73		コバノヒルムシロ		・	C	・	B	・	○	VU	VU	
74		ヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
75		フトヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
76		カモガワモ		・	C	・	B	・	○			
77		センニンモ		・	C	・	B	・	○		VU	
78		オヒルムシロ		・	C	・	B	・	○			
79		ホソバミズヒキモ		・	C	・	B	・	○		VU	
80			リュウノヒゲモ		・	・	・	・	B		NT	VU
81	シュロソウ	ショウジョウバカマ		・	B	・	・	・	○			
82	サルトリイバラ	マルバサンキライ		・	A	・	・	・			VU	
83	ユリ	カタクリ		・	B	B	B	・				
84		コオニユリ		・	B	・	B	B				
85		ミヤマスカシユリ	1	A	・	B	・	・		EN	VU	
86	ラン	コアニチドリ	1	A	・	・	・	・		VU	CR+EN	
87		エビネ	1	・	A	・	・	・		NT	VU	
88		キンセイラン	1	・	B	・	・	・		VU	CR+EN	
89		サルメンエビネ	1	・	B	・	・	・		VU	CR+EN	
90		キンラン	1	B	B	・	・	・		VU	VU	
91		クゲヌマラン	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
92		ユウシュンラン	1	・	B	・	・	・		VU	NT	
93		シュンラン		・	C	・	C	・	○			
94		コアツモリソウ	1	・	B	・	・	・		NT	VU	
95		クマガイソウ	1	B	A	・	・	・		VU	CR+EN	
96		アツモリソウ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	特一
97		イチヨウラン	1	・	・	・	・	・			CR+EN	

注．網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（3/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存	
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
98	ラン	セッコク	1	EX	EX	・	・	・			CR+EN		
99		ハマカキラン	1	・	・	・	・	A		VU	VU		
100		エゾスズラン	1	・	A	・	・	・			VU		
101		アオキラン	1	・	・	・	・	・		CR	CR+EN		
102		カモメラン	1	B	・	・	・	・		NT	CR+EN		
103		オノエラン	1	B	・	・	・	・					
104		マツラン	1	・	B	・	・	B		VU	CR+EN		
105		シロテンマ			A	A	・	・	・		CR	CR+EN	
106		ミズトンボ	1	・	A	・	B	・		VU	CR+EN		
107		オオミズトンボ	1	・	B	・	・	・		EN	CR+EN		
108		ムカゴソウ	1	・	・	・	・	・		EN	VU		
109		ハクウンラン	1	・	・	・	・	・			VU		
110		ギボウシラン	1	C	・	・	・	・		EN	CR+EN		
111		フガクズムシソウ	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN		
112		ジガバチソウ			・	C	・	・	・			NT	
113		クモキリソウ	1, 4	・	B	・	・	B					
114		ノビネチドリ			B	・	・	・	・			VU	
115	コフタバラン			・	A	・	・	・			CR+EN		
116	サカネラン	1	A	・	・	・	・		VU	CR+EN			
117	タンザワサカネラン	1	・	A	A	・	・	・		EN	CR+EN		
118	ヒメフタバラン	2	・	・	・	・	・				YO		
119	ミヤマモジズリ	1	B	・	・	・	・	・			CR+EN		
120	サギソウ	1	B	A	・	・	・		NT	CR+EN			
121	ミズチドリ			B	B	・	・	・			VU		
122	イヌマムカゴ	1	・	・	・	・	・		EN	CR+EN			
123	ツレサギソウ			B	B	・	A	・			VU		
124	マイサギソウ	1	・	・	・	・	・				CR+EN		
125	ヤマサギソウ			B	・	・	・	・			VU		
126	オオバトンボソウ			・	B	・	・	・			VU		
127	トキシソウ	1	・	・	A	・	・	・		NT	VU		
128	ヤマトキシソウ			・	A	A	・	・			CR+EN		
129	ウチョウラン	1	B	A	・	・	・		VU	CR+EN			
130	ヒナチドリ	1	・	・	A	・	・	・		VU	CR+EN		
131	ネジバナ			・	B	・	B	・	○				
132	カヤラン	1	・	・	B	・	・	B			VU		
133	ヒトツボクロ			C	C	C	C	C			NT		
134	ショウキラン	1	B	・	・	・	・	・			CR+EN		
135	ヒメノヤガラ	1	・	・	・	・	・	・		VU	VU		
136	キンバイザサ	コキンバイザサ	1, 2	・	・	EX	・	・			EX		
137	アヤメ	ヒオウギ	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
138		ノハナショウブ	1	・	・	C	・	・	○				
139		ヒメジャガ			・	B	B	・	・	○	NT	NT	
140		カキツバタ	1	・	・	B	・	A	・		NT	VU	
141		アヤメ			・	C	・	・	C			NT	
142	ススキノキ	ゼンテイカ		・	B	B	B	・					
143	ヒガンバナ	ヤマラッキョウ		・	・	B	・	・			VU		

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（4/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存	
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
144	クサスギカズラ	スズラン		・	B	・	・	・			VU		
145		ヒメヤブラン		・	C	・	・	+	○				
146		ユキザサ		・	C	・	・	・	○				
147		オオバジャノヒゲ		・	B	・	・	C					
148		ヒメイズイ		・	・	・	・	C			NT		
149	ミズアオイ	ミズアオイ		・	・	・	B	・	○	NT	NT		
150		コナギ		・	・	・	C	・	○				
151	ガマ	ミクリ	1	・	B	・	B	・	○	NT	NT		
152		ヤマトミクリ	1	・	A	・	A	・		NT	CR+EN		
153		タマミクリ	1	A	・	・	・	・		NT	CR+EN		
154		ナガエミクリ	1	・	A	・	A	・		NT	NT		
155		ヒメミクリ	1	・	B	・	・	・		VU	VU		
156		ヒメガマ		・	C	C	C	・					
157		ガマ		・	C	C	C	・	○				
158	ホシクサ	ホシクサ	1	C	・	・	・	・			NT		
159	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ		・	・	・	・	B			VU		
160	カヤツリグサ	サナギスゲ		・	A	・	・	・			CR+EN		
161		ハコネイトスゲ		・	A	・	・	・			CR+EN		
162		ヤマクボスゲ	1	・	・	・	・	・		NT	VU		
163		コウボウムギ		・	・	・	・	B	○				
164		タチスゲ	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
165		タヌキラン		・	・	・	・	・	○				
166		マメスゲ	1	・	・	・	・	・			CR+EN		
167		オオカサスゲ			B	B	・	・	・				
168		オオクグ	1	・	・	・	・	B			NT	NT	
169		ツルカミカワスゲ			C	・	・	・	・			NT	
170		センダイスゲ	4	・	・	・	・	・					
171		オニナルコスゲ			C	・	・	・	C				
172		オオシロガヤツリ			C	・	・	・	・			NT	
173		スジヌマハリイ	1	・	・	・	・	・	・		VU	VU	
174	サギスゲ			C	C	・	・	・			NT		
175	ナガボテンツキ	2	・	・	・	・	・	・			VU		
176	タチヒメクグ		・	B	・	・	・	・			VU		
177	カンガレイ		・	B	・	B	・	・					
178	オオフトイ		・	C	・	・	・	・					
179	フトイ		・	B	・	B	・	・					
180	サンカクイ		・	B	・	B	・	・					
181	コシシジュガヤ		・	B	B	・	・	・			VU		
182	ノグサ		・	B	・	・	・	・			VU		
183	イネ	ヒメコスカグサ		C	C	C	・	・		NT	NT		
184		ヤマアワ		・	B	・	・	B					
185		フサガヤ		B	・	・	・	・			VU		
186		ヒナザサ		・	B	B	・	・		NT	VU		
187		メヒシバ		・	・	・	・	・	○				
188		カゼクサ		・	B	C	C	・	○				
189		オオウシノケグサ	4	・	B	・	B	C	○				
190		ウキガヤ		・	・	C	C	・	・		NT		
191		ケカモノハシ		・	・	・	・	B	○				

注．網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（5/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
192	イネ	カモノハシ	1	・	・	・	・	B				
193		エゾノサヤヌカグサ		・	・	・	C	・				
194		テンキグサ	1, 4	・	・	・	・	C	○			
195		オギ		・	C	C	C	C	○			
196		アイアシ	1	・	・	・	・	C	○		NT	
197		ヨシ		・	C	C	C	C	○			
198		ツルヨシ		・	C	C	C	・	○			
199			タチイチゴツナギ		B	B	B	・	・		EN	VU
200		ハマヒエガエリ		・	・	・	・	A			VU	
201		タチドジョウツナギ	1	・	・	・	・	C			YO	
202		アキウネマガリ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
203		スズタケ		・	C	・	・	・	○			
204		センダイザサ	3	・	・	・	・	・				
205		ケスズ	1	・	B	・	・	・				
206		スエコザサ	3	・	・	・	・	・				
207		ヒメスズタケ		・	C	・	・	・			NT	
208		ネズミノオ		・	・	・	C	・	○			
209		ヒゲシバ		C	C	C	・	・			NT	
210		マコモ		・	B	・	B	・	○			
211		シバ		・	B	B	B	・	○			
212	マツモ	マツモ	1	・	・	・	A	・				
213		ヨツハリキンギョモ	1, 2	・	・	・	A	・				
214	ケン	ナガミノツルケマン	1	・	C	・	・	・		NT	NT	
215		ヤマブキソウ	1	・	B	・	・	・			NT	
216	メギ	トガクシショウマ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
217	キンボウゲ	センウズモドキ		C	C	・	・	・		VU	NT	
218		ウゼントリカブト		B	B	・	・	・		VU	VU	
219		フクジュソウ	1	・	B	・	・	・			VU	
220		ニリンソウ		・	B	・	B	・	○			
221		キクザキイチゲ		C	B	・	B	・	○			
222		レンゲショウマ	1	・	B	・	・	・			NT	
223		リュウキンカ		・	・	・	・	・	○			
224		カザグルマ	1	・	B	・	B	・		NT	VU	
225		トウゴクサハノオ	1	・	B	・	・	・			NT	
226		シラネアオイ		B	B	・	・	・	○		NT	
227		スハマソウ		・	B	・	・	・			NT	
228		オキナグサ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	
229		コキツネノボタン	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
230		バイカモ	1	・	B	・	・	・			NT	
231	ボタン	ヤマシャクヤク	1	B	B	・	・	・		NT	VU	
232		ベニバナヤマシャクヤク	1	A	A	・	・	・		VU	VU	
233	ユズリハ	ユズリハ	1, 2	・	C	・	C	C				
234	スグリ	ザリコミ	1	A	・	・	・	・			CR+EN	
235		トガスグリ	1	・	・	・	・	・			VU	
236	ユキノシタ	トリアシショウマ		C	B	・	B	・				
237		コガネネコノメソウ	1, 2	・	・	・	・	・				
238		エゾクログクモソウ	1	・	・	・	・	・				
239		コチャルメルソウ		・	・	・	・	・	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（6/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存			
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜							
240	ユキノシタ	シコタンソウ	1	A	・	・	・	・			CR+EN				
241		ダイモンジソウ		・	・	・	・	・	○						
242		ユキノシタ			・	B	B	・	・						
243	ベンケイソウ	チチツバベンケイ	1	・	・	・	・	・							
244		キリンソウ		・	・	・	・	・	○						
245		ミヤママンネングサ			B	・	・	・	・			VU			
246	タコノアシ	タコノアシ		・	B	・	C	・		NT	NT				
247	アリノトウグサ	タチモ	1	・	・	・	・	・		NT	VU				
248	マメ	タスキマメ		・	・	EX	・	・				CR+EN			
249		イワオウギ			A	・	・	・	・			NT			
250		マルバヌスビトハギ	1	・	・	・	C	・				NT			
251		エゾレンリソウ			C	C	C	C	C			NT			
252		レンリソウ			・	B	B	B	B			VU			
253		ツクシハギ			・	B	・	B+	・	○					
254		イヌハギ	1		・	・	・	・	・		VU	NT			
255		マキエハギ	1		・	・	・	・	・				NT		
256		トキリマメ			・	C	・	・	・				NT		
257		センダイハギ	1		・	・	・	・	B				CR+EN		
258	ニレ	オヒョウ			C	・	・	・	・						
259		ケヤキ			C	C	B	B	・	○					
260	アサ	エノキ	4		・	B	B	B	・						
261	イラクサ	マルバヤブマオ	1		・	B	・	・	・				VU		
262		トキホコリ	1		・	B	B	・	・		VU	VU			
263		タチゲヒカゲミズ	2		A	・	・	・	・		VU	CR+EN			
264		コケミズ	1		・	・	・	・	・				NT		
265	バラ	ザイフリボク	1		・	B	・	・	・						
266		カスミザクラ			・	C	・	・	・	○					
267		ミヤマザクラ				A	・	・	・	・			CR+EN		
268		キンロバイ	1		・	・	・	・	・		VU	CR+EN			
269		ヤマブキ			・	C	・	・	・	○					
270		イワキンバイ			・	・	・	・	・	○					
271		ヒロハノカワラサイコ			・	B		・	・		VU	NT			
272		エチゴキジムシロ				B	B	・	・	・			YO		
273		オオタカネバラ	1		・	・	・	・	・				CR+EN		
274		ハマナス	4		/	/	/	/	B	○			NT		
275		タカネバラ				C	・	・	・	・				NT	
276		ミヤマウラジロイチゴ	1		・	・	・	・	・				CR+EN		
277		ヒメゴヨウイチゴ				B	・	・	・	・				VU	
278		サナギイチゴ			・	B	・	・	・		VU	NT			
279		カジイチゴ	1, 2		・	・	・	C	C						
280	ブナ	ブナ	4		C	B	・	・	・						
281		イヌブナ	1, 4		・	B	・	・	・	○					
282		アカガシ	2		・	C	C	C	C	○					
283		アオナラガシワ	1		・	・	・	・	・						
284		ミズナラ				C	B	・	・	・					
285		アラカシ	1, 2		・	C	・	・	・				YO		
286		シラカシ	2		・	C	C	C	/	○					
287		ウラジロガシ	2		・	C	C	C	/						

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（7/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
288	クルミ	オニグルミ		・	B	B	B	・	○			
289	カバノキ	ハンノキ	1, 4	・	C	・	B	C	○			
290		ネコシデ		C	・	・	・	・			NT	
291		ミズメ		C	C	・	・	・				
292		ウダイカンバ	4	C	C	・	・	・				
293		サワシバ		C	B	・	・	・	○			
294		アカシデ		C	B	・	・	/	○			
295		イヌシデ	4	C	B	・	・	C	○			
296	トウダイグサ	ノウルシ		・	・	・	C	・		NT	NT	
297		マルミノウルシ		・	B	・	・	・		NT	VU	
298	ヤナギ	トカチヤナギ	1	B	・	・	・	・			NT	
299		ネコヤナギ	4	・	C	C	・	・	○			
300		シライヤナギ	1	・	・	B	・	・			VU	
301		キツネヤナギ		・	C	・	・	・	○			
302	スマレ	キバナノコマノツメ		A	・	・	・	・			VU	
303		ヒゴスミレ		A	・	・	・	・			CR+EN	
304		サクラスマレ	1	・	B	・	・	・				
305		ナガハシスマレ	1	・	B	・	B	・				
306		フモトスマレ	1	・	B	・	・	・			VU	
307	オトギリソウ	オシマオトギリ		B	B	・	・	・			VU	
308	フウロソウ	コフウロ	1	A	・	・	・	・			NT	
309	ミノハギ	ミズマツバ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
310		ヒメビシ		・	A	・	・	・		VU	CR+EN	
311		ヒシ		・	B	・	B	・	○			
312	アカバナ	ウスゲヤナギラン		A	・	・	・	・			CR+EN	
313	ムクロジ	ヤマモミジ		・	B	・	・	・	○			
314		ハウチワカエデ		・	C	・	・	・				
315		メグスリノキ	1	・	B	・	・	・				
316		イタヤカエデ(広義)		・	C	・	・	・				
317		ウリハダカエデ		・	C	・	・	・				
318		ナンゴクミネカエデ		・	・	・	・	・	○			
319		トチノキ		C	C	・	・	・				
320	ミカン	ミヤマシキミ	1	・	C	・	・	C				
321	アオイ	カラスノゴマ	1	・	A	・	・	・			NT	
322	アブラナ	ハマハタザオ		・	・	・	C	C			NT	
323		ナズナ		・	B	B	B	・	○			
324		ミズタガラシ		・	・	・	B	・			VU	
325		エゾハタザオ		・	・	C	・	・			NT	
326		ハタザオ		・	・	B	B	B			VU	
327	ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
328	タデ	ムカゴトラノオ		A	・	・	・	・			NT	
329		ヒメタデ		・	・	・	B	・		VU	VU	
330		ヤナギスカボ	1	・	・	・	C	・		VU	NT	
331		イスタデ		・	・	・	・	・	○			
332		サデクサ	1	・	・	・	C	・			NT	
333		スカボタデ		・	・	C	C	C		VU	NT	
334		ミゾソバ		・	C	B	C	・	○			
335		ノダイオウ	1, 4	・	C	・	C	・		VU	NT	
336		マダイオウ		・	A	・	・	・			CR+EN	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（8/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
337	モウセンゴケ	モウセンゴケ		・	C	・	・	C				
338	ナデシコ	カワナナデシコ		・	C	・	・	C				
339		タカネナデシコ		B	・	・	・	・			VU	
340		ナンブワチガイソウ	1	・	C	・	・	・		VU	NT	
341		シラオイハコベ	1	・	・	・	・	・			CR+EN	
342		ナガバツメクサ		・	・	EX	EX	EX			EX	
343	ヒユ	ハマアカザ		・	・	・	B	B			NT	
344		ハママツナ	2	・	・	・	・	B	○		NT	
345	ザクロソウ	ザクロソウ	1	・	・	・	・	・				
346	サクラソウ	ヤブコウジ		・	・	・	・	・	○			
347		クリンソウ	1	B	B	・	・	・			VU	
348		サクラソウ	1	・	A	・	・	・	○	NT	CR+EN	
349		ユキワリコザクラ	1	C	・	・	・	・			NT	
350	ツバキ	ヤブツバキ		・	B	B	B	B	○			
351	イワウメ	コイワウチワ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
352	エゴノキ	オオバアサガラ	1	・	A	・	・	・				
353	ツツジ	ウメガサソウ		・	C			C	○			
354		コバナイチヤクソウ		C	・	・	・	・			NT	
355		ベニバナイチヤクソウ	1	・	・	・	・	・				
356		ヤマツツジ		・	C	C	・	C	○			
357		シロヤシオ		C	C	・	・	・	○			
358		トウゴクミツバツツジ	2	・	B	・	・	・				
359		ナツハゼ		・	C	・	・	・				
360	アオキ	アオキ		・	C	C	C	C	○			
361	アカネ	オオキヌタソウ		C	・	・	・	・			NT	
362	リンドウ	コケリンドウ		・	A	・	・	・			VU	
363		ハナイカリ		C	・	・	・	・			NT	
364		ホソバナツルリンドウ	1	・	A	・	・	・		VU	CR+EN	
365		イヌセンブリ	1	・	・	・	・	・		VU	NT	
366		テングノコヅチ		C	・	・	・	・		NT	NT	
367	マチン	アイナエ		・	A	・	・	・			CR+EN	
368	キョウチクトウ	フナバラソウ	1	・	・	・	・	・		VU	VU	
369		コカモメヅル	1	・	・	・	・	・			VU	
370		タチガシワ	1	・	・	・	・	・				
371		スズサイコ	1	・	A	・	・	・		NT	VU	
372	ヒルガオ	ハマヒルガオ		/	/	/	・	B	○			
373	ムラサキ	ムラサキ	1	A	A	・	・	・		EN	CR+EN	
374		ルリソウ		・	C	・	・	・			NT	
375	モクセイ	イボタノキ		・	B	・	・	・	○			
376	オオバコ	マルバナサワトウガラシ		・	B	・	・	・		VU	VU	
377		アブノメ		・	A	・	・	・			CR+EN	
378		オオアブノメ	1	・	・	・	B	・		VU	NT	
379		ウンラン		・	・	・	・	C				
380		オオバコ		・	・	・	・	・	○			
381		ヒヨクソウ		B	・	・	・	・			VU	
382		クワガタソウ		・	B	・	・	・			NT	
383		イヌノフグリ	1	・	・	B	・	・		VU	VU	
384		ミチノクワガタ		B	・	・	・	・			VU	
385		カワヂシャ	1	・	・	B	B	・		NT	NT	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（9/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
386	シソ	ヒロハヤマトバナ	1	・	・	・	・	・				
387		フトボナギナタコウジュ	1, 2	・	・	・	・	・				
388		タイリンヤマハッカ			C	・	・	・				
389		キセワタ		A	・	・	・	・		VU	CR+EN	
390		ヒメハッカ	1	・	・	・	B	・		NT	CR+EN	
391		シラゲヒメジソ	1	・	・	・	・	・			NT	
392		タテヤマウツボグサ	1	・	・	・	・	・				
393		アキノタムラソウ			・	・	C	C	・		NT	
394		ナミキソウ			・	・	・	・	C		NT	
395		エゾニガクサ	1	・	・	・	・	・		EN	CR+EN	
396	ハマゴウ	1	・	・	・	・	・	A		CR+EN		
397	サギゴケ	ムラサキサギゴケ		・	C	・	C	・	○			
398	ハマウツボ	ナンバンギセル		B	B	B	・	・			VU	
399		オオナンバンギセル	1	B	B	・	・	・				
400		ミヤマシオガマ		B	・	・	・	・			VU	
401		トモエシオガマ		A	・	・	・	・			NT	
402		キヨスミウツボ	1	B	・	・	・	・			VU	
403	タヌキモ	ムシトリスミレ	1	A	・	・	・	・			NT	
404		イヌタヌキモ	1	・	B	・	・	・		NT	NT	
405		ミカキグサ		・	・	・	A	・			CR+EN	
406		タヌキモ	1	・	・	・	・	・		NT	CR+EN	
407		ヒメタヌキモ	1	・	A	・	・	・		NT	CR+EN	
408		ムラサキミカキグサ	1	・	A	・	A	・		NT	NT	
409		フサタヌキモ	1	・	・	・	EX	・		EN	EX	
410	クマツヅラ	クマツヅラ		・	B	・	・	・			VU	
411	モチノキ	イヌツゲ		・	C	・	・	C				
412		ソヨゴ	1, 2	・	C	・	・	・			NT	
413		アカミノイヌツゲ		・	・	・	・	・	○			
414	キキョウ	シデシヤジン	1	・	・	・	・	・				
415		キキョウ	1	・	B	・	・	・	○	VU	NT	
416	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	1	・	・	・	A	・		VU	VU	
417	キク	オクモミジハゲマ		・	C	・	・	・	○			
418		キッコウハグマ		・	B	・	・	・	○			
419		シュウブンソウ	1, 2	・	・	・	・	・			NT	
420		オケラ		・	B	・	・	・	○			
421		エゾノタウコギ		B	B	・	・	・			VU	
422		ヒメガンクビソウ		・	B	・	・	・			VU	
423		キクタニギク		・	C	・	・	・		NT	NT	
424		イワインチン	1, 2	C	・	・	・	・			NT	
425		アズマギク	1	・	B	・	・	・	○		VU	
426		フジバカマ		・	C	C	・	・		NT	NT	
427		タカサゴソウ		B	・	・	・	・		VU	VU	
428		ノニガナ		・	・	C	・	・			NT	
429		カワラニガナ		・	・	B	・	・		NT	VU	
430		コオニタビラコ		B	・	・	・	・			VU	
431		オオニガナ	1	・	C	・	・	・			NT	
432		カシワハハグマ		・	B	・	・	・			VU	
433		アキノハハコグサ		A	・	・	・	・		EN	CR+EN	

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-16 保全上重要な種（植物）総括表（10/10）

No.	科名	種名	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RL	天記・種保存
				山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
434	キク	ミヤコアザミ	1	・	A	・	・	・			CR+EN	
435		ヒメヒゴタイ	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
436		フボウトウヒレン	1	C	・	・	・	・			NT	
437		アキノキリンソウ		・	C	・	・	・	○			
438		アオヤギバナ		・	・	A	・	・			CR+EN	
439		エゾタンポポ		・	C	B	B	C	○			
440		オカオグルマ	1	A	A	・	・	・			CR+EN	
441		オナモミ		・	B	・	・	・		VU	VU	
442	ウコギ	コシアブラ		C	C	・	・	・				
443	セリ	ハナビゼリ	1	・	・	・	・	・			NT	
444		ミシマサイコ	1	・	B	・	・	・		VU	CR+EN	
445		ハマボウフウ	1	・	・	・	・	C				
446		ハナウド		・	C			C	・		NT	
447		オオカサモチ	1	・	・	・	・	・			NT	
448		イワセントウソウ	1	・	・	・	・	・				
449		タニミツバ	1	・	C	・	・	・			VU	
450			ヌマゼリ	1	・	・	B	B	・		VU	VU
451	ガマズミ	レンブクソウ	1	・	・	・	・	・			NT	
452		オオカメノキ		・	・	・	・	・	○			
453	スイカズラ	エゾヒョウタンボク	1	・	・	・	・	・		VU	CR+EN	
454		クロミノウグイスカグラ	1	A	・	・	・	・			NT	
455		ニッコウヒョウタンボク	1, 2	B	・	・	・	・			VU	
456		オミナエシ		・	B	・	B	・	○			
457		マツムシソウ	1	A	A	・	・	・			VU	
	106 科	457 種	226 種	367 種					105 種	116 種	283 種	1 種

注 1. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

注 2. 表中の「国 RL」、「県 RDB」、「天記・種保存」における凡例は以下のとおり。なお、以降の表についても同様である。

国RL	環境省レッドリスト2020（令和2年3月 環境省） EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧ⅠA類，EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
県RDB	宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2021年版－（令和3年3月 宮城県） EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，CR：絶滅危惧ⅠA類， EN：絶滅危惧ⅠB類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群，Y0：要注目種
天記・種保存	文化財保護法（昭和25年 法律第214号，最終改正令和2年6月） 特天：特別天然記念物，天然：天然記念物 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 （平成4年 法律第75号，最終改正令和元年6月14日）及び絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令（平成5年 政令第17号，最終改正令和3年1月4日） 国内：国内希少野生動植物種，特一：特定第一種国内希少野生動植物種， 特二：特定第二種国内希少野生動植物種，国際：国際希少野生動植物種

表 3.1-17 保全上重要な種（植物）追加種（1/2）

区分	種名	備考*
追加（56種）	ホソバコケシノブ	県 NT として追加
	ヒロハイヌワラビ	県 VU→CR+EN として追加
	エゾデンダ	県 VU として追加
	ウマノスズクサ	県 NT として追加
	トチカガミ	県 VU として追加
	リュウノヒゲモ	県 VU として追加
	シロテンマ	国・県評価変更なし。盗掘の恐れがあり、個体数も少ないことから A ランクとして追加
	タンザワサカネラン	2009 年に発見された新種。個体数が少ないことから A ランクとして追加
	ヒトツボクロ	県 NT として追加
	ツルカミカワスゲ	県 NT として追加
	オオシロガヤツリ	県 NT として追加
	オオフトイ	国・県評価変更なし。検討会意見により追加
	コシンジュガヤ	県 VU として追加
	ヒメコヌカグサ	県 NT として追加
	フサガヤ	県 VU として追加
	タチイチゴツナギ	国 EN, 県 VU として追加
	ハマヒエガエリ	県 VU として追加
	タチドジョウツナギ	県 YO として追加
	ヒゲシバ	県 NT として追加
	センウズモドキ	国 VU, 県 YO→NT として追加
	ウゼントリカブト	国 VU, 県 VU として追加
	イワオウギ	国・県評価変更なし。近年の確認情報がないことから A ランクとして追加
	エゾノレンリソウ	県 NT として追加
	レンリソウ	県 VU として追加
	タチゲヒカゲミズ	県 VU→CR+EN として追加
	タカネバラ	県 NT として追加
	ヒメゴヨウイチゴ	県 VU として追加
	ネコシデ	県 NT として追加
	キバナノコマノツメ	国・県評価変更なし。個体数が少ないことから A ランクとして追加
	ハマハタザオ	県 NT として追加
	エゾハタザオ	県 NT として追加
ハタザオ	県 VU として追加	

※国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-17 保全上重要な種（植物）追加種（2/2）

区分	種名	備考*
追加（56種） （続き）	ムカゴトラノオ	国・県評価変更なし。近年の確認情報がないことから A ランクとして追加
	ヌカボタデ	県 Y0→NT として追加
	ナガバツメクサ	県 EX として追加
	ハマアカザ	県 NT として追加
	コバノイチヤクソウ	県 NT として追加
	ハナイカリ	県 NT として追加
	テングノコヅチ	県 NT として追加
	キセワタ	国 VU, 県 VU→CR+EN として追加
	アキノタムラソウ	県 NT として追加
	ハマゴウ	県 CR+EN として追加
	ナンバンギセル	県 VU として追加
	トモエシオガマ	国・県評価変更なし。近年の確認情報がないことから A ランクとして追加
	コオニタビラコ	県 VU として追加
	アキノハハコグサ	国・県評価変更なし。近年の確認情報がないことから A ランクとして追加
	フボウトウヒレン	近年確認された新種。県 NT として追加
	マルミノシバナ（オオシバナ）	種の統合により追加
	カモガワモ（オオミズヒキモ）	
	ミヤマスカシユリ（ヤマスカシユリ）	
	ゼンテイカ（ニッコウキスゲ）	
	トキリマメ（オオバタンキリマメ）	
トカチヤナギ（オオバヤナギ）		
ウスゲヤナギラン（ヤナギラン）		
キクタニギク（アワコガネギク）		
ヌマゼリ（サワゼリ）		

※国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-18 保全上重要な種（植物）除外種（1/2）

区分	種名	備考
除外（16種）	オクヤマワラビ	仙台市内での生育情報がないため除外
	セイタカシケシダ	
	オオトリゲモ	
	カラフトドジョウツナギ	
	ヤシヤビシヤク	
	ヤブミョウガ	逸出のため除外
	クグガヤツリ	国内帰化のため除外
	オオシバナ（マルミノシバナ）	種の統合により除外
	オオミズヒキモ（カモガワモ）	
	ヤマスカシユリ（ミヤマスカシユリ）	
	ニッコウキスゲ（ゼンテイカ）	
	オオバタンキリマメ（トキリマメ）	
	オオバヤナギ（トカチヤナギ）	
	ヤナギラン（ウスゲヤナギラン）	
	アワコガネギク（キクタニギク）	
	サワゼリ（ヌマゼリ）	

3.1.4 保全上重要な動物種

(1) 動物相の概要

仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや、特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ホンダザル、ホンドキツネ、ホンダタヌキ、ニッコウムササビ、ニホンリスなどの哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などが一因と考えられるツキノワグマ、カモシカの低地丘陵への分布拡大が確認されている。

鳥類では、オオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラなどの森林性の種が多く分布し、絶滅が危惧されているイヌワシやクマタカの生息も確認されている。

爬虫類では、ニホンマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。

両生類では、山地の溪流にキタオウシュウサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。

魚類では、山地の溪流にニッコウイワナ、ヤマメ、カジカ等が生息する。一方、丘陵地の池沼等にはオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルといった移入種が定着しており、在来の種の生息が脅かされている。

昆虫類では、オニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類などの森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石といわれるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボなどのトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、ホンダタヌキ、ホンDOIタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなど多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある。

海浜地域では七北田川河口の蒲生干潟や、名取川河口付近の井土浦、東谷地等の湿地が、シギ・チドリ類の主要な渡来地や海浜性昆虫及び底生動物の重要な生息地となっている。これらの干潟・湿地等は、震災により大きな影響を受けたが、その後、生態系の回復がみられている。

(2) 選定結果（哺乳類）

本調査においては、表 3.1-19 に示す 31 種を「保全上重要な種（哺乳類）」として選定した。変更点として、第 4 回調査時（H28(2016)）から 2 種を追加した。追加した種の一覧は、表 3.1-20 に示すとおりである。今年度の見直しにより、保全上重要種から除外した種はない。

また、作成した「選定理由票」は別冊資料として示すとおりである。

表 3.1-19 保全上重要な種（哺乳類）総括表

No.	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保全
	科名	種名		山地	西部丘 陵地・ 田園	市街地	東部 田園	海 浜				
1	トガリネズミ	トガリネズミ		+	C	/	/	/	○		DD	
2		ホンシュウジネズミ		+	C	B	C	・	○			
3		カワネズミ	1, 4	B	B	/	/	/	○		DD	
4	モグラ	ヒメヒミズ	1	+	・	/	/	/	○			
5		ミズラモグラ	1, 4	C	・	/	/	/		NT	NT	
6	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	1	C	C	・	・	・	○			
7		キクガシラコウモリ	1	C	C	C	・	・	○			
8	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○		VU	
9		カグヤコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○		CR+EN	
10		モモジロコウモリ	1, 4	C	C	C	・	・	○			
11		モリアブラコウモリ	1, 4	C	・	・	・	・	○	VU	CR+EN	
12		ヤマコウモリ	1, 4	C	C	C	C	C	○	VU	VU	
13		ヒナコウモリ	1, 4	C	C	C	・	C	○		LP	
14		ウサギコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○		VU	
15		ユビナガコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
16		コテングコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○			
17		テングコウモリ	1, 4	C	C	・	・	・	○		VU	
18	リス	ホンドモモンガ	1, 4	C	・	・	・	・				
19		ニッコウムササビ	1, 4	・	C	C	・	・	○			
20	ヤマネ	ヤマネ	1, 4	C	・	・	/	/			NT	天然
21	ネズミ	トウホクヤチネズミ	4	+	+	・	・	・				
22		ハタネズミ		+	C	C	C	C	○			
23		ホンドヒメネズミ		+	+	+	/	・	○			
24		ホンシュウカヤネズミ	2	・	・	・	・	・	○		Y0	
25	クマ	ツキノワグマ	4	C	C	・	・	・				
26	イヌ	ホンドタヌキ		+	+	・	+	・	○			
27	イタチ	ホンドテン		C	C	・	・	・	○			
28		ホンドイタチ		C	C	C	C	C	○			
29		ホンドオコジョ	1, 4	C	・	/	/	/		NT	NT	
30	ウシ	カモシカ	4	+	・	・	・	・	○		Y0	特天
31	ネズミイルカ	スナメリ	2	/	/	/	/	・			LP	
合計	12 科	31 種	24 種	31 種					24 種	4 種	15 種	2 種

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-20 保全上重要な種（哺乳類）追加種

区分	和名	備考
追加（2 種）	ホンシュウカヤネズミ	学術上重要種，環境指標種，県 Y0 として追加
	スナメリ	学術上重要種，県 LP として追加

(3) 選定結果（鳥類）

本調査においては、表 3.1-21に示す97種を「保全上重要な種（鳥類）」として選定した。変更点として、第4回調査時（H28(2016)）から11種を追加し、1種を除外した。追加した種の一覧は表 3.1-22 に、除外した種は表 3.1-23に示すとおりである。

また、作成した「選定理由票」は別冊資料として示すとおりである。

表 3.1-21 保全上重要な種（鳥類）総括表（1/3）

No.	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保全
	科名	種名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街 地	東部 田園	海浜				
1	キジ	ウズラ	1, 4	・	A	A	A	A		VU	CR+EN	
2		ヤマドリ	1, 4	+	C	・	・	・	○			
3	カモ	ヒシクイ		/	/	・	C	C		VU	VU	天記
4		マガン	1, 4	/	/	A	B	B		NT		天記
5		ハクガン	1, 4	/	/	・	・	・		CR	YO	
6		シジュウカラガン	1, 4	/	/	・	・	・		CR	NT	国内
7		コクガン	1, 2, 4	/	/	/	/	B		VU	VU	天記
8		オシドリ	1, 4	+	C	B	・	・		DD		
9		トモエガモ	1	/	・	/	C	・		VU		
10	カイツブリ	カイツブリ		・	C	B	C	C	○			
11	サギ	サンカノゴイ	1	/	/	/	B	B		EN	NT	
12		ヨシゴイ	1, 4	・	C	B	C	C	○	NT	NT	
13		オオヨシゴイ	1, 4	/	/	/	A	A		CR	CR+EN	国内
14		ミゾゴイ	1, 4	C	B	/	/	/		VU	VU	
15		アマサギ	4	・	C	A	C	・	○			
16		チュウサギ	1, 2, 4	・	C	C	C	C		NT		
17		コサギ		/	C	B	C	C	○		NT	
18		カラシラサギ	1	/	/	/	・	C		NT	NT	
19	クイナ	クイナ	1, 4	・	C	A	B	B			NT	
20		ヒクイナ	1, 4	/	B	A	B	B		NT	CR+EN	
21		バン	1, 4	・	C	B	C	C	○			
22	カッコウ	ホトトギス	1, 4	+	+	C	C	C	○			
23		カッコウ	1, 4	C	C	B	C	C	○			
24	ヨタカ	ヨタカ	1, 4	C	B	A	A	・	○	NT	VU	
25	アマツバメ	ハリオアマツバメ		C	C	/	/	/			NT	
26	チドリ	イカルチドリ	1, 4	C	C	B	B	・	○		NT	
27		シロチドリ	1, 4	/	/	/	・	B	○	VU	NT	
28	シギ	オオジシギ	1, 4	B	B	A	C	C		NT	VU	
29		オグロシギ		/	/	/	C	C			NT	
30		オオソリハシシギ		/	/	/	B	B		VU	NT	
31		ホウロクシギ	1, 4	/	/	・	・	B		VU	NT	国際
32		ツルシギ	1, 4	/	/	・	C	C		VU	NT	
33		アカアシシギ	1	/	/	・	C	C		VU		
34			タカブシギ		/	/	・	C	C		VU	
35		ハマシギ	1, 4	/	/	・	C	C	○	NT	NT	
36		ヘラシギ	1	/	/	/	・	A		CR	CR+EN	国内
37	タマシギ	タマシギ		/	/	/	A	・		VU		
38	カモメ	コアジサシ	1, 2, 4	/	/	A	B	B		VU	VU	
39	ウミスズメ	ウミスズメ	1, 4	/	/	/	/	・		CR		
40	ミサゴ	ミサゴ	1, 4	・	+	+	+	+	○	NT		

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-21 保全上重要な種（鳥類）総括表（2/3）

No.	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保全	
	科名	種名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街 地	東部 田園	海浜					
41	タカ	ハチクマ	1, 4	B	B	・	/	/		NT	VU		
42		オジロワシ	1, 2, 4	・	B	B	B	B		VU	VU	天記・ 国内・ 国際	
43		オオワシ	1, 2, 4	/	/	/	B	B		VU	VU	天記・	
44		チュウヒ	1, 4	/	/	/	C	C	○	EN	NT	国内	
45		ツミ	1, 4	C	C	C	C	C			DD		
46		ハイタカ	1, 4	C	C	C	C	C		NT	NT		
47		オオタカ	1, 4	C	C	B	B	B	○	NT	NT		
48		サンバ	1, 4	C	C	A	B	B		VU	VU		
49		ノスリ			+	+	+	+	+	○			
50		イヌワシ	1, 4	A	・	/	/	/	○	EN	CR+EN	天記・	
51		クマタカ	1, 4	B	C	/	/	/	○	EN	VU	国内	
52	フクロウ	オオコノハズク	1	C	C	C	B	B			NT		
53		コノハズク	1	C	C	・	・	・	○		DD		
54		フクロウ	1	C	C	B	B	C	○				
55		アオバズク	1	・	C	B	B	B	○		VU		
56		トラフズク	1	・	・	・	B	B			NT		
57		コミミズク	1	・	B	A	B	B	○		NT		
58	カワセミ	アカショウビン	1	C	C	/	/	/			NT		
59		カワセミ	1, 4	・	C	C	C	・	○				
60		ヤマセミ	1, 4	C	C	B	・	・	○		NT		
61	キツツキ	アカガラ		+	C	B	C	C					
62		アオガラ		+	C	B	C	C	○				
63	ハヤブサ	チョウゲンボウ	1, 4	/	C	B	C	B					
64		チゴハヤブサ		/	C	B	B	/			NT		
65		ハヤブサ	1, 4	C	B	B	C	C		VU	NT	国内・	
66	サンショウクイ	サンショウクイ		C	C	B	C	C		VU	NT		
67	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1	・	C	B	B	・	○				
68	モズ	チゴモズ	1, 4	・	A	A	A	A		CR	CR+EN		
69		モズ	1	+	+	B	+	+	○				
70		アカモズ	1, 4	・	A	A	A	A		EN	CR+EN	国内	
71	ヒバリ	ヒバリ		・	C	B	C	C	○				
72	ツバメ	ツバメ		・	C	C	C	・	○				
73		コシアカツバメ		/	A	A	A	A			CR+EN		
74	ウグイス	ウグイス	1, 4	+	+	C	C	C	○				
75	ムシクイ	センダイムシクイ		+	C	B	・	・	○				
76	センニュウ	オオセッカ	1, 3, 4	/	/	/	/	A		EN	VU	国内	
77	ヨシキリ	オオヨシキリ	1, 4	・	C	B	C	C	○				
78		コヨシキリ	1, 4	・	C	A	B	B	○				
79	セッカ	セッカ	1, 4	・	C	B	C	C	○				
80	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		+	・	B	・	/	○				
81	カワガラス	カワガラス		+	C	B	・	/	○				

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-21 保全上重要な種（鳥類）総括表（3/3）

No.	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保全
	科名	種名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街 地	東部 田園	海浜				
82	ヒタキ	トラツグミ		+	C	B	C	C	○			
83		クロツグミ	1, 4	+	C	B	C	C	○			
84		シロハラ		+	C	B	・	・	○			
85		コルリ	1, 4	+	C	B	C	C	○			
86		ルリビタキ		+	C	C	C	C				
87		コサメビタキ		・	/	B	・	/	○			
88		キビタキ		+	C	B	・	・	○			
89		オオルリ	1, 4	+	C	C	C	C	○			
90		イワヒバリ	イワヒバリ		A	/	/	/	/			CR+EN
91	セキレイ	キセキレイ	1, 4	+	C	C	C	・	○			
92		セグロセキレイ	4	C	C	C	C	・	○			
93	ホオジロ	ホオジロ		+	+	B	C	C	○			
94		ホオアカ		B	C	A	C	B	○			
95		ノジロ	1, 4	C	C	B	/	/		NT	NT	
96		アオジ		C	C	C	C	C				
97		コジュリン	1, 4	/	/	/	B	B		VU	VU	
合計	35 科	97 種	69 種	97 種					47 種	97 種	52 種	26 種

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-22 保全上重要な種（鳥類）追加種

区分	種名	選定理由
追加（11種）	ハクガン	国・県の評価変更なし。仙台市では記録が増加傾向にある。伊豆沼・蕪栗沼周辺に集中していた越冬地からの分散候補として、仙台平野は今後重要となると考えられるため、学術上重要種として新たに評価した。
	シジュウカラガン	県 VU→NT に評価変更。仙台市では記録が増加傾向にある。伊豆沼・蕪栗沼周辺に集中していた越冬地からの分散候補として仙台平野は今後重要となると考えられるため、学術上重要種として新たに評価した。
	トモエガモ	国・県の評価変更なし。増加傾向にあるが、限られた場所で個体数も少ないことから新たに追加。
	カラシラサギ	県 DD→NT に評価変更。蒲生干潟で稀に確認されるため、学術上重要種「1」、海浜で NT と同等の「C」評価とした。記録のない環境区分では「/」評価とした。
	ハリオアマツバメ	県 YO→NT に評価変更。県の評価を踏襲し、仙台市においても船形山等で繁殖の可能性があり、山地で C 評価、繁殖は確認されていないが、西部丘陵でも定期的に生息している場所があるため「C」とした。
	オグロシギ	県 NT 新規評価。仙台市内においても、蒲生干潟、東部田園で中継利用の記録があることから、県と同様の C 評価とした。
	オオソリハシシギ	県 NT 新規評価。仙台市内においても、蒲生干潟等で中継利用の記録があるが、減少が著しいことから「B」評価とした。
	タカブシギ	国・県の評価変更なし。現在はまだ比較的に見られている種であるが、大豆や麦の転作によって仙台市で主な生息環境となる休耕地が減少していることから、東部田園、海浜で「C」評価。
	タマシギ	国・県の評価変更なし。前回結果を踏襲。近年の観察記録が減少した。繁殖していた時期もあるため、東部・田園では A ランクに評価。
	コシアカツバメ	県 CR+EN 新規評価。県内における繁殖個体群はほとんど見られなくなったことから、CR+EN に新規評価された。仙台市内でも同様に生息の可能性のある範囲で A 評価とした。
	イワヒバリ	県 YO→CR+EN に評価変更。本種の繁殖記録は、蔵王町刈田岳のみであり、孤立した個体群であることから CR+EN 評価となっている。仙台市内においても、船形山周辺で記録があり生息している個体群の脆弱性に大きな差はないことから、山地 A 評価とした。

注. 国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

表 3.1-23 保全上重要な種（鳥類）除外種

区分	和名	備考
除外（1種）	オオバン	全国的に増加傾向にあり、市内においても各環境区分で増加していることから、各環境区分で普通種として再評価。保全上重要種から除外した。

注. 国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドデータブックを示す。

(4) 選定結果（爬虫類）

本調査においては、表 3.1-24に示す9種を「保全上重要な種（爬虫類）」として選定した。第4回調査時（H28(2016)）から変更点はなく、追加、除外した種はない。

また、作成した「選定理由票」は別冊資料として示すとおりである。

表 3.1-24 保全上重要な種（爬虫類）総括表

No	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保全
	科名	和名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街 地	東部 田園	海浜				
1	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	1	・	C	A	・	・	○			
2	カナヘビ	ニホンカナヘビ		+	+	C	C	・	○			
3	タカチホヘビ	タカチホヘビ	1	・	・	A	・	・			DD	
4	ナミヘビ	アオダイショウ		+	+	B	C	C	○			
5		ジムグリ		+	+	B	C	C	○			
6		シロマダラ	1	C	C	・	・	・			DD	
7		ヒバカリ		C	C	C	C	B	○			
8		ヤマカガシ		・	+	A	C	・	○			
9	クサリヘビ	ニホンマムシ		C	C	A	C	・				
合計	5科	9種	3種	9種					6種	0種	2種	0種

(5) 選定結果（両生類）

本調査においては、表 3.1-25に示す14種を「保全上重要な種（両生類）」として選定した。変更点として、第4回調査時（H28(2016)）から1種を追加した。追加した種の一覧は、表 3.1-26に示すとおりである。今年度の見直しにより、保全上重要種から除外した種はない。

また、作成した「選定理由票」は別冊資料として示すとおりである。

表 3.1-25 保全上重要な種（両生類）総括表

No.	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記 ・種保存
	科名	種名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街地	東部 田園	海浜				
1	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	4	+	C	B	/	/	○	NT	NT	
2		クロサンショウウオ		+	C	A	/	/	○	NT	LP	
3		キタオウシュウ サンショウウオ	2	+	C	/	/	/	○		NT	
4	イモリ	アカハライモリ		+	C	A	C	/	○	NT	LP	
5	ヒキガエル	アズマヒキガエル		+	C	B	C	/				
6	アマガエル	ニホンアマガエル		+	+	+	+	+	○			
7	アカガエル	タゴガエル		+	C	A	/	/			NT	
8		ニホンアカガエル		+	+	A	C	/				
9		ヤマアカガエル		+	C	A	C	/			NT	
10		トウキョウダルマガエル		C	C	A	C	/	○	NT	NT	
11		ツチガエル		+	C	A	・	/	○		NT	
12	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		+	+	B	C	/	○			
13		モリアオガエル		+	B	/	/	/	○			
14		カジカガエル		+	+	B	/	/	○			
合計	6 科	14 種	2 種	14 種					10 種	4 種	8 種	0 種

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-26 保全上重要な種（両生類）追加種

区分	和名	備考
追加（1種）	ヤマアカガエル	県 NT 新規評価。本種の一般的生態から、山地地域では普通に見られるが、市街地地域では生息域が限定されるため「A」評価、東部田園地域、西部丘陵地・田園地域では昨今の大規模太陽光発電施設等の開発により、産卵場所となる谷戸田環境が減少しており、「C」評価とした。

(6) 選定結果（魚類）

本調査においては、表 3.1-27 に示す 37 種を「保全上重要な種（魚類）」として選定した。変更点として、第 4 回調査時（H28(2016)）から 8 種を追加した。追加した種の一覧は表 3.1-28 に示すとおりである。今年度の見直しにより、保全上重要種から除外した種はない。また、作成した「選定理由票」は巻末資料として示すとおりである。

表 3.1-27 保全上重要な種（魚類）総括表

No	分類		学術上 重要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・種 保存	
	科名	種名		山地	西部 丘陵地 ・田園	市街 地	東部 田園	海浜					
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種 または南方種	1	C	+	B	C	/		VU	NT		
2		カワヤツメ	1	・	A	A	/	/		VU	CR+EN		
3	ウナギ	ニホンウナギ	1	・	B	C	C	C	○	EN	NT		
4	コイ	キンブナ		・	B	A	A	/		VU	VU		
5		テツギョ	1	・	/	/	/	/			YO		
6		タナゴ		/	EX	EX	EX	/		EN	CR+EN		
7		アカヒレタビラ		/	EX	EX	EX	/		EN	CR+EN		
8		ゼニタナゴ		/	EX	EX	EX	/		CR	CR+EN		
9		エゾウグイ	1、4	B	/	/	/	/		LP	CR+EN		
10		ウグイ		+	+	+	+	+	○				
11		シナイモツゴ	1、4	A	A	/	/	/		CR	CR+EN		
12			スナゴカマツカ		・	・	・	・	/			DD	
13	ドジョウ	ドジョウ		・	+	+	+	/	○	NT			
14		キタドジョウ		・	・	・	・	/		DD	DD		
15	フクドジョウ	ホトケドジョウ	1	C	+	B	・	/	○	EN	NT		
16	ギギ	ギバチ	1	C	+	B	・	/		VU	NT		
17	キュウリウオ	ワカサギ		/	/	/	・	A			NT		
18	アユ	アユ		/	+	+	+	+	○				
19	シラウオ	シラウオ		/	/	/	C	C			NT		
20	サケ	ニッコウイワナ		+	・	/	/	/		DD			
21		サクラマス	1	/	B	C	/	/	○	NT	NT		
22		ヤマメ		+	+	+	/	/	○	NT			
23	トゲウオ	ニホンイトヨ	1、4	/	/	/	A	A		LP	CR+EN		
24	メダカ	ミナミメダカ	1	/	A	A	B	C	○	VU	NT		
25	サヨリ	クルメサヨリ	1	/	/	/	A	A		NT	VU		
26	カジカ	カジカ		+	+	B	/	/	○	NT			
27		ウツセミカジカ	1	/	/	B	・	・		EN	VU		
28	ハゼ	ヒモハゼ	1	/	/	/	/	C	○	NT	NT		
29		シロウオ		/	/	/	B	B		VU	NT		
30		ボウズハゼ	2	/	/	・	/	/			DD		
31		アベハゼ	2	/	/	・	・	C			NT		
32		マサゴハゼ	1、2	/	/	/	/	A		VU	VU		
33		スミウキゴリ	1	/	/	/	・	・		LP			
34		ヘビハゼ	1	/	/	/	/	・		DD	DD		
35		ジュズカケハゼ		/	C	A	B	/		NT	NT		
36		エドハゼ	1	/	/	/	/	B		VU	CR+EN		
37	クロホシマン ジュウダイ	クロホシマン ジュウダイ	2	/	/	・	・	・			YO		
合計	16 科	37 種	21 種		37 種					10 種	28 種	30 種	0 種

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-28 保全上重要な種（魚類）追加種

区分	和名	備考※
追加（8種）	スナゴカマツカ	目録上カマツカ属（カマツカ、もしくはスナゴカマツカのいずれか）に包括されていた種。本種は宮城県 RL2021 で重要種に選定されており、仙台市内に生息することが知られるため、生息の可能性のある環境区分において同様の評価で新規追加した。
	ドジョウ	目録上ドジョウ属（ドジョウ、もしくはキタドジョウのいずれか）に包括されていた種。仙台市内で一般的に見られるが、水田環境の指標種として追加した。
	キタドジョウ	目録上ドジョウ属（ドジョウ、もしくはキタドジョウのいずれか）に包括されていた種。本種は宮城県 RL2021 で重要種に選定されており、仙台市内に生息することが知られるため、生息の可能性のある環境区分において同様の評価とした。
	ワカサギ	ワカサギ（通し回遊型）で県 NT 新規評価。海浜に近い市内の井土浦で記録があり、県と同様の評価「C」とした。
	シラウオ	県NT新規評価。県レッド評価に準拠し、生息の可能性のある範囲で「C」評価とした。
	ボウズハゼ	県 DD 新規評価。分布上北限であることから、学術上重要種に指定。仙台市内における個体数密度等、評価に資する情報がないことから減少種としては「・」評価。
	ジュズカケハゼ	県NT新規評価。生息の可能性のある範囲でNTと同等の「C」評価。市街地で「A」評価。
	クロホシマンジュウダイ	県 Y0 新規評価。分布上北限であることから、学術上重要種に指定。仙台市内における個体数密度等、評価に資する情報がないことから減少種としては「・」評価

注. 国：環境省レッドリスト，県：宮城県レッドリストを示す。

(7) 選定結果（昆虫類）

本調査においては、表 3.1-29に示す123種を保全上重要な種（昆虫類）として選定した。

変更点として、第4回調査時（H28(2016)）から3種を追加し、3種を除外した。追加した種の一覧は表 3.1-30に、除外した種の一覧は表 3.1-31に示すとおりである。また、作成した「選定理由票」は別冊資料として示すとおりである。

表 3.1-29 保全上重要な種（昆虫類）総括表（1/3）

No.	分類		学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RL	天記・種保全	
	科名	種名		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
1	イトトンボ	ヒスマイトトンボ	1、2	/	/	/	/	EX		EN	CR+EN		
2	ムカシトンボ	ムカシトンボ	1、4	+	+	/	/	/	○				
3	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ		/	/	/	・	C		NT	NT		
4		マダラヤンマ		・	・	・	B	B		NT	VU		
5		マルタンヤンマ		・	・	・	C	・			NT		
6		カトリヤンマ	1	/	/	A	A	A			CR+EN		
7	サナエトンボ	ウチワヤンマ	1	・	C	B	・	・					
8		ヒメサナエ	1	A	A	・	/	/			VU		
9		ナゴヤサナエ	1、2	/	・	A	A	・		VU	CR+EN		
10	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	1、4	・	+	・	/	/	○				
11	エゾトンボ	オオトラフトンボ	1	C	C	/	/	/					
12		エゾトンボ		B	B	・	/	/			VU		
13	トンボ	ハッチョウトンボ	1	B	B	・	/	/	○		VU		
14		コノシメトンボ	1	・	A	・	・	・			CR+EN		
15		キトンボ	1	・	A	EX	・	・			VU		
16		ナツアカネ		・	C	・	C	・	○				
17		マユタテアカネ		+	+	・	・	・					
18		アキアカネ		+	+	+	+	+	○				
19		マイコアカネ		・	+	・	C	・					
20		ヒメアカネ	1	A	A	EX	/	/			CR+EN		
21		オオゴキブリ	オオゴキブリ		B	B	/	/	/			VU	
22		マツムシ	スズムシ	1	・	・	・	・	・				
23	ヒバリモドキ	ハマスズ		/	/	/	/	A			CR+EN		
24	バッタ	ヤマトマダラバッタ	2	/	/	/	/	B	○		VU		
25		カワラバッタ	1	・	・	A	A	/	○		NT		
26	セミ	エゾゼミ		+	+	C	/	/	○				
27	ヨコバイ	スナヨコバイ		/	/	/	/	A		NT	CR+EN		
28	カメムシ	ヒウラカメムシ		/	/	/	・	C			NT		
29	コオイムシ	コオイムシ	1	・	C	C	C	/		NT	NT		
30		タガメ	1	・	A	・	A	・	○	VU	CR+EN	特二	
31	ツノトンボ	ツノトンボ	1	A	A	・	・	・			CR+EN		
32		キバネツノトンボ	1	・	B	・	・	・			VU		
33	ウスバカゲロウ	カスリウスバカゲロウ		・	C	・	・	・			DD		
34		オオウスバカゲロウ		/	/	/	/	A	○		CR+EN		
35	ボクトウガ	ハイロボクトウ		・	・	/	・	C	○	NT			
36	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	1	B	A	/	/	/		EN	VU		
37		チャマダラセセリ	1	A	A	/	/	/		EN	CR+EN		
38	シジミチョウ	スギタニルシジミ 本州亜種		+	+	/	/	/	○				
39		ジョウザンミドリシジミ		+	+	/	/	/	○				
40		クロミドリシジミ	1	B	・	/	/	/					

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-29 保全上重要な種（昆虫類）総括表（2/3）

No.	分類		学術 上重 要種	減少種					環境 指標 種	国 RL	県 RL	天記・ 種保 全
	科名	種名		山地	西部 丘陵 地・ 田園	市街 地	東部 田園	海浜				
41		カラスシジミ		C	C	/	/	/			NT	
42		クロシジミ	1	EX	・	EX	/	/		EN	EX	
43		オオゴマシジミ		C	/	/	/	/	○	NT	DD	
44		フジミドリシジミ	1	+	C	/	/	/	○			
45	タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン		EX	EX	EX	EX	EX		CR	EX	
46		キマダラモドキ	1	C	・	/	/	/		NT	NT	
47		ウラジャノメ本州亜種	1、2	B	/	/	/	/			DD	
48		ジャノメチョウ		+	+	・	・	・	○			
49		オオムラサキ	1	・	C	B	・	/	○	NT		
50		ギンボシヒョウモン 本州亜種	1	A	・	/	/	/			CR+EN	
51	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	4	/	・	+	+	・	○			
52		ヒメギフチョウ本州亜種	1	C	C	C	/	/	○	NT	NT	
53	シロチョウ	ヒメシロチョウ 北海道・本州亜種		EX	EX	EX	EX	EX		EN	CR+EN	
54	ツトガ	ゼニガサミズメイガ		C	C	・	・	・				
55	スズメガ	ヒメスズメ		・	・	A	・	・		NT	CR+EN	
56		ギンボシスズメ	1	・	A	/	/	/			CR+EN	
57	シャチホコガ	タツカモクメ シャチホコ	1	C	C	/	/	/				
58		クワヤマエグリ シャチホコ	1	C	C	・	/	/		NT	NT	
59	ヒトリガ	キバラヒトリ	1	C	C	・	/	/			NT	
60	ドクガ	フタホシドクガ	1	C	C	・	/	/			NT	
61	ヤガ	キスジウスキヨトウ		・	C	・	・	・		VU		
62		コシロシタバ	1	B	・	・	/	/		NT	NT	
63		ヌマベウスキヨトウ		/	/	/	・	B		VU		
64		ギンモンセダカモクメ	1	A	A	・	・	・		NT	CR+EN	
65		オガサワラヒゲトトウ	1	・	A	・	/	/		EN	CR+EN	
66		オオチャバネヨトウ		C	・	/	・	・		VU		
67		ギンモンアカヨトウ		・	・	・	・	B		VU		
68	オサムシ	ハマベミズギワゴミムシ		/	/	/	/	B			VU	
69		マークオサムシ		/	・	A	・	/		VU	CR+EN	
70		セアカオサムシ		C	C	・	・	/		NT	NT	
71		ツヤキベリアオゴミムシ		・	B	・	/	/		VU	VU	
72		キバナガミズギワゴミムシ		/	/	/	/	B			VU	
73		ヤマトトックリゴミムシ	1	・	C	・	・	B				
74		ギョウトクコミズ ギワゴミムシ		/	/	/	/	B		VU	DD	
75		ヒョウタンゴミムシ		/	/	/	/	C	○		NT	
76	ハンミョウ	カワラハンミョウ	1	/	/	/	/	A	○	EN	CR+EN	
77		ホソハンミョウ		C	・	/	/	/		VU	NT	
78		ナミハンミョウ		・	B	B	・	/	○		NT	
79	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	1	C	C	A	A	/		VU	NT	
80		シマゲンゴロウ		・	C	・	・	/		NT		
81		オオイチモンジ シマゲンゴロウ	1	・	・	・	A	・		EN	VU	
82		エゾヒメゲンゴロウ		・	・	C	/	/			DD	
83	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ		・	B	・	・	・		VU	DD	
84	クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種	2	C	・	/	/	/			DD	
85		ミヤマクワガタ		+	+	・	・	/	○			
86		オニクワガタ	1	C	/	/	/	/	○			
87		ノコギリクワガタ		+	+	+	+	/	○			

注. 網掛けした種は本調査において新しく追加された種を示す。

表 3.1-29 保全上重要な種（昆虫類）総括表（3/3）

No.	分類		学術上重要種	減少種					環境指標種	国RL	県RL	天記・種保全
	科名	種名		山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
88	コガネムシ	アカマダラハナムグリ		・	C	C	・	・		DD	NT	
89		ダイコクコガネ		・	A	/	/	/		VU	VU	
90		ヤマトケシマグソコガネ		/	/	/	/	C	○		NT	
91	コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ		C	C	・	/	/			NT	
92	ナガハナノミ	タテスジヒメヒゲナガハナノミ		C	・	/	/	/			DD	
93	タマムシ	タマムシ	1, 2	/	C	C	・	/			NT	
94	コメツキムシ	カワイヒラアシコメツキ	2	/	/	/	/	C			DD	
95		スナサビキコリ	2	/	/	/	/	B			NT	
96	ホタル	ゲンジボタル	1	・	+	C	C	/	○		NT	
97		ヒメボタル		・	C	/	/	/	○		NT	
98		スジグロボタル		C	・	/	/	/			NT	
99	オオキノコムシ	クロホシチビオオキノコムシ	1	C	・	・	/	/			DD	
100	ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ		/	/	/	/	C	○			
101	カミキリムシ	ヤマトキモンハナカミキリ		・	・	・	B	・			VU	
102		ヨツボシカミキリ		・	A	・	A	・		EN	CR+EN	
103	ハムシ	ベニカメノコハムシ		・	C	・	・	/			NT	
104		タグチホソヒラタハムシ		・	・	A	/	/			VU	
105		シラハタミズクサハムシ		・	B	/	/	/			VU	
106	ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ		・	C	・	・	/			DD	
107	クモバチ	アカゴシクモバチ		/	/	/	/	C			NT	
108		ムツボシクモバチ		・	・	/	/	B		NT		
109		ホソシロフクモバチ		/	/	/	/	C			NT	
110		ハイロクモバチ		/	/	/	/	C			NT	
111	ツチバチ	オオモンツチバチ		/	/	/	/	C			NT	
112	ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ 本土亜種		/	/	/	/	C		DD	NT	
113		ニッポンハナダカバチ		/	/	/	/	A		VU	CR+EN	
114	アリマキバチ	アシジロヨコバイバチ		/	/	/	C	C			NT	
115		ミヤギノヨコバイバチ		・	B	/	/	/			VU	
116		キアシマエダテバチ		/	/	/	C	C			DD	
117	フシダカバチ	キスジツチスガリ	1	/	/	/	/	A			CR+EN	
118	ムカシハナバチ	ホソメンハナバチ		/	/	/	・	A			CR+EN	
119		ノウメンメンハナバチ		/	/	/	/	A			CR+EN	
120	コハナバチ	アオスジハナバチ	1, 2	・	A	・	/	/			CR+EN	
121	ハキリバチ	キヌゲハキリバチ	1	/	/	/	/	B			VU	
122		マイマイツツハナバチ	1	B	B	/	・	/		DD	VU	
123	コマユバチ	ウマノオバチ		・	C	・	/	/		NT		
合計	54 科	123 種	53 種	123 種					29 種	44 種	91 種	1 種

表 3.1-30 保全上重要な種（昆虫類）追加種

区分	和名	備考
追加（3種）	ヒウラカメムシ	県 NT として追加。震災によって湿地帯が創出され、本種が新たに確認された可能性があることから、仙台市保全上重要種として追加。
	オオゴマシジミ	県 DD として追加。仙台市内では生息の可能性のある山地において「C」評価とした。また、ブナ自然林の谷筋に食草が繁茂することから、ブナ自然林の指標種として評価。
	マークオサムシ	国 VU，県 CR+EN として追加。大昔に記録があるのみで市街地ではほぼ絶滅に近い状況にある。第3回調査時（H22(2010)）から除外されていたが、生息記録はあり、再評価を行った。

表 3.1-31 保全上重要な種（昆虫類）除外種

区分	和名	備考
除外（3種）	エチゴトックリゴムシ	仙台市内における明確な分布情報はないことから、保全上重要種から削除。
	ノシメトンボ	水田の環境指標種としていたが、アカネ類ではすでにナツアカネ、アキアカネを水田の環境指標種として選定しており、指標種から除外したことにより、保全上重要種から除外した。
	ササキリギングチ	仙台市内における明確な分布情報はないことから、保全上重要種から削除。

3.1.5 保全上重要な種 減少の要因について

保全上重要な種の選定にあたり、(2)減少種の選定カテゴリーでは、種の減少要因としてある程度理由が明らかなものについて選定理由票に項目を付している。

各減少要因について、以下に概要を述べる。

①気候の変化： 温暖化等による生息・生育地の環境の変化

気候の変化として、温暖化等による生息・生育地の環境の変化により個体数の減少する種、増加する種がある。生息地の北限が北上してさらに北へ分布を広げる種や、生息地の南限が北上して生息・生育がみられなくなる種、海流に乗って来遊し、従来死滅回遊魚であった種が冬季の水温上昇により生残して定着する種、餌生物の分布状況の変化により影響を受ける種、繁殖地の環境の変化により影響を受ける種等様々である。個体数の増減には複合的な理由があるが、有識者ヒアリングにより、特に温暖化により仙台市付近で増減がみられる種として表 3.1-32 に示す。また、温暖化が原因と特定できないものの、哺乳類のホンシュウカヤネズミ、爬虫類のアカウミガメについて温暖化による生息地の北上に関する議論があり、今後の検討を要する。

表 3.1-32 気候の変化による影響のみられる動植物

分類群	種名	個体数変動の要因・状況
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ベニシダ ・ホラシノブ ・フモトシダ ・オオバノハチジョウシダ ・コハシゴシダ ・ハカタシダ 	暖地性のシダであり、近年増加の傾向がみられる。
哺乳類	-	温暖化の影響として特定できる種はない(複合的要因)。
鳥類	・コクガン	温暖化により繁殖地の植物が生育しやすくなり、餌資源が多くなったため繁殖成功率が上昇しているとの報告があり、国内への渡来数が増加、仙台市内でも個体数の漸増がみられる。
	・オオバン	温暖化により分布及び繁殖地を拡大している種である。
	・オオジシギ	積雪量が減少し、繁殖地の乾燥化が進んでいるところが増えていたため、減少していると考えられる。
	・イワヒバリ	寒冷地の高山に生息するが、温暖化により生息地が生息に適さない方向へ変化していると考えられる。
爬虫類	-	温暖化の影響として特定できる種はない(複合的要因)。
両生類	-	温暖化の影響として特定できる種はない(複合的要因)。
魚類	<ul style="list-style-type: none"> ・ボウズハゼ ・クロホシマンジュウダイ 	海水温の上昇や海流の変化に伴い分布北限が北上している。
昆虫類	-	温暖化の影響として特定できる種はない(複合的要因)。

②人為的開発： 都市的土地利用への転換による生息・生育地の減少

人為的開発では、空地であった草地が開発により減少する例や、小規模な池沼の開発による埋め立て、丘陵地等の傾斜地に太陽光発電パネルを設置することによる樹林地の減少などが挙げられる。

動植物には草地環境に適応した種があるが、市街地近郊では草地は空地や河川敷にみられ、住宅地への転換や河川整備等で生育・生息地が減少する。

また仙台市内には小規模な池沼や農業用ため池などが多く存在するが、このような水辺環境は全国的に減少しており、止水域の生態系に特有の動植物種のハビタットとして重要である。池沼の埋め立てや護岸整備等必要な場合には、事前調査を実施し、動植物の移植・移動など適切な措置を行うことが望ましい。

また近年再生可能エネルギー利用として太陽光発電施設の増加がみられるが、太陽光を多く得るため山林を切り開いて設置することで、樹林地の伐採等の弊害もみられている。表 3.1-33 に人為的開発により減少する生物の例を示す。

表 3.1-33 人為的開発により減少する生物の例

分類群	種名	個体数変動の要因・状況
植物	・ウマノズクサ ・レンリソウ ・マルバヌスビトハギ	近年生育場所である草地が減少することにより減少しているとされる。
	・タヌキモ類 ・イトモ ・ミクリ ・トチカガミ	生育場所である池沼、ため池等の埋め立てや護岸により減少する。
両生類	・ヤマアカガエル	森林の林床に生息し、山林の開発等により生息地が減少する。
魚類	・シナイモツゴ	池沼・ため池等に生息。近縁種のモツゴと交雑のおそれがあり、生息地の保全が望ましい。

③捕獲、採取： 過剰な捕獲、採取による減少

動植物種の中で、特に重要種となるような種や、園芸的・鑑賞的価値のある種について、一部の愛好家や愛好家を対象とする業者による盗掘や密採集のおそれがある。盗掘・密採集の場合特に生育地・生息地を狙って対象となる重要種を採取・採集するため、重要種の減少要因として知られている。植物ではラン類、ツツジ類、高山植物等きれいな花を咲かせる種や、昆虫類では希少チョウ類、コウチュウ類等が対象となる。仙台市保全上重要な種や、国・県の重要種の指定がある種については、分布地の特定を避けるため、種名や分布地の情報の記載や公開レベルに注意し、庁内のみで情報を利用することとする。

④外来種による影響： 外来種による生息・生育地の競合、捕食による減少

外来種による影響では、在来種に比べ繁殖力が旺盛で生育地の日照・水・養分等競合する種、アレロパシー（他感作用）により周囲の他の植物の生育を抑制する種、在来種の餌環

境・生息場と競合する種、在来種の卵、幼体・稚魚、成体を捕食し、個体数を減少させる種などがある。特に影響の大きい種について、環境省の外来生物法により、「特定外来生物」が指定され、特定外来生物に準ずる生物として、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」も挙げられている。表 3.1-34 に、仙台市でみられる在来種に影響を及ぼす外来種の例を示す。

表 3.1-34 仙台市でみられる在来種に影響を及ぼす外来種の例

分類群	種名	個体数変動の要因・状況
植物	・アレチウリ	特定外来生物。繁殖力が強いつる植物で、日光を遮ることで他の植物と競合する。密生する箇所では他の植物の生育がほとんどみられない。種子で繁殖。
	・セイタカアワダチソウ	生態系被害防止外来種。河川敷等水辺に生育し、しばしば大群落を形成する。アレロパシー作用で知られ、周囲の他の植物の生育を抑制する。
魚類	・オオクチバス (ブラックバス) ・コクチバス ・ブルーギル	特定外来生物。日本各地で湖、池沼、ため池、堀等で在来種魚類の卵、稚仔魚、成魚や水生昆虫類を大量に捕食し、在来種の減少の主因となることで知られる。いずれも繁殖力が強く、水系に導入されると急増し定着がみられる。

⑤二次的環境の放置： 里山等人為的な管理により維持されてきた環境の劣化

自然度の高い自然環境のみならず、古来から人間と自然との関わりの中で培われてきた、二次林、谷戸、ため池、草原等の環境を総称して里山と呼び、里山には固有の動植物が生息・生育してきた。しかし都市化などの環境の変化により、古くからある里山環境が維持されなくなったことにより、里山環境に適応してきた動植物の減少がみられる。表 3.1-35 に二次的環境の放置により減少する生物の例を示す。

表 3.1-35 二次的環境の放置により減少する生物の例

分類群	種名	個体数変動の要因・状況
植物	・ヒメコヌカグサ	谷戸における耕作放棄等により減少傾向にある。
	・ナンバンギセル	定期的な草刈や採草等、半人為的に維持されてきた草地を生育適地とするが、このような草地が減少傾向にある。
両生類	・クロサンショウウオ	二次的環境の放置による産卵に適した止水域の消失により減少したと考えられる。
	・トウキョウダルマガエル	休耕地や耕作放棄地の乾燥化により生息適地が減少しているとされる。
昆虫類	・ミヤマクワガタ	雑木林が利用されなくなったことや二次林の伐採等で減少している。
	・ノコギリクワガタ	
	・ヒメギフチョウ	
	・ゲンゴロウ	池沼やため池の埋め立て、ため池の管理放棄、放棄水田の遷移により減少している。

⑥震災影響（自然攪乱）： 東日本大震災に伴う津波による減少

平成 23 年（2011）年に発生した東日本大震災に伴う津波により、宮城野区・若林区の沿岸地域は大きな攪乱を受けた。震災前の沿岸部には江戸時代から作られてきた幅数百メートルに及ぶ広大なクロマツ海岸林があり、浜提や後背湿地等の自然地形やそこに生息・生育する動植物がみられたが、津波により海岸林はほとんど消失し、現在は一帯にクロマツの若木の植林が完了している。震災から 10 年が経過し、この間には津波の侵食による埋土種子や、新たな堆積土砂由来とみられるこれまでみられなかった植物種の生育が確認される例や、津波で根返ったクロマツ海岸林域に生じた窪地などの微地形を利用する水生昆虫や魚類等も確認されてそれぞれの増加、消長がみられ、いまだ動植物相の変動は大きいが確実に生態系は再生に向かっている。ただし、クロマツ海岸林のほぼ全域が失われ、若木の状態であるため、クロマツ海岸林の高木を利用して営巣していたオオタカは宮城県では生息適地の 90%が失われたとされ、植栽された海岸林が生長するまでの数十年間は海浜地域での生息は難しいものと思われる。その他海浜地域はアオジ、コゲラ等樹林地性の鳥類も同様に減少している。一方、疎林・草地性のオオヨシキリ、モズ等は増加傾向にある。

⑦震災影響（人為的影響）： 東日本大震災後の復旧・復興事業に伴う減少

平成 23 年（2011）年に発生した東日本大震災に伴う津波により、大きな被害を受けた宮城野区・若林区の沿岸地域では海岸堤防の建設や、集落の内陸部への集団移転、内陸部における住宅地造成、道路・河川整備事業が行われてきた。震災後の復旧・復興事業による生息地・生育地の減少・消滅などもみられるが、市民との合意形成により、復興工事にあたって「生物・生態系と共存する工夫」も挙げられ取り入れられている箇所もある。

若林区荒浜地区では、札幌の市民団体「北の里浜 花のかけはしネットワーク」により、防潮堤に覆砂を行うことで砂丘植生の再生を行う取り組みが行われ、現在ではハマヒルガオやハマナスの群落がみられるようになった。

⑧原因不明： 減少の原因が不明

その他、減少の原因が不明なものとした。複合的な要因により、明確に減少の原因を挙げられない場合も多数ある。

3.2 ふるさと種の更新

ふるさと種は、本市に生息・生育する動植物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として第4回調査（H28（2016））時に選定された。今回調査では、検討会からの意見を参考に、下記の変更を行った。ふるさと種は前回調査時と同様、植物10種、その他の分類群は5種ずつ（両生類と爬虫類をあわせて5種とした）とし、選定した種は表 3.2-1に示した。なお、種として選定することが難しいものは、総称を用い、1種とし扱った。

主な変更点を下記に示す。

【変更】

- ・植物において、委員の意見により「ハマヒルガオ」を新たに追加し、全体で10種とすることとして、「ホオノキ」を削除した。表 3.2-1の備考欄に示す通り、本市の海岸地域は震災による津波で大きな攪乱を受けたが、草本や低木、昆虫類の一部は生残り、震災後10年の現在では海浜植物が目覚ましくかつ自律的な回復がみられる。追加した「ハマヒルガオ」は海浜植物を代表する種であり、津波による攪乱後いち早く出現をみせ、現在は大群落を再生している。仙台の海岸環境再生のシンボルとして、仙台市のふるさと種に追加する。
- ・魚類のふるさと種のうち、「ドジョウ」は第4回調査（H28（2016））後、4種に分類され、仙台市内では内「ドジョウ」と「キタドジョウ」の2種の生息が確認されている。しかし「キタドジョウ」は山間部の湿地などに生息する種で、ふるさと種としては市民のなじみが薄いため、「ドジョウ」のみをふるさと種として挙げ、「キタドジョウ」は含まないこととした。

表 3.2-1 ふるさと種更新結果 (1/3)

分類群	和名	備考
植物	クサソテツ (コゴミ)	落葉性の多年生シダ植物で、草丈は20cmほど。地中から芽吹いたばかりの渦巻き状の若芽が、おひたしや天ぷらにして食される。くせがなく、風味・口当たりがほどよいことから、春の訪れを告げる代表的な山菜として人気がある。
	モミ	仙台を分布の北限域とする常緑針葉樹で、樹高30m、胸高直径1mに達する。丘陵地の森林内にまばらに自生するほか、屋敷地や公園に植栽されてランドマークとなる。仙台城を守る御裏林(おうらばやし)として保全されてきた青葉山のモミ林は、数少ない発達した自然林として国の天然記念物に指定されている。
	ブナ	春の新緑・秋の紅葉がひととき美しい、山地を覆う冷温帯林を代表する落葉広葉樹。樹高25m、胸高直径1mに達する。また、ブナの種子は形状がソバの実に似ていることから「ソバグリ」と呼ばれ、おおよそ数年に一度訪れる豊作の年には、森の動物はもちろん、山村の人々も恵みを受けてきた。
	コナラ	丘陵地を中心に里山里地の森に広く分布する、二次林(いわゆる雑木林)を代表する落葉広葉樹。どんぐりが実るナラ類に属し、樹高25m、胸高直径1mの大木となるが、古来より日常生活に欠かせない燃料源としての薪、炭の原料として、20年ほどの間隔で伐採されてきた。伐採後、切り株から複数の「ひこばえ(萌芽)」を出して再生する能力が著しい。
	ケヤキ	仙台市の木。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年を迎えた1971年、市民投票によって決められた。本来は丘陵地の溪谷・急斜面の岩塊地や、平野の河辺堤防・浜堤の砂地に自生し、樹高30m、胸高直径1mに達する。古来より農家の屋敷林(イグネ)に導入され、また家具や臼、杵などの素材となってきた。青葉通や定禅寺通のケヤキ並木は、「杜の都 仙台」のシンボルとなっている。
	エゾタンポポ	草丈20~30cm程のキク科の多年生草本で、住宅地の指標種。花期は4月~6月で、夏には地上部は枯れて休眠に入り秋に葉を広げて越冬する。春を代表する花の一つで、髪飾り、笛、綿毛とばしなど、子供の身近な遊び道具として昔から親しまれてきた。
	カタクリ	落葉広葉樹林内に生育する、草丈10cmほどのユリ科の多年草植物。上層の樹木が若葉を展開する前に芽生え、1か月半ほどの間に開花・結実して、地上から姿を消してしまう。そのはかなさと薄紅色の清楚な花から、「春の妖精」と呼ばれる。かつては、球根からデンプン(かたくり粉)が採取された。
	ススキ	草丈2.5mに達するイネ科の多年生草本で、海岸砂丘から山地まで広く分布し、明るく乾燥した土地で優勢となる。かつては牛馬の放牧や飼料(まぐさ)採取を目的として、あちこちにススキ草地が広がっていたとされる。茅葺き屋根の材料としても用いられた。秋の七草のひとつで、9月15日にはお名月さま、豆名月としてススキが飾られる。

表 3.2-1 ふるさと種更新結果 (2/3)

分類群	和名	備考
植物 (続き)	ヨシ	草丈3mに達するイネ科の多年生草本で、海岸から山地まで広く分布し、潟湖や湖沼の岸辺、河岸、湿原、放置水田などで優勢となる。かつてはかやぶき屋根やすだれ（よしず）の材料として盛んに利用され、暮らしに欠くことができない植物であった。若林区藤塚地区には「萱刈地の払下げ記念碑」があり、この地域がかやの生産地として知られていたことが記されている。
	ハマヒルガオ	砂浜に固有な海浜植物種で、砂面に広がり5～6月にピンク色の花をつける。仙台市の東端を縁取る南北およそ10kmの砂浜海岸は、2011年3月の東北地方太平洋沖地震・津波で、かつてない大きな攪乱を受けたが、砂浜に生育・生息していた野生動植物種は、目覚ましい速さで回復がみられる。震災後10年の現在では、本種は防潮堤の海側と陸側に淡いピンク色のじゅうたんを広げたように一面に開花するまでに回復した。
哺乳類	アズマモグラ	土壌が豊かな場所に生息する。畑などで見られる、ペットボトル等で作られた風車はモグラ除け。
	ノウサギ	姿を目にすることは少ないが、冬季、山や緑地を訪れると雪の上の足跡を見つけることができる。
	ニホンリス	博物館周辺等の市街地中心部に近い緑地にも生息している。緑地等では、リスがクルミを割って食べた痕や松ぼっくりをかじった痕（食痕）を見つけることができる。
	タヌキ	郊外部では、人家の近くにも現れる。毛は「仙台御筆」の材料等としても使用された。
	カモシカ	国指定の天然記念物に指定されている。日本の固有種。
鳥類	カッコウ	仙台市の鳥。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年の昭和46年に市民投票により決定。都市の発展で少なくなった鳥、呼び戻したい仙台市の鳥
	カワセミ	鮮やかな体色が特徴的。湖沼や河川で見ることができ、広瀬川、梅田川、七北田川などに生息している。
	ウグイス	ホーホケキョの鳴き声でよく知られ、春の訪れを告げる。古くは大年寺山の鳴鳥とも言われていた。
	フクロウの仲間 (フクロウ、 アオバズク)	夜に活動し、その鳴き声は多くの人に親しまれている。フクロウは“ゴロスケホウホウ”とききなされ、アオバズクは青葉のころにやってきて“ホッホウ、ホッホウ”と鳴く。
	カルガモ	身近な湖沼・溜池や河川に生息し、一年を通じてみることができる。繁殖期にはカルガモの親子連れが見られ、人々の心を和ませる。

注 1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。

表 3.2-1 ふるさと種更新結果 (3/3)

分類群	和名	備考
両生類 ・爬虫類	カジカガエル	清流にすむ、鳴き声の美しいカエル。「広瀬川のカジカガエルと野鳥」は、残したい日本の音風景100選の一つに選定されている。
	トウキョウダルマガエル	別種のトノサマガエルとよく似たカエル。頬にある鳴き袋（鳴のう）をふくらませて鳴く。
	アカハライモリ	昭和20年代、田んぼにイモリが見られ、捕った。皮膚に毒があるので触れた際は手洗いが必要である。
	ニホンカナヘビ	「かなげっちょ」と呼ばれて市民に親しまれていた
	シマヘビ	元来人の生活圏で良く見られる。性格は比較的おとなしい。
魚類	ドジョウ	かつて子どもたちが7~8月に、手作りの竹網筒を田んぼの水路に仕掛けてドジョウをとったりして遊んだ。とったドジョウは卵でとじて「柳川」などとして調理された。
	アユ	夏に広瀬川でとれたあゆの塩漬を更に酒粕に漬け込んだあゆの粕漬は正月料理。現在でも、アユ釣りを楽しむ人は多い。
	サケ	秋、広瀬川でサケの遡上がみられる。市民団体等を中心に、サケの稚魚放流や観察会等様々な活動が行われている。
	ミナミメダカ	東日本大震災で被害を受けた沿岸部のメダカの保全活動が市民協働で八木山動物園等を中心に行われている。
	カジカ	かつて川で夜どぼし（カーバイトを燃やししながら、ガラス箱を使ってヤスで突いて魚を捕る）等で捕った。
昆虫類	アカネの仲間 (ナツアカネ, アキアカネ)	秋、田んぼの上空を赤トンボが群れをなして舞う光景がみられたが近年、みられる数が減少している。水田等で羽化した後、ナツアカネは丘陵地、アキアカネは高い山で夏を過ごす。夏の間、暑い平地では見ることができないが、秋になるといっせいに降りてきて産卵する。
	イナゴの仲間 (コバネイナゴ, ハネナガイナゴ)	秋、稲刈りが終わって干している頃に田んぼに入って捕って佃煮にする。子どものおやつや酒の肴として食される。
	スズムシ	仙台市の虫。市民の自然愛護の象徴として、健康都市宣言10周年の昭和46年に市民投票により決定。「宮城野のスズムシ」は、残したい日本の音風景100選の一つに選定されている。すずむしの里づくり実行委員会を中心に、スズムシ配布会等が行われている。
	アオスジアゲハ	クスノキ、タブノキ、シロダモなどを食樹とする、照葉樹林の蝶。分布北限の東北地方ではおもに海岸沿いに生息するが、仙台市では社寺林や市街地の公園などで見ることができる。
	ミヤマクワガタ	北方系で、仙台市では最も身近なクワガタムシ。夜は灯りに飛んでくるほか昼間も活動し、樹液などで見る機会も多い。クワガタムシの代表として親しまれている。

3.3 植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の更新

3.3.1 植物生育地として重要な地域及び動物生息地として重要な地域の選定方針

本市では、表 3.3-1 に示す基準に該当する地域を「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」として選定している。

表 3.3-1 重要な地域の選定基準

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場，集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生，その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地，湧水，岸壁地，地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地・里山，居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地，市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺，植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

本調査では、表 3.3-2 に示す資料及び検討会からの助言を基に、第 4 回調査（H28（2016））で選定された「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」（資料 1）の更新を行った。

更新に当たっては、第 5 回調査として令和 2 年度に作成された植生図及び平成 27 年度に作成された植生図の比較（資料 2, 3）を行ったが、大きな変化がみられた箇所はなく、また第 4 回調査の時点まで市内のほとんどの緑地を「植物生育地として重要な地域」及び「動物生息地として重要な地域」として網羅しているものとみられたため、今回は新たな追加は行わなかった。

ただし過年度までの追加により、地域区分や生息・生育環境の種類が不規則に並んでいたことから、それぞれの重要な地域の範囲がどの地域区分にかかるか確認し、地域区分順かつ、地域区分内で同様の生息・生育環境であるものを分類して再整理した。第 4 回調査時までの番号を「旧番号」、今回整理して新たに付した番号を「新番号」として、植物生育地として重要な地域の内容の表 3.3-3、動物生息地として重要な地域の表 3.3-4 にそれぞれ示した。

表 3.3-2 重要な地域の更新に用いた資料

資料番号	資料名
1	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (平成 28 年 3 月 仙台市)
2	平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (平成 27 年 3 月 仙台市)
3	令和 2 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書 (令和 3 年 3 月 仙台市)
4	杜の都環境プラン「猛禽類生息環境評価業務」報告書 (平成 27 年 10 月 株式会社エコリス)
5	宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査） (平成 28 年 1 月 宮城県環境生活部自然保護課)
6	東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップ（平成 27 年 1 月 環境省）
7	生物多様性保全上重要な里地里山ホームページ（平成 27 年 12 月 環境省） https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html

3.3.2 植物生育地として重要な地域

植物生育地として重要な地域の内容は表 3.3-3に、位置図は図 3.3-1に示すとおりである。

p62に記した通り、第4回調査（H28（2016））からの変更点として、植物の重要な生育地を地域区分順かつ、同様の生育環境であるものを分類して再整理した。第4回調査時までの番号を「旧番号」、今回整理して新たに付した番号を「新番号」として表 3.3-3に示した。

表 3.3-3 植物の重要な生育地（1/6）

新番号	旧番号	地域区分	地域名	備考	判断理由
1	1	山地	船形山の原生林	県立自然公園船形連峰(第一種、第二種、第三種特別地域等)。標高1,350m以上にはミヤマナラ、ミネカエデの低木林、その下にはブナ林が発達するなど、標高と多雪、立地に応じた植生が成立している。伐採をまぬがれたブナ林は面積が広く、自然度も高く貴重。	1,3
2	2	山地	ブナ林-高山植物群落	県立自然公園船形連峰。船形山の南側の奥羽山脈で、山腹にはブナ林、尾根部にはヒメコマツ、クロベ、ヒノキアスナロがみられる。	1,3
3	3	山地	ブナ林	県立自然公園船形連峰、県立自然公園二口峡谷、蔵王国立公園。奥羽山脈を南北につなぐ、自然度の高いブナ林。林野庁指定の生態系回廊の一部。	1,3
4	4	山地	磐司岩の岸壁植物群落	蔵王国立公園(第一種特別地域)。3km以上も続く高さ150mに及ぶ断崖で、イワキンバイやシコタンソウ等の希少な植物が生育する岩壁植物群落。	1,3,4
5	33	山地	北泉ヶ岳南西麓の風穴性植物群落	典型的な風穴植物群落とは言えないが、岩の透き間から冷風が出ており、特殊な環境として保全が望まれる。	1,4
6	55	山地	泉ヶ岳一帯	県立自然公園船形連峰。良好な落葉広葉樹林帯の植生が残り、野生動植物のハビタットとして重要。市民の憩いの場や児童の野外学習に利用されている。	1,2,5,6
7	12	山地	芳の平のミズバショウ自生地	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳の南麓の芳の平にある中層-低層湿原。ハンノキやヤチダモの下層にミズバショウが群生する。ミズバショウ群生地としては面積も大きく、個体数が多い。乾燥化が懸念されており、基礎調査と保全対策を実施中。	1,4,5
8	34	山地	朴沢のモミ林	朴沢地区の国道457号線沿いに残存するモミ高木が林立する小林分。	3,7
9	43	山地 ～西部丘陵地・田園	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域及び西田中地域の里地・里山植生	市街地の北西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7,8

表 3.3-3 植物の重要な生育地 (2/6)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	備考	判断 理由
10	44	山地 ～西部丘陵 地・田園	奥武士・大倉地 区の里地・里山 植生	市街地の西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7, 8
11	46	山地 ～西部丘陵 地・田園	奥羽山脈～青葉 山丘陵地域の植 生	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に800種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7, 8
12	47	山地 ～西部丘陵 地・田園	大倉・芋沢丘陵 地の植生	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	7, 8
13	54	山地 ～西部丘陵 地・田園	秋保地区の里山	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
14	13	西部丘陵 地・田園	鎌倉山のケヤキ 林	県立自然公園二口峡谷。標高375mの岩峰の山麓に形成された崖錐地に成立するケヤキが優占する森。30～40年前の伐採後に萌芽再生したものと思われるが、土壌的極相に近い組成であり貴重である。	3, 4
15	14	西部丘陵 地・田園	鎌倉山の岸壁植 物群落	県立自然公園二口峡谷。標高375mの岩峰の垂直崖に成立。イワキンバイ、イワデンダ、キリンソウ、スカシユリ等の耐乾性の草本が多く出現する。	1, 4
16	15	西部丘陵 地・田園	棒目木のケヤキ 林	県立自然公園二口峡谷。丘陵南斜面の岩盤が露出する急傾斜地に成立するケヤキが優占する森。多少人為が加わっているが、土壌的極相に近い森林である。	3, 4
17	32	西部丘陵 地・田園	坪沼のオオバア サガラ林	支倉川沿いにオオバアサガラの林分があった。道路拡張工事による縮小の可能性はあるが、現在もオオバアサガラが残存している。	3
18	7	西部丘陵 地・田園	佐保山のモミ・ イヌブナ林	太白山県自然環境保全地域。優勢なモミやイヌブナをはじめ多様な林木・草本が生育し、仙台市域において最も原生林に近い林相を示す森林のひとつである。また広い面積を有している点でも貴重である。	3, 5, 6, 7
19	16	西部丘陵 地・田園	西風蕃山のモ ミ・イヌブナ林	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。山頂付近のやや平坦な立地に残存するモミとイヌブナ、多様な落葉広葉樹種が混生する森。市街地近郊に位置し、仙台市域の丘陵地の気候的極相と考えられる植生の面影を残す群落として貴重。	3, 5, 6, 7

表 3.3-3 植物の重要な生育地 (3/6)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	備考	判断 理由
20	19	西部丘陵地・田園	西風蕃山のブナ林	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。標高 340m 付近に残存するブナ林。高木層ではブナが優占し、イヌブナを混生し、下層にはモミが混じる。ブナが優占する森林としては、県内で最も低標高地に位置するものの一つ。	5, 6, 7
21	20	西部丘陵地・田園	鉤取山モミ希少個体群保護林周辺の林	太白山県自然環境保全地域。鉤取山モミ希少個体群保護林として林野庁の保護林指定を受けているモミ・イヌブナ林を囲むように、コナラ・クリ林やアカマツ・コナラ林から構成される森林域。仙台市域の丘陵地の二次植生を代表する森林域。	5, 6, 7
22	21	西部丘陵地・田園	下の沢等の沢辺植物群落	太白山県自然環境保全地域。丘陵帯でありながら深山の溪谷にみられるような貴重な植物群落が分布。開発の進んできている下の沢、茂倉沢、光沢などの沢筋にみられ、防災上も厳正保全が求められる。	4, 5, 6, 7
23	22	西部丘陵地・田園	太白山のコナラ・ケヤキ林	太白山県自然環境保全地域。太白山の標高 150m から頂上 (320m) までの急斜面・岩礫地には立地特有の植生であるコナラ・ケヤキ林が成立している。登山を中心に市民の憩いの場としても貴重。	2, 5, 6, 7
24	23	西部丘陵地・田園	蕃山・西風蕃山・蛇台蕃山の植生	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。保全上重要な植物群落を含み城西部のコナラ・クリ林を主体とした植生域。各種開発の進む仙台市域の丘陵地において、まとまった面積を有する落葉広葉樹林として貴重。近年マツ枯れに続いてナラ枯れが進んでいる。	2, 5, 6, 7
25	24	西部丘陵地・田園	月山池・サイカチ沼周辺の植生	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。池内にはヨシ群落、マコモ群落、ヒシ群落、多様な湿生・水生植物群落が成立し、仙台市域では稀な状態にあり貴重。	2, 4, 5, 6
26	25	西部丘陵地・田園	黒森山国有林のソヨゴ林と周辺の植生	権現森緑地環境保全地域。仙台市を分布北限とするソヨゴが小群落を形成している。	3, 6, 7
27	26	西部丘陵地・田園	黒森山頂上付近の植生	権現森緑地環境保全地域。アカマツ林は里山では一般的なものであるが、黒森山頂上付近の林分は生育状態が良好で、樹高 20m 以上、胸高直径 50～60cm に達する。過去より伐採を受けてきた里山の植生の中で、壮齢林として貴重。	5, 6, 7
28	27	西部丘陵地・田園	松尾山頂上付近の植生	権現森緑地環境保全地域。黒森山頂上と同様のアカマツ林が分布する。林内に神社があり、地域住民とのかかわりの面も深く貴重。	5, 6, 7
29	28	西部丘陵地・田園	北赤石中の森と周辺の植生	発達状況が良好なコナラ・クリ林。樹高 20m 以上のまとまった林で、仙台市西部丘陵地の典型的な里山の植生がよく残されている。	5, 6, 7
30	45	西部丘陵地・田園	坪沼地域の里地・里山植生	市街地の南西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7

表 3.3-3 植物の重要な生育地 (4/6)

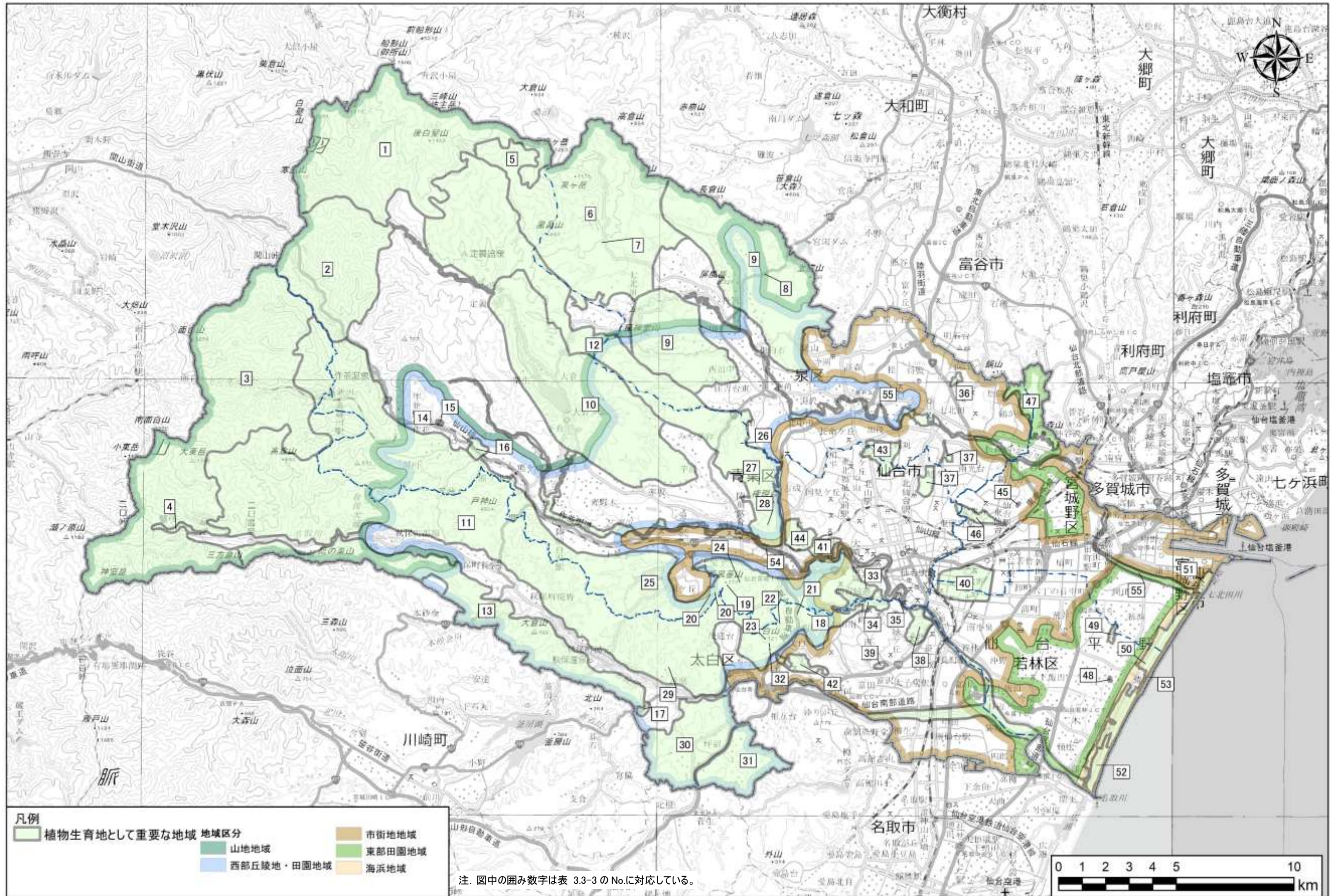
新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	備考	判断 理由
31	50	西部丘陵地・田園	高館, 千貫山	高館・千貫山緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地。野生動植物のハビタット, 環境学習のフィールド, そして奥羽山地と仙台平野, 名取川をつなぐ生態系回廊(生態系コリドー)として重要。	6, 7
32	17	西部丘陵地・田園	太白山のスギ林	太白山県自然環境保全地域。太白山の南東斜面にある樹齢100年以上のスギの大木で構成される森林。人工林ではあるが, 自然度が高く, また地域の住民にも親しまれており貴重。	5, 7
33	5	市街地	東北大学植物園のモミ林	国指定天然記念物。モミの大木を主体とした針広混交林で, 原生林に近い。仙台市街地の西縁に残存し極めて貴重である。青葉城の背後を守る御裏林として保全・管理されてきた。カシ類やシロダモ, カラスザンショウ, イイギリといった暖地性植物も混交し, 階層ごとに多様な植物がみられる。	1, 2, 3, 6, 7, 8
34	39	市街地	竜ノ口溪谷の自然林	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。広瀬川中流域。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷で, 両岸に残存する大木と独特の植物相が残る。	3
35	6	市街地	霊屋のスギ林	風致保安林, 土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で, 林床には暖地性の植物も多く, それらの分布北限域の自然林のあり方を知る上でも貴重な群落。	5, 6, 7
36	18	市街地	洞雲寺のコナラ林	コナラの大木を主体とする自然度の高い社寺林。下層にはモミの若木が生長し, 植生遷移を考察する上で貴重。また住宅団地地域に残る自然緑地としても重要。	5, 6, 7
37	35	市街地	台原森林公園・真美沢公園の里地・里山植生	市街地の内部に残された, まとまりのある緑地, 里地・里山植生。野生動植物のハビタット, 環境学習のフィールド, 市街地の内部のとび石型生態系回廊(生態系コリドー)として重要。	7, 8
38	37	市街地	茂ヶ崎・愛宕神社周辺の里地・里山植生	市街地南部の丘陵地に残された, まとまりのある緑地。歴史的な建造物や仙台市野草園を含み, 野生動植物のハビタット, 環境学習のフィールド, 市街地にも近く, 市街地内部のとび石型生態系回廊(生態系コリドー)として重要。	7, 8
39	38	市街地	三神峰公園周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された丘陵地に沿ったまとまりのある緑地として重要。市民の憩いの場としても重要。	7, 8
40	40	市街地	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地の内部に残された, 段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として貴重。	7, 8
41	41	市街地	八幡・国見・放山地区の緑地	市街地西端の丘陵地に残された, 地滑り地に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8
42	42	市街地	太白・羽黒台の緑地	市街地南部に残された, 宮城大学のアカマツ植林や丘陵地の里地・里山景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8

表 3.3-3 植物の重要な生育地 (5/6)

新 番号	旧 番号	地域区 分	地域名	備考	判断 理由
43	48	市街地	丸田沢緑地 (水の森公園)	丸田沢緑地環境保全地域。かつては仙台藩の御林として、伐採が禁じられていた。現在では、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園となっている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、とび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。モミの大木を含むアカマツ自然林やコナラ等の二次林、スギ植林が比較的広い面積で残存し、貴重。	5, 6, 7
44	51	市街地	葛岡墓園・荒巻の 緑地	権現森緑地環境保全地域。仙台市南西部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	6, 7, 8
45	52	市街地	燕沢三丁目の緑地	燕沢三丁目特別緑地保全地区として都市緑地法に基づき仙台市より指定を受けた緑地。市街地に残された景観上優れた緑地として重要。	7
46	36	市街地	与兵衛沼周辺の里 地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
47	49	東部田 園	県民の森	県民の森緑地環境保全地域。仙台市北東部に張り出した丘陵末端に位置し、市街地に隣接する緑地、公園。東部田園地域に唯一含まれる丘陵地である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
48	31	東部田 園	南長沼の池沼植物 群落	仙台平野に残された貴重な池沼。近年浚渫され、湿生・水生植物の生育地としての環境が著しく低下しつつあるが、震災後においても貴重な植物が確認されており貴重。	1, 4
49	53	東部田 園	大沼周辺の湿地植 生	湖岸の非耕作地に、湿地植生（植生自然度10のヨシクラス等）や水生植生が分布。震災後は多数の希少種の生育が確認され、環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
50	9	海浜	仙台湾沿岸の海岸 林	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。藩政時代からクロマツ林がつくられてきたが、震災による地盤沈下と津波で一部を残し倒伏・流木した。海岸堤防背後では海岸林の再生が進められている。樹林跡地には砂浜植物が再生し、また小湿地群が分布して、自然度の高い植生が再生しつつあり、今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	7, 9
51	8	海浜	蒲生の塩生植物群 落	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟で、海の干満と七北田川の水 flowにより多様な微環境が成立している。水辺にはオオシバナやハママツナ、ハマゼリ、ヨシ、シオクグ等を含む塩生の草本植生が分布していた。砂洲には砂浜植物群落が広がる。震災による津波で群落と立地は著しく変化したが、埋土種子などから再生が認められている。今後の環境変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4, 5, 6, 7

表 3.3-3 植物の重要な生育地 (6/6)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	備考	判断 理由
52	11	海浜	井土浦の塩生植物群落と東谷地の湿地植生	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台湾海浜鳥獣保護区井土浦特別保護地区。名取川河口左岸に発達する潟湖で、名取川や貞山運河を通じて塩水と淡水が混合する。ヨシやシオクグ等の塩生植物が群落を形成し、ハマツナやハマゼリ等も生育する。砂州には砂浜植物群落が広がる。震災による津波で植生は著しく攪乱されたが、その直後から急激に回復している。震災後新たにできた東谷地には自然度の高い塩生植物群落複合体がいち早く形成されつつあり、今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 3, 4, 5, 6
53	10	海浜	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。渚からハマニンニク群落、コウボウムギ群落、ケカモノハシ群落等の砂浜植物群落が順に成立していたが、震災による津波と地盤沈下で大きく攪乱された。しかし回復が著しい場所も多く、今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 3, 4, 5, 6
54	29	山地～海浜	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。わずかな立地の違いや洪水様態に応じた多様な植生が認められることから、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。流域の各所をつなぐ生態系回廊（生態系コリドー）や市民の憩いの場としても極めて貴重。	8, 9
55	30	山地～海浜	七北田川下流域の河畔植生	ヨシ群落（自然植生度 10）を主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。流域の各所をつなぐ生態系回廊（生態系コリドー）や市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	8, 9



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.3-1 植物生育地として重要な地域

3.3.3 動物生息地として重要な地域

動物生息地として重要な地域の内容は表 3.3-4に、位置図は図 3.3-2に示すとおりである。

p62に記した通り、第4回調査（H28（2016））からの変更点として、動物の重要な生息地を地域区分順かつ、同様の生息環境であるものを分類して再整理した。第4回調査時までの番号を「旧番号」、今回整理して新たに付した番号を「新番号」として表 3.3-4に示した。

表 3.3-4 動物の重要な生息地（1/5）

新番号	旧番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断理由
1	8 23	山地	船形山	鳥類, 昆虫類	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。猩々池等山地高原池沼の生息環境を含む。山地から亜高山帯の鳥相、貴重なガ類、水生昆虫類、両生類等の生息。	1, 2, 4
2	24	山地	植生の安定した山地生態系	動物全般	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。山地地域のブナ帯は植生が安定しており、哺乳類など大型動物をはじめとする良好な山地生態系が維持される地域としてとして保護する必要がある。	1, 2
3	37	山地	磐司岩	鳥類, 昆虫類	県立自然公園二口峡谷。蔵王国定公園（第一種特別地域）。3 km以上も続く高さ150mに及ぶ断崖で、希少な鳥類、昆虫類が生息する。	1, 3, 4
4	2	山地	泉ヶ岳・北泉ヶ岳	動物全般	県立自然公園船形連峰。野生動植物のハビタットとして重要。県内でも代表的なチョウ類の生息地、ブナ林に依存する貴重なチョウ類の生息。	1, 2
5	3	山地	泉ヶ岳芳の平	鳥類, 昆虫類	県立自然公園船形連峰。山地性草地、湿原など多様な環境があり、野生動植物のハビタットとして重要。市内唯一のオオジシギ繁殖地、チョウ類、トンボ類の生息地。	1
6	20	山地～西部丘陵地・田園	泉ヶ岳から根白石への緑の回廊	動物全般	市街地の北部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。根白石（朴沢・実沢・福岡）地区はNo. 34の西田中地区とともに環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。	2, 8
7	21	山地～西部丘陵地・田園	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	動物全般	市街地の中央部から北西にかけて位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8

表 3.3-4 動物の重要な生息地 (2/5)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断 理由
8	22	山地～西部丘陵地・田園	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
9	36	山地～西部丘陵地・田園	秋保地区	動物全般	県立自然公園二口峡谷。市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されている。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。	5, 6, 7
10	39	山地～西部丘陵地・田園	作並地区	動物全般	県立自然公園船形連峰。市街地の西部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	2
11	32	山地～西部丘陵地・田園	奥武士・大倉地区	動物全般	市街地の西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要。水田やため池、山林、山地草原のススキ原等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、トウホクサンショウウオやチョウ類などの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地・里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	6, 7
12	34	山地～西部丘陵地・田園	西田中地区	動物全般	市街地の北西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要である。手入れの行き届いた二次林や植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、サンショウクイやトンボ類などの希少な動物の生息が確認されるほか、豊かな里地・里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。No. 20に含まれる根白石（朴沢・実沢・福岡）地域とともに環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。	7
13	27	西部丘陵地・田園	高館, 千貫山	動物全般	市街地の南部に位置する緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地、環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7
14	33	西部丘陵地・田園	坪沼地区	動物全般	市街地の南西部に位置し、里地・里山植生が良好な状態で残されており、動植物のハビタットとして重要。鎮守の森を中心に、農地やため池等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、ニホンリスなどの動物も確認されている。また良好な水辺環境が残されていることからホタル類の生息も確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7

表 3.3-4 動物の重要な生息地 (3/5)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断 理由
15	4	西部丘陵地・田園	権現森	昆虫類	権現森緑地環境保全地域。野生動植物のハビタットとして重要。貴重なチョウ類の生息地、ハチ類等のヒルトッピング。	1, 4
16	6	西部丘陵地・田園	太白山・佐保山・鉤取国有林一帯	鳥類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。山から里までの鳥類が豊富。	2, 5, 6, 7
17	7	西部丘陵地・田園	太白山一帯	昆虫類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。多様なチョウ類の生息、貴重なトンボ類の生息、各種チョウ類のヒルトッピング、3種のホタルの生息。	1, 2, 6, 7
18	1	市街地	竜ノ口溪谷	鳥類, 昆虫類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタットとして重要。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷。ハヤブサの生息地、河原に生息する昆虫類のハビタット。	4
19	5	市街地	青葉山	鳥類	仙台市街地の西縁に位置する緑地で、森林性鳥類が豊富。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。豊かな里地・里山生態系のシンボルであるオオタカも生息し、毎年繁殖の成功が確認されている。環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	1, 2, 5, 6, 7
20	28	市街地	葛岡墓園・荒巻の緑地	動物全般	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要である。	6, 7
21	29	市街地	台原森林公園・真美沢公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6,
22	31	市街地	大年寺	動物全般	大年寺風致地区。市街地の南部の段丘に残された、まとまりのある緑地であり、野生動植物のハビタットとして重要である。	1, 6, 7
23	35	市街地	霊屋	哺乳類	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、野生動植物のハビタットとして重要。	5, 6, 7

表 3.3-4 動物の重要な生息地 (4/5)

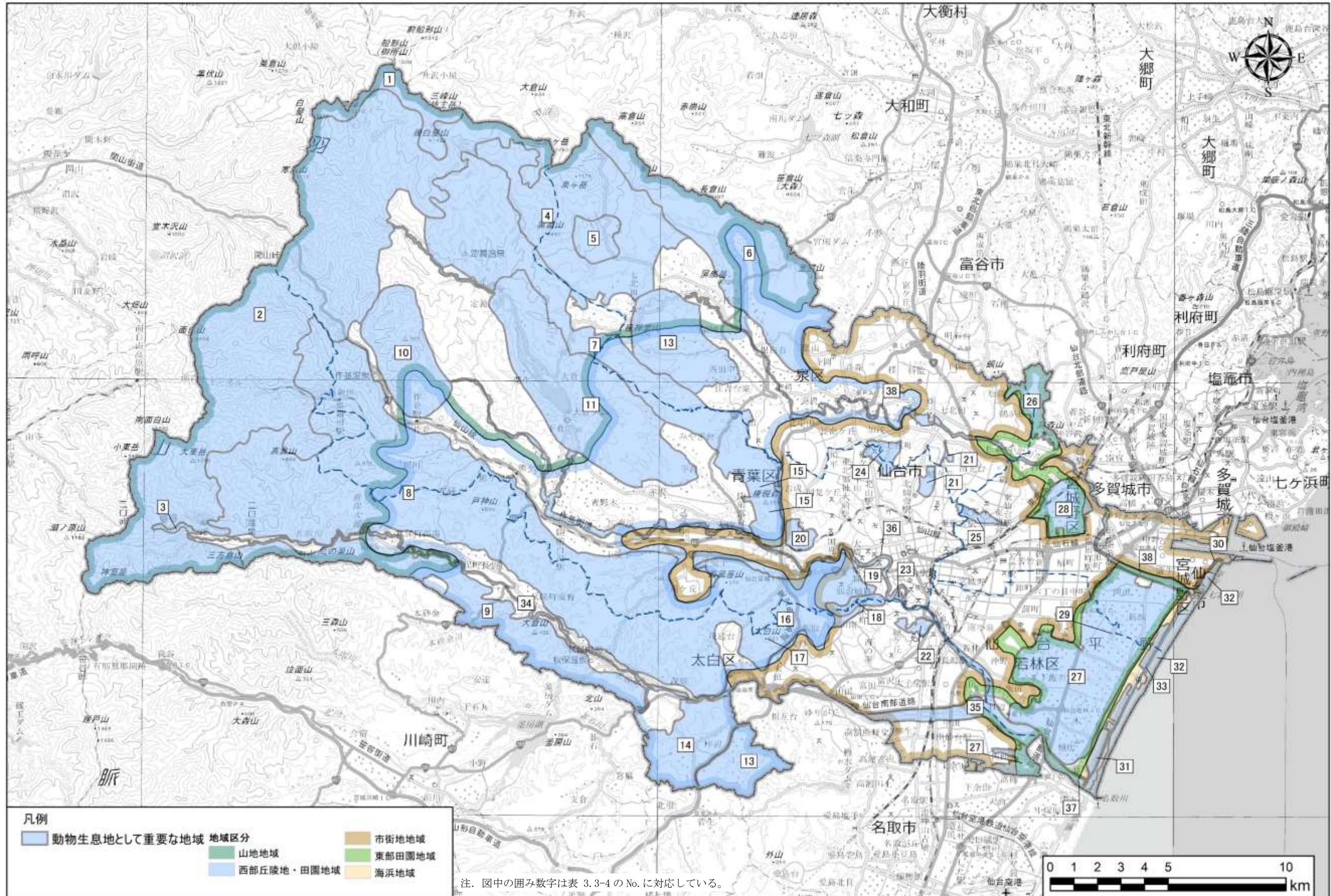
新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断 理由
24	25	市街地	丸田沢緑地 (水の森公園)	動物 全般	丸田沢緑地環境保全地域。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。	6, 7
25	30	市街地	与兵衛沼公園	動物 全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7
26	26	東部田園	県民の森 (丘陵地)	動物 全般	市街地の北部に位置する緑地・公園である。鳥類の中継地、昆虫類の生息地、環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7
27	14	東部田園	低地の水田地帯	鳥類, 魚類	野生動植物のハビタット、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。セッカの繁殖、ホオアカの繁殖、シギ・チドリ類の中継地、ガン・ハクチョウ類の採餌環境。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。東日本大震災の津波により、本地域に生息するミナメダカの生息地がほぼ失われたが、四郎丸地区は残存したメダカの生息地である。	1, 7, 8
28	15	東部田園	福田町の田園	鳥類	市街地の内部に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。環境学習のフィールドとして重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。	5, 7
29	13	東部田園	荒井の大沼	鳥類	野生動植物のハビタットとして重要。マガン、その他水鳥の渡来地。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
30	16	海浜	蒲生干潟	鳥類, 魚類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊 (生態系コリドー) として重要。シギ・チドリ類の渡りの中継地、オオセッカ、コアジサシ、シロチドリ類の繁殖地。干潟を主要な生息環境とする希少な汽水性魚類が見られる。各種汽水・淡水性魚類の幼魚期における生育環境としても重要。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5 , 6, 8

表 3.3-4 動物の重要な生息地 (5/5)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断 理由
31	17	海浜	井土浦及 び東谷地	鳥類, 魚類, 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。名取川河口左岸に発達する潟湖で、名取川や貞山運河を通じて塩水が出入りする。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。希少な種を含む猛禽類、シギ・チドリ類他水鳥類、湿地性鳥類の生息地。干潟を主要な生息環境とする希少な汽水性魚類が見られる。各種汽水・淡水性魚類の幼魚期における生育環境としても重要。トンボ類等の昆虫類の生息が見られる。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5 , 6, 8
32	18	海浜	仙台湾海 浜	哺乳類, 鳥類, 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として極めて重要になってきた。環境学習のフィールドとしても重要。海浜性昆虫が震災後に砂浜の拡大とともに増加したが、震災復興工事による砂浜消失等生息環境の悪化が懸念される。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 4, 5 , 6, 8
33	19	海浜	貞山運河	潮間帯 動物	野生動植物のハビタットとして重要。多様な潮間帯動物の生息。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1, 2
34	38	山地～市 街地	名取川 （上～中 流域）	鳥類, 魚類	上流は蔵王国定公園、県立自然公園二口峡谷。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	2
35	11	市街地～ 海浜	名取川 （下流 域）	鳥類, 魚類	野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。河原のイカルチドリの生息・繁殖、冬季はオジロワシ等の猛禽類。アオジの生息及び繁殖。回遊性魚類の生息域であり、ウグイ、アユ、サケなどの産卵場が形成される。	1, 4, 8
36	9	山地～東 部田園	広瀬川 （中～下 流域）	鳥類, 魚類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。回遊性魚類の生息域であり、ウグイ、アユ、サケなどの産卵場が形成される。	2, 7, 8
37	10	東部田園 ～海浜	名取川河 口	鳥類, 魚類, 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタットとして重要。カモ類、カモメ類などの渡来地、塩分に比較的耐性がある河川下流の魚、周縁性淡水魚に加え、沿岸性の海魚が出現するため、魚類相が多様。海浜や河口域に生息する昆虫類の生息地として重要。	1, 4

表 3.3-4 動物の重要な生息地 (5/5)

新 番号	旧 番号	地域区分	地域名	対象	備考	判断 理由
38	12	山地～海 浜	七北田川（中流域 ～河口）	哺乳類， 鳥類， 魚類	野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくくなってきている。河川周辺のヨシ原に生息する鳥類の貴重な生息地であり，コクガン，カモ類，カモメ類などの水鳥の渡来地として重要な環境になっている。河口部には様々な汽水・海水性魚類が出現し，温暖化の指標となり得る暖水性魚類など学術的に重要な魚種もこれに含まれる。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	2, 8



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.3-2 動物生息地として重要な地域

3.4 保全上重要な地形・地質等のリスト及び分布図の更新

3.4.1 学術上重要な地形・地質・自然現象

本調査においては、表 3.4-1に示す文献を用いて、表 3.4-2及び図 3.4-1に示す42箇所を「学術上重要な地形・地質・自然現象」として選定した。

表 3.4-1に示す文献のうち、本調査で新たに文献No.9「せんだい地学ハイキング 気分は宝さがし」、No.10「南三陸・仙台湾地域のジオツアーガイド -東日本大震災による災害遺産を通じて自然の脅威を理解し防災を学ぶ-」を追加した。文献No.9により、仙台市内の主な化石産地・鉱物産地を追加し、文献No.10により、東日本大震災後確認された遺跡・古地層、海岸地形を追加した。新たに追加した箇所は10箇所であり、除外した箇所はない。今年度ではさらに、過年度の保全上重要な植物の生育地・動物の生息地と同様に、学術上重要な地形・地質・自然現象においても地域区分を基に分類し整列した。

表 3.4-1 使用文献一覧

文献 No.	文献名
1	すぐれた自然図(宮城県) -第1回自然環境保全基礎調査(すぐれた地形・地質・自然環境) (1975-76 環境庁)
2	仙台市教育委員会資料(文化財関係資料)
3	日本の地形レッドデータブック(1994 小泉武栄・青木賢人著) 3-1:日本の地形を代表する典型的かつ希少、貴重な地形 3-2:3-1に準じ、地形学の環教育上重要な地形もしくは地学の研究の進展に伴って新たに注目したほうがよいと考えられる地形 3-3:多数存在するが、なかでも典型的な形態を示し、保存することが望ましいもの 3-4:動物や植物の生育地として重要な地形
4	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域、権現森緑地環境保全地域学術調査報告書 (1985 宮城県)
5	太白山県自然環境保全地域学術調査報告書(1985 宮城県)
6	宮城の自然をたずねて-日曜の地学18(1991 竹内貞子編著)
7	新編日本の活断層(1991 活断層研究会)
8	日本の典型地形、都道府県別一覧(1999 国土地理院技術資料D1-No.357)
9	せんだい地学ハイキング 気分は宝さがし(1993 地学団体研究会仙台支部編)
10	南三陸・仙台湾地域のジオツアーガイド -東日本大震災による災害遺産を通じて自然の脅威を理解し防災を学ぶ-(2016 南三陸海岸ジオパーク準備委員会編)

注1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。

表 3.4-2 学術上重要な地形・地質・自然現象 (1/4)

新番号	旧番号	地域区分	名称	選定理由	概要	文献No.
1	1	山地	船形山	第四紀火山地形の典型例	船形連峰県立自然公園。奥羽脊梁山脈にのる第四紀火山。山体は大きい、あまり急峻ではない。泉ヶ岳等寄生火山が多い。	18
2	2	山地	磐司	溶岩層の浸食による絶壁の典型例	国指定名勝。名取川上流は、第四紀火山の大東岳がグリーンタフの上に火山噴出物をのせている。溶岩層は浸食に対して垂直の壁をつくって後退するため、険しい絶壁を呈している。	128
3	3	山地	姉滝	滝の典型例	国指定天然記念物。名取川本流にかかる落差約10mの滝。滝は造爆層の上流川から流れ落ち、かつては天然橋をつくっていたが、これは崩れ落ちた。	12
4	4	山地	秋保大滝	滝の典型例	県立自然公園二口峡谷。国指定名勝。名取川本流にかかる落差約55mの滝。	128
5	21	山地	兔平(泉ヶ岳火山)	溶岩台地	船形連峰県立自然公園。典型的な溶岩台地として選定。	89
6	22	山地	北石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園、県立自然公園二口峡谷。典型的な天然橋・岩門・石門として選定。	8
7	23	山地	菖蒲沼	地すべり地	農地・村地・小集落が混在する典型的な地すべり地として選定。	8
8	24	山地	北沢	ナメ・淵	県立自然公園二口峡谷。広瀬川の支流新川の源流部の典型的なナメ・淵として選定。	8
9	33	山地	大倉ダム湖畔	厚い段丘礫層	県立自然公園船形連峰。典型的な厚い段丘礫層(後期更新世河成段丘)として選定。	8
10	新	山地	穴戸沢林道	化石産地	穴戸沢層の露頭から植物化石、昆虫化石を産する。	9
11	新	山地	奥新川(秋保鉦山跡)	鉦物産地	秋保鉦山は1961(昭和36)年まで採掘されていた銅鉦山跡地である。約1700万年前(新生代新第三紀中新世)のグリーンタフから黄銅鉦・黄鉄鉦・閃亜鉛鉦等を算出した。	9
12	19	山地～西部丘陵地・田園	作並・屋敷平	活断層地形	NNE方向に地塁状の高まりを伴う長さ約9kmの活断層で、活動度Cである。	78
13	新	山地～西部丘陵地・田園	根白石(堂所・焼河原・七北田川河岸)	化石産地	仙台でも有数の貝化石の産地として選定。堂所・焼河原では1200～600万年前の地層(大堤層・青麻層・七北田層)からホタテガイ類等の貝化石を産する。七北田川河岸の白沢層露頭では、根白石植物群と呼ばれる木の葉化石がみられる。	9
14	5	西部丘陵地・田園	蕃山丘陵	丘陵地形の典型例で学術上重要、かつ動植物の重要な生育地	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。新第三紀火山岩類から成る典型的な丘陵地形。植生景観や各種動物生息地としても重要で、市街地に隣接して優れた自然地形を保持している地域である。	3-2 3-4 4

注1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。

表 3.4-2 学術上重要な地形・地質・自然現象 (2/4)

新番号	旧番号	地域区分	名称	選定理由	概要	文献No.
15	6	西部丘陵地・田園	太白山とその周辺の丘陵地	岩頸・丘陵地形の典型例、かつ動植物の重要な生育地	太白山県立自然環境保全地域。新第三紀の火山岩から成る突出丘(岩頸)と、その周囲の半固結堆積岩類から成る稜線高度の揃った丘陵。斜面はコナラなどの二次林やスギ、アカマツの人工林に覆われ、狭い開析谷には一部に水田が残存するなど、丘陵地の典型的な地形景観が残されている。また、付近(西方)にある類似の岩頸は採石で破壊された。	1 3-3 3-4 5 8 9
16	11	西部丘陵地・田園	月山池・サイカチ沼	丘陵地内の湖沼景観	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。農業用溜池としてつくられた人工湖であるが、右岸側に自然がよく保たれており、左岸からの対岸景にすぐれる。周辺の丘陵地は改変が比較的容易な地形のため、人工改変地の無秩序な連続の防止と水・土砂の流出のコントロールの面からも重要である。	4
17	12	西部丘陵地・田園	明石三高ヶ森	岩頸群と自然の形状をとどめる丘陵	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。新第三紀に貫入した安山岩の火道を起源とする亀ヶ森、中の森、鹿の上山の三高ヶ森と、その北側にある自然の形状をよくとどめた斉頂丘陵から成る。岩頸はきわめて目につきやすい。一部では採石による破壊が進行している。	4
18	13	西部丘陵地・田園	権現森	自然状態をとどめる丘陵地形	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。起伏が大きく、硬質の岩石から成る丘陵地形。市街地の無秩序な広がりを防止し、仙台の景観構成の自然のアクセントとなっている。南端には、層理の発達した露岩の岩傘がある。	4
19	14	西部丘陵地・田園	秋保	石材	秋保石は、凝灰角礫岩で耐久性や耐火性、防水性に優れ、軽量であるため土台石、石塀及び蔵などの建物の外壁材として採石場で切り出され利用された。仙台近郊の戦前からの建物などには外壁、塀、階段など、様々な部分で見つけることができる。現存する大型建築の代表は、昭和7年(1932年)建築の東北学院大学土樋キャンパス・ラーハウザー記念礼拝堂。似た岩石では、栃木県の大谷石が有名で県内では塩釜石、野蒜石などがある。	6
20	18	西部丘陵地・田園	愛子	活断層地形	N S 方向に断層崖及び地壘状の高まりを伴う長さ約 2km、活動度 B の活断層で、平均変位速度 0.4m/1000 年である。	7 8
21	20	西部丘陵地・田園	坪沼・円田断層	活断層崖(横ずれ含む)	典型的な活断層崖(横ずれ含む)として選定。	8
22	26	西部丘陵地・田園	鳳鳴四十八滝	甌穴群(ポットホール)	広瀬川流域の典型的な甌穴群(ポットホール)として選定。	8
23	27	西部丘陵地・田園	磊々峡	甌穴群(ポットホール)	名取川流域の典型的な甌穴群(ポットホール)として選定。	8
24	28	西部丘陵地・田園	秋保長袋付近	環流丘陵	名取川流域の典型的な環流丘陵として選定。	8
25	31	西部丘陵地・田園	愛子盆地の広瀬川左岸一帯	河岸段丘及び段丘崖	広瀬川・大倉川流域の典型的な河岸段丘及び段丘崖として選定。	8

注 1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。

表 3.4-2 学術上重要な地形・地質・自然現象 (3/4)

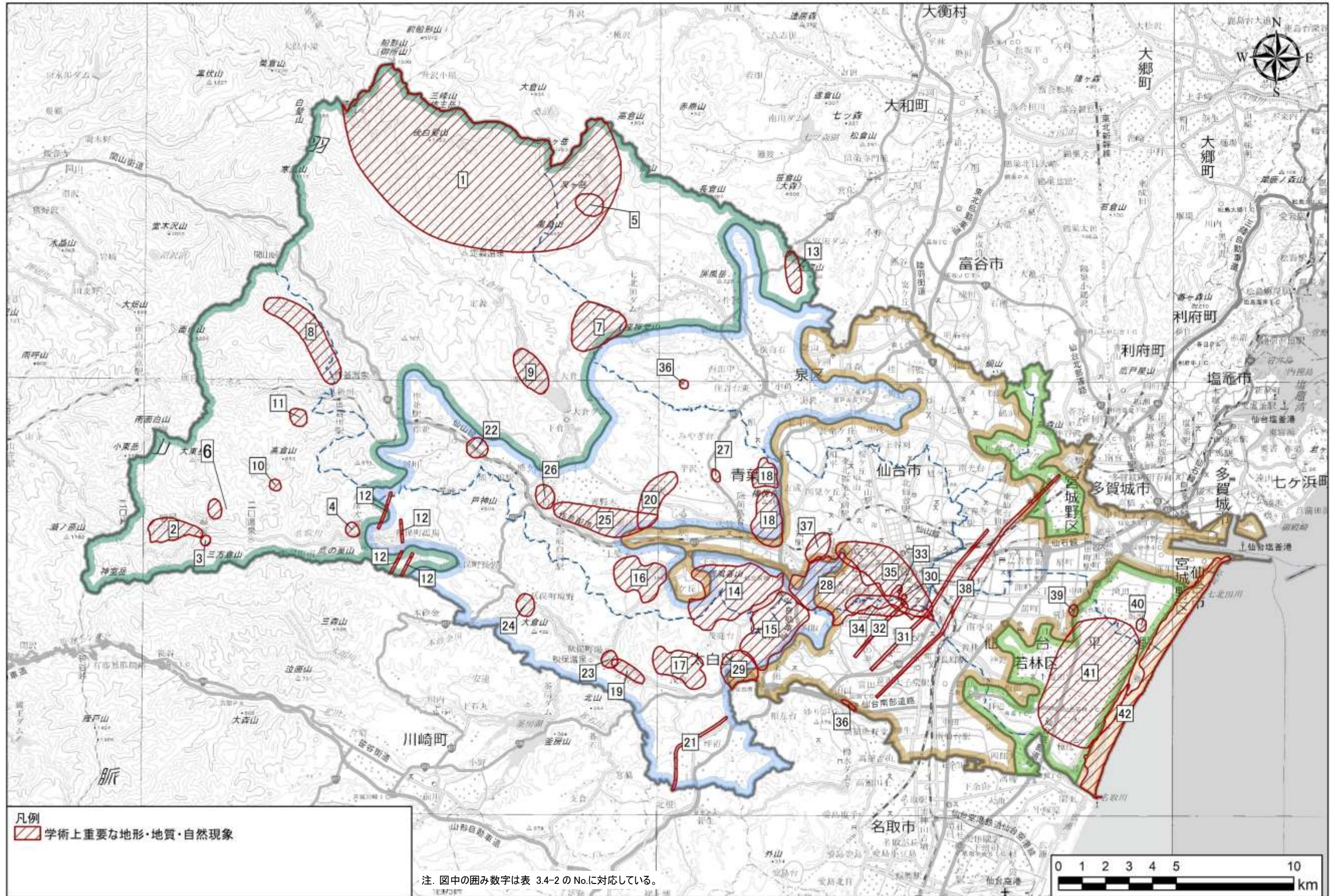
新番号	旧番号	地域区分	名称	選定理由	概要	文献No.
26	新	西部丘陵地・田園	白沢(熊ヶ根)	湖成層	古仙台湖の湖底付近である。湖成層の白沢層のうち、凝灰質シルト岩や軽石混細粒凝灰岩等の地層や、級化層理などの独特の構造がみられる。	9
27	新	西部丘陵地・田園	芋沢唄坂	化石産地	大年寺層の露頭から、貝化石を産する。	9
28	7	西部丘陵地・田園～市街地	青葉山丘陵と竜ノ口溪谷及びその下流部	丘陵地形・峡谷・風隙の典型例で学術上重要、化石産地、かつ動植物の重要な生育地	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。国指定天然記念物(青葉山)。中部更新統風化礫層の堆積面に起源をもつ典型的な丘陵地形と、それを切り、鮮新統半固結堆積岩類が露出した峡谷、及びかつてはその下流部にあたり、河川争奪により風隙化した凹地が、市街地に接して(一部は市街地の中に)みられる。郷六・青葉山周辺や竜ノ口溪谷では、竜の口層の露頭に豊富な貝類化石、哺乳類・魚類・甲殻類等の動物化石や立木化石を産する。	1 3-2 3-4 8 9
29	30	西部丘陵地・田園～市街地	茂庭付近	河岸段丘及び段丘崖、かつ化石産地	名取川流域の典型的な河岸段丘及び段丘崖として選定。茂庭層の露頭から、貝類・大型有孔虫・ウニ・サンゴ類の化石を産する。	8 9
30	8	市街地	霊屋下セコイヤ類化石林	化石産地	市指定天然記念物。霊屋橋の下流に、300万年以前のセコイヤ類の大森林が火山灰に埋められて化石となったもの。	2
31	16	市街地	大年寺山	活断層地形	仙台市宮城野区清水沼付近から太白区三神峯に至る長さ約8km、活動度B級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す南東上がりの逆断層で、逆むき低断層崖に沿って認められている。大年寺山南東側の二ツ沢において、断層露頭(断層の走向・傾斜：N73°E・25°SE)が見られる。	7 8
32	17	市街地	鹿落坂	活断層地形	鹿落坂付近から金剛沢付近にかけて認められる直線谷及び南東上がりの逆むき低断層崖に沿って分布している。本断層は広瀬川河岸では向山層に約12m垂直変位、八木山松波町付近では青葉山段丘面Ⅲに約6m垂直変位をあたえている。本断層の長さは、鹿落坂付近から金剛沢付近までの約4.2kmである。本断層は、青葉山段丘面の形成する平坦面を基準として、0.03約mm/年で、活動度はCクラスに属する。	7 8
33	25	市街地	虚空蔵淵	ナメ・淵	市街地に隣接する典型的なナメ・淵として選定。	8
34	29	市街地	古竜ノ口川	風隙	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。典型的な風隙として選定。	8
35	32	市街地	広瀬川(牛越橋上流～愛宕橋間)	瀬	広瀬川流域の典型的な瀬(瀬・淵の繰り返し)として選定。	8
36	新	市街地	富沢(船渡前～京町外河原)の名取川左岸河床	堆積岩露頭、かつ化石産地	名取川河床に800～500万年前の堆積岩の露頭がみられ、泥岩・砂岩・れき岩・凝灰岩の典型的な地層や斜交層理がみられる。綱木層等の露頭から貝類化石を含む貝殻砂岩を産する。	9

注1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。

表 3.4-2 学術上重要な地形・地質・自然現象 (4/4)

新番号	旧番号	地域区分	名称	選定理由	概要	文献No.
37	40	市街地	三滝 (広瀬川)	石材	玄武岩を産し、仙台城の石垣の石材として用いられた。	9
38	15	市街地～ 東部田園	長町・利府	活断層地形	宮城郡利府町放森付近から仙台市太白区長町を経て太白区富田付近に至る長さ約 17 km、活動度が B 級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す北西上がりの逆断層で、断層崖及び低断層崖を含む撓曲崖の崖線に沿っているとされている。また、本断層の北西側 (断層上盤側) は、仙台市宮城野区鶴ヶ谷付近から榴ヶ岡を経て、太白区の大年寺南西方へと連なる隆起帯を形成している。さらに、この隆起帯 (台地～丘陵) 南東翼部では鮮新統が最大約 45°、青葉山段丘の礫層が約 22° 南東方に傾斜するといった新期の地層の変形が報告されている。	7 8
39	43	市街地～ 東部田園	沓形遺跡	古地形	2007 年発掘、約 2000 年前の津波砂層で覆われた弥生時代の水田跡。周辺の遺跡からは地震によるものと考えられる地割れ跡も発見された。	10
40	42	東部田園	貞観津波砂層 (宮城野区岡田)	地層	東日本大震災の津波による侵食で、平安時代 (915 年) の十和田火山噴火の火山灰層や、869 年の貞観津波の堆積砂層が確認された。現在は工事により消滅しているが、新たな地層断面を形成すれば確認可能である。	10
41	41	東部田園 ～海岸	仙台平野 (若林区荒浜～藤塚付近)	浜堤列	海岸平野を代表する地形として選定。仙台市～山元町にみられる。波浪により形成された浜堤が海岸線の後退により列状に並んだ地形である。浜堤間に堤間湿地と呼ばれる微地形もみられる。	10
42	10	海岸	井土浦・名取川河口・七北田川河口など	潟湖・河口干潟・砂浜海岸の典型例、かつ動植物の重要な生息地	仙台湾海浜県自然環境保全地域。潟湖、河口干潟、(近世の) 運河などを伴う砂浜海岸。植生的にも、また、鳥類の生息地としても重要である。	3-3 3-4 8

注 1. 網掛けした箇所は本調査において新しく追加された箇所を示す。



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-1 学術上重要な地形・地質・自然現象分布図

3.4.2 自然景観資源

自然景観資源に着目し、表 3.4-3の資料から93箇所を選定した。選定した自然景観資源の内容を表 3.4-4に、位置を図 3.4-2に示した。なお、第4回調査（平成28（2016）年）から変更はない。

・自然環境情報図(宮城県)

－第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

表 3.4-3 使用文献一覧

文献 No.	文献名
1	自然環境情報図(宮城県) －第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (1/6)

No.	件名	種別	概 要	見られ方	インパクト	文献
1	御所山火山 (船形山火山)	火山群	第三紀火山の間に新しい第四紀火山が噴出したもの。緩やかで広大な斜面をもつ山岳の集合である。最高標高 1500.2m, 最低標高 560m。主な峰: 船形山(1,500.2m), 後白髪山(1,422.5m), 三峰山(1,417.6m)。	-	-	1: A1-01-05
2	面白山火山	火山群	第三紀の火山群で、開発が進み、急峻な地形が刻まれている。最高標高 1344.2m 最低標高 880m。主な峰: 面白山(1,284.4m), 南面白山(1,225.4m), 小東岳(1,227.6m), ハマグリ山(1,344.2m), 瀬ノ原山(1,182.2m)。	遠	人の立入り	1: A1-01-06
3	黒鼻山	火山	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳から南方に延びる台地状の古い火山。三峰山, 後白髪山の山腹を覆う水平線を形成し, 船形連峰の景観に変化を与えている。溶岩円頂丘。標高 842.9m, 比高 262m。	近 中 遠	周辺の開発	1: A1-02-08
4	後白髪山	火山	仙台市街地からみると泉ヶ岳, 三峰山とならんで船形連峰の景観の主たる構成要素。溶岩円頂丘。標高 1,422.5m, 比高 740m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-09
5	泉ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。三峰山, 後白髪山とならんで, 仙台市街地からみる船形連峰の主たる構成要素。市街地に最も近い 1,000m 級の山岳で, 仙台の景観において最も大きな意味を持つ。溶岩円頂丘。標高 1,172.0m, 比高 592m。	近 中 遠	観光開発	1: A1-02-10
6	北泉ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。溶岩円頂丘。標高 1,253.1m, 比高 433m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-11
7	三峰山	火山	県立自然公園船形連峰。泉ヶ岳, 後白髪山とならんで, 仙台市街地からみる船形連峰の主たる構成要素。溶岩円頂丘。標高 1,417.6m, 比高 617m。	近 中 遠	農林業開発 道路開発	1: A1-02-12
8	蛇ヶ岳	火山	県立自然公園船形連峰。溶岩円頂丘。標高 1,400.0m, 比高 520m。	近 中 遠	特になし	1: A1-02-13

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (2/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
9	面白山	火山	シャープな双耳峰で、2つの峰を結ぶ稜線は典型的な非対象山稜を示す(No.27参照)。成層火山。標高1,284.4m, 比高444.4m。	遠		1: A1-02-21
10	南面白山	火山	成層火山。標高1,225.5m, 比高325m。	遠	人の立入り	1: A1-02-23
11	小東岳	火山	山頂は市域外。成層火山。標高1,227.6m, 比高347.6m。	遠	特になし	1: A1-02-24
12	ハマグリ山	火山	山形神室岳又は最上神室岳。山頂は市域外。成層火山。標高1,344.0m, 比高544m。	遠	人の立入り	1: A1-02-25
13	瀬ノ原山	火山	山頂に平坦面が残る。山頂は市域外。成層火山。標高1,140.0m, 比高240m。	遠	人の立入り	1: A1-02-27
14	小屋森山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、長倉山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高386m, 比高140m。	近中遠	特になし	1: A2-05-14
15	長倉山の西方約500m	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、長倉山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高425m, 比高120m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-16
16	長倉山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、小屋森山、蘭山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高497.8m 比高200m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-17
17	蘭山	非火山性孤峰	県立自然公園船形連峰。安山岩の岩頸。泉ヶ岳と東の七ッ森の間にあり、小屋森山、長倉山等とともに、さほど高くはないが極めて目立つ山並みを連ねている。標高760.8m, 比高280m。	近中遠	特になし	1: A2-05-19
18	中の森	非火山性孤峰	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頸。鹿の上山、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。円錐形の山が3つ並んでそびえ、中央の中の森にはさまざまな神がまつられている。標高295m, 比高135m。	近中遠	特になし	1: A2-05-31
19	鹿の上山	非火山性孤峰	県緑地環境保全地域。北赤石にある火山岩頸。中の森、亀ヶ森とあわせて三高ヶ森とよばれる。標高326m 比高160m。	近中遠	農林業開発	1: A2-05-32
20	太白山	非火山性孤峰	太白山県自然環境保全地域。青葉山丘陵西方にそびえる端正な三角錐の火山岩頸。仙台のシンボル。標高320.7m, 比高180m。	近中遠	道路開発 周辺の開発	1: A2-05-33
21	西風藩山	非火山性孤峰	蕃山・斎勝沼緑地環境保全地域。蕃山、西風蕃山、蛇体蕃山、萱ノ森が連なる。モミ-イヌブナ林等の自然がよく残っている。標高379.2m, 比高219m。	近中遠	人の立入り 道路開発 周辺の開発	1: A2-05-34
22	権現森	非火山性孤峰	権現森緑地環境保全地域。国見丘陵の中で最も目立つ山。周辺の開発が著しく島状に残っている。標高313.7m, 比高113m。	近中遠	人の立入り 周辺の開発	1: A2-05-35
23	大倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。標高432.7m, 比高212m。	近中遠	道路開発	1: A2-05-56
24	高倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。標高853.0m, 比高212m。	近中	農業開発 道路開発	1: A2-05-57
25	戸神山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。白沢峠の西にそびえる火山岩頸。山頂からの眺望にもすぐれる。標高504.4m, 比高144m。	近中遠	農林業開発 道路開発	1: A2-05-58
26	鎌倉山	非火山性孤峰	県立自然公園二口峡谷。火山岩頸で、中腹から山頂にかけて岩頸をなす。古くから一帯の名勝として知られる。標高520.0m, 比高240m。	近中遠	人の立入り	1: A2-05-59

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (3/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
27	面白山	非対象山稜	県立自然公園二口峡谷。頂上稜線部は典型的な非対象山稜をなす。標高 1,264.4m。	近中	特になし	1: A2-08-02
28	寒風山	非対象山稜	県立自然公園船形連峰。標高 1,117.3m。	近中	特になし	1: A2-08-03
29	屏風・鎌沢ノ原	非対象山稜	蔵王国定公園。	近中	特になし	1: A2-08-05
30	岩傘山	断崖・岩壁	権現森の南、仙山線沿いにある露岩で、斜めに走る層理が発達。国道 45 号線等からよく見える。比高 60m, 延長 150m。	近中遠	特になし	1: A2-12-01
31	見当山	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。比高 100m, 延長 120m。	近中	特になし	1: A2-12-15
32	日陰磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。神室東稜の北面にある岩帯。比高 120m, 延長 2,700m。	近中	特になし	1: A2-12-18
33	磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。国指定名勝。磐司尾根南面の見ごたえのある巨大な岩壁。二口街道とよばれた二口沢林道よりよく眺められる。周辺には、裏磐司、日陰磐司、太郎磐司等、岩質や形状の共通した岩帯が方々に見られる。比高 180m, 延長 3,200m。	近中遠	特になし	1: A2-12-19
34	裏磐司岩	断崖・岩壁	蔵王国定公園。磐司尾根の北面の岩帯。比高 150m, 延長 1,100m。	近中	特になし	1: A2-12-20
35	大東岳南面	断崖・岩壁	蔵王国定公園。比高 200m, 延長 1,000m。	中	特になし	1: A2-12-21
36	オビス岩(上段)	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。大東岳を取巻く斜面の露岩帯。比高 140m, 延長 500m。	近中遠	特になし	1: A2-12-22
37	高倉山南面	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。比高 100m, 延長 200m。	近中	農林業開発	1: A2-12-23
38	オビス岩(下段)	断崖・岩壁	県立自然公園二口峡谷。大東岳を取巻く斜面の露岩帯。比高 120m, 延長 700m。	近中遠	農林業開発	1: A2-12-24
39	仙台カゴ	断崖・岩壁	県立自然公園船形連峰。大倉川以西の脊梁部の山は岩峰をなすものが多いが、その中でも特に見事なもの。比高 70m, 延長 100m。	近中遠	特になし	1: A2-12-29
40	竜ノ口溪谷	峡谷・溪谷	広瀬川の河川争奪で形成された。滝の口溪谷に露出する滝の口層は、化石に富み、周辺の植生も良好に保たれている。延長 2.6 km, 巾 200m, 深さ 100m。	近中	人の立入り 汚染物質の侵入	1: B1-01-07
41	大倉川	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。赤倉沢の出合～最上流の鬼口沢の 1.7 km 区間や笹木沢が特に優れている。延長 12.6 km, 巾 100～500m, 深さ 150～250m。	近中	農林業開発 道路開発	1: B1-01-19
42	長谷倉川	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。延長 2.2 km, 巾 150m, 深さ 100m。	近中	農林業開発 道路開発	1: B1-01-20
43	横川溪谷	峡谷・溪谷	県立自然公園船形連峰。県内で最も険しい溪谷で、多くの滝がかかる。延長 2.0 km, 巾 200～300m, 深さ 200～300m。	近中	周辺の開発	1: B1-01-21
44	基石川溪谷	峡谷・溪谷	延長 2.5 km, 巾 200～300m, 深さ 100～200m。	近中	特になし	1: B1-01-26
45	磊々峡	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。巨石を刻んで流れる峡谷。延長 1.9 km, 巾 100m, 深さ 50～80m。	近中	道路開発 観光開発 周辺の開発	1: B1-01-27
46	名取川支流本砂金川	峡谷・溪谷	延長 3.2 km, 巾 100～200m, 深さ 50～150m。	近中	特になし	1: B1-01-28
47	名取川中流大滝付近	峡谷・溪谷	県立自然公園二口峡谷。延長 3.2 km, 巾 200～300m, 深さ 50～150m。	近中	道路開発 観光開発	1: B1-01-29

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (4/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
48	二口溪谷	峡谷 ・溪谷	県立自然公園二口峡谷，蔵王国定公園。大行沢と二口沢から成る。大行沢は，上半部は滑状の美しい沢床の明るい溪谷で，二口沢は屈曲の少ないV字谷。二口沢には，磐司，姉滝，妹滝，石橋等がある。延長 11.4 km 巾 200～400m，深さ 200～350m。	近中	人の立入り 道路開発	1： B1-01-30
49	穴道沢溪谷	峡谷 ・溪谷	県立自然公園二口峡谷。東大第の北面及び東面を源頭とする。大東岳東面の壮大な壁を眺めることができる。延長 4.8 km，巾 200～350m，深さ 100～250m。	近中	農林業開発	1： B1-01-31
50	新川， 奥新川溪谷	峡谷 ・溪谷	県立自然公園二口峡谷。奥新川の上流の北沢上流は小滝が数多く連なる。南沢の金剛沢は多くの滝が連なり，岩象沢は沢全体が滑状。新川は，釜，淵，河床滝と変化に富み，特に八森付近の景観がすぐれる。延長 18.0 km，巾 300～600m，深さ 100～300m。	近中 遠	人の立入り 農林業開発 道路開発	1： B1-01-32
51	仙台市白沢・ 広瀬川中流付近	峡谷 ・溪谷	延長 3.9 km，巾 80～150m，深さ 80～100m。	近中	周辺の開発	1： B1-01-33
52	広瀬川中流 熊ヶ根棒目木間	峡谷 ・溪谷	棒目木付近では，狭い地形の中を流れ，垂直的変化が大きく，大小の滝が連なる。延長 3.8 km，巾 200～300m，深さ 100～200m。			1： B1-01-34
53	大倉川 大倉ダム下流	峡谷 ・溪谷	延長 1.0 km，巾 200m，深さ 100～150m。	近中	その他の開発	1： B1-01-35
54	根白石 七北田川中流	河成段 丘	県立自然公園船形連峰。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 5.0 km，比高 30～80m，段数 1。	近中	農林業開発 道路開発	1： B1-02-01
55	仙台市北赤石 名取川畔	河成段 丘	段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 4.1 km，比高 40m，段数 1。	近中	農林業開発 観光開発 周辺の開発	1： B1-02-02
56	落合・愛子・ 白沢広瀬川畔	河成段 丘	数段にわたる典型的な河成段丘の景観。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長 13.0 km，比高 50～100m，段数 4～5。	近中 遠	農林業開発 観光開発	1： B1-02-03
57	広瀬川上流 新川畔	河成段 丘	県立自然公園二口峡谷。延長 3.8 km，比高 50m，段数 1。	近中 遠	農林業開発 観光開発	1： B1-02-04
58	仙台市霊屋 広瀬川面	断崖 ・岩壁	河崖，斜面のみどり，山上の生地を覆う杜等は，すぐれた自然景観であると同時に歴史的景観でもある。堆積層。新第三紀仙台層群。延長 600m，比高 80m。	近中	人の立入り その他 (水蝕による崩壊)	1： B1-05-01
59	仙台市広瀬町・ 広瀬川崖	断崖 ・岩壁	堆積層。新第三紀仙台層群。延長 500m，比高 60m。	近中	水辺の開発	1： B1-05-02
60	大倉川定義付近	断崖 ・岩壁	県立自然公園船形連峰。柱状安山岩。延長 200m，比高 100m。	中	特になし	1： B1-05-03
61	定義・材木岩	断崖 ・岩壁	県立自然公園船形連峰。柱状安山岩。延長 600m。	近	農林業開発	1： B1-05-04
62	白岩	断崖 ・岩壁	県立自然公園二口峡谷。凝灰岩。延長 1,000m，比高 100m。	近中	特になし	1： B1-05-05
63	白岩(上流)	断崖 ・岩壁	県立自然公園二口峡谷。凝灰岩。延長 900m，比高 60m。	近中	特になし	1： B1-05-06
64	大倉川・ 笹木沢合流点	滝	県立自然公園船形連峰。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1： B1-10-15
65	鎧ノ滝	滝	県立自然公園船形連峰。滝や釜が連続する笹木沢の中でも圧巻。階段状のユニークな滝。本流滝，多段，落差 20m。	近	特になし	1： B1-10-16

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (5/6)

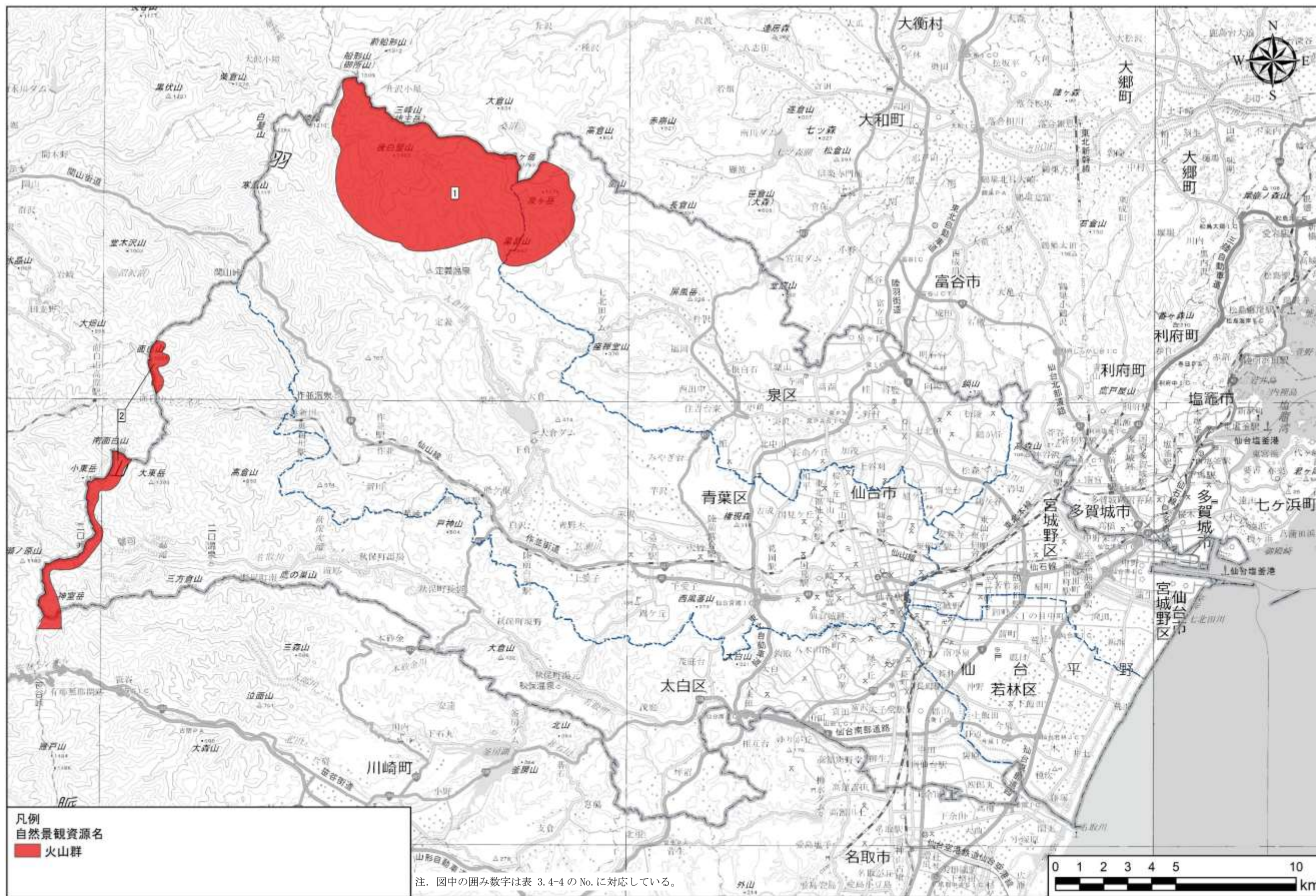
No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
66	二条の滝	滝	県立自然公園船形連峰。県内で最も典型的な二条の滝で美しい。横川溪谷にある。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-17
67	大倉川本流上流域	滝	県立自然公園船形連峰。本流滝，一文字状，落差 7m。	近	-	1: B1-10-18
68	泣虫沢トラ滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，多段，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-26
69	妹滝	滝	蔵王国定公園。姉滝と並んで，三方倉沢にかかる。懸谷滝，滑，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-27
70	姉滝(穴滝)	滝	蔵王国定公園。国指定天然記念物。二口大沢の本流にかかる。かつては天然橋の穴から落下していたが，崩壊した。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-28
71	白糸ノ滝	滝	蔵王国定公園。二口溪谷の支流にかかる。懸谷滝，滑，落差 120m。	中	特になし	1: B1-10-29
72	秋保大滝	滝	本流滝，一文字状，落差 55m。	近	特になし	1: B1-10-30
73	梯子滝	滝	蔵王国定公園。二口溪谷大行沢の京沢にかかる。	近	特になし	1: B1-10-31
74	白滝	滝	蔵王国定公園。二口溪谷大行沢にかかる。本流滝，一文字状，落差 30m。	中	-	1: B1-10-32
75	雨滝	滝	蔵王国定公園。二口溪谷大行沢に合流する沢にかかる。懸谷滝，滑，落差 35m。	近	特になし	1: B1-10-33
76	名取川支流穴道沢中部	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 30m。	近	-	1: B1-10-34
77	大東滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 80m。	中	特になし	1: B1-10-35
78	名取川支流穴道沢上流部	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	農林業開発	1: B1-10-36
79	シン滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 20m。	近	特になし	1: B1-10-37
80	黒髪ノ滝	滝	県立自然公園二口峡谷。安山岩質の岩壁をスダレ状に伝い落ちる神秘的な滝。奥新川の南沢にある。懸谷滝，分散・滑，落差 40m。	近	特になし	1: B1-10-38
81	奥新川四ノ沢	滝	県立自然公園二口峡谷。四ノ沢は，奥新川南沢に流れ込む沢で，小滝が多い。懸谷滝，滑，落差 15m。	近	農林業開発	1: B1-10-39
82	奥新川南沢	滝	県立自然公園二口峡谷。本流滝，一文字状，落差 15m。	近	特になし	1: B1-10-40
83	広瀬川中流棒目木	滝	県立自然公園二口峡谷。通称鳳鳴の滝。作並-屋敷平断層線の走る位置にかかる。本流滝，一文字状，落差 30m。	近	特になし	1: B1-10-41
84	銚子ノ滝	滝	蔵王国定公園。本流滝，一文字状，落差 35m。	遠	特になし	1: B1-10-49
85	南石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園。二口溪谷二口沢の泣虫沢上部にある。柔らかな岩層が歐穴と同様に穴をあけ，発達したとみられる。橋状，比高 6m，穴径 3m。	近	特になし	1: B1-11-01
86	北石橋	天然橋・岩門・石門	蔵王国定公園。二口溪谷大行沢の支流カケス沢上部にある。固い岩層と柔らかい岩層の間をえぐっている。石橋の上にはブナ等の樹木が生え，歩いて渡ることができる。橋状，比高 20m，穴径 7m。	近	特になし	1: B1-11-02
87	蒲生干潟	湖沼	仙台湾海浜県自然環境保全地域。潟湖。面積 48,000 m ² ，湖岸線延長 2,700m。	近中	人の立入り道路開発周辺の開発	1: B2-01-11

表 3.4-4 自然景観資源一覧 (6/6)

No.	件名	種別	概要	見られ方	インパクト	文献
88	井土浦	湖沼	仙台湾海浜県自然環境保全地域。貞山堀の陸側（東谷地）には大規模なヨシ原が存在したが、東日本大震災の影響により干潟出現した。潟湖。面積 270,000 m ² 、水深 1.4m、湖岸線延長 4,900m。	近中	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発 ゴミの投棄	1: B2-01-13
89	大沼	湖沼	県立自然公園船形連峰。低地湖沼。標高 370m、面積 10,000 m ² 、湖岸線延長 350m。	近	農林業開発	1: B2-01-36
90	狸々池	湖沼	県立自然公園船形連峰。周囲はブナの原生林におおわれ、モリアオガエルが多数生息するなど、すぐれた山地湖沼景観を呈する。地すべり湖。標高 955m、面積 10,000 m ² 、湖岸線延長 350m。	近	特になし	1: B2-01-37
91	作並大沼	湿原	県立自然公園船形連峰。低層湿原。面積 13ha、外周長 1,270m。	近	人の立入り 農林業開発 水辺の開発	1: B2-02-06
92	仙台湾砂浜海岸 (深沼海岸)	砂浜・ 磯浜	仙台湾海浜県自然環境保全地域。山元町から続く砂浜海岸の一部。名取川河口から七北田川河口まで。砂浜の内陸側には、クロマツ林（震災により大部分が壊滅）、貞山堀がある。砂浜。延長 9.5 km、巾 60m。	近中 遠	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発	1: B3-07-08
93	長浜	砂浜・ 磯浜	仙台湾海浜県自然環境保全地域。国指定鳥獣保護区。山元町から続く砂浜海岸の一部。七北田川河口より北。内陸側には、蒲生干潟 (No. 87) がある。砂浜。延長 1.9 km、巾 30m。	近中 遠	人の立入り 道路開発 水辺の開発 周辺の開発	1: B3-07-09

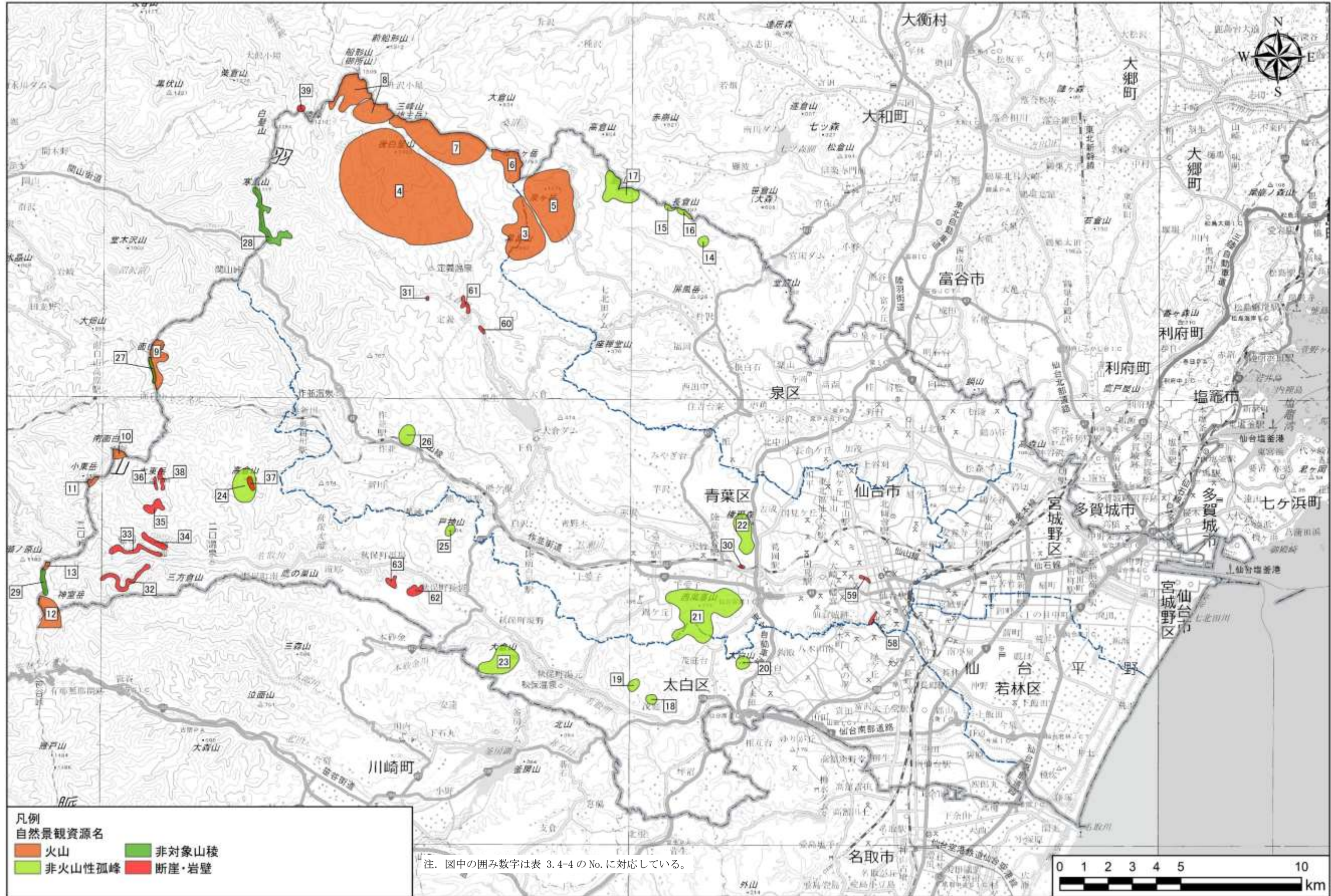
文献) 1 : 自然環境情報図(宮城県)―第3回自然環境保全基礎調査(自然景観資源)(1989 環境庁)

(文献欄の後の番号は、同報告書中の対象番号)



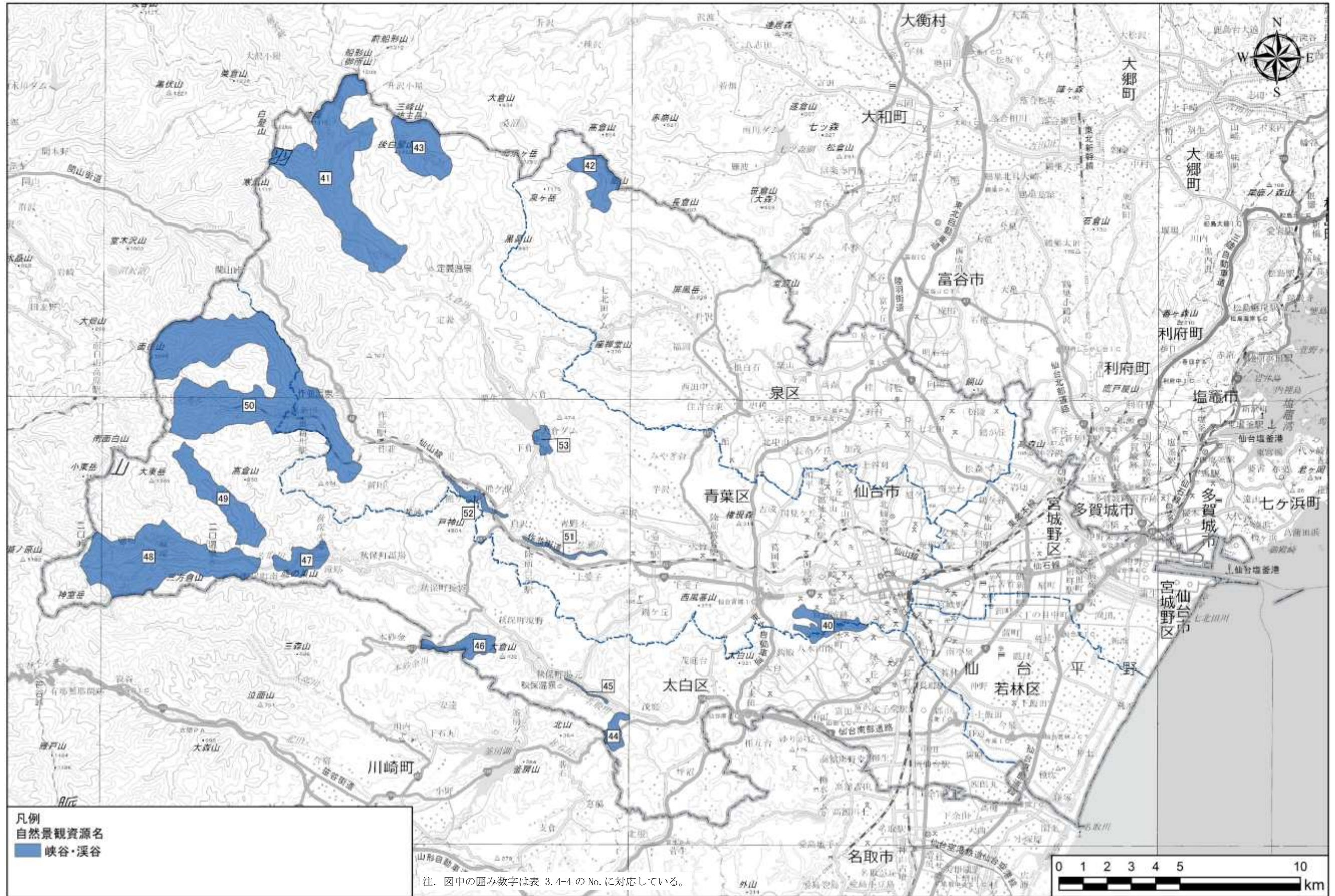
この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-2 自然景観資源分布図 (1/4)



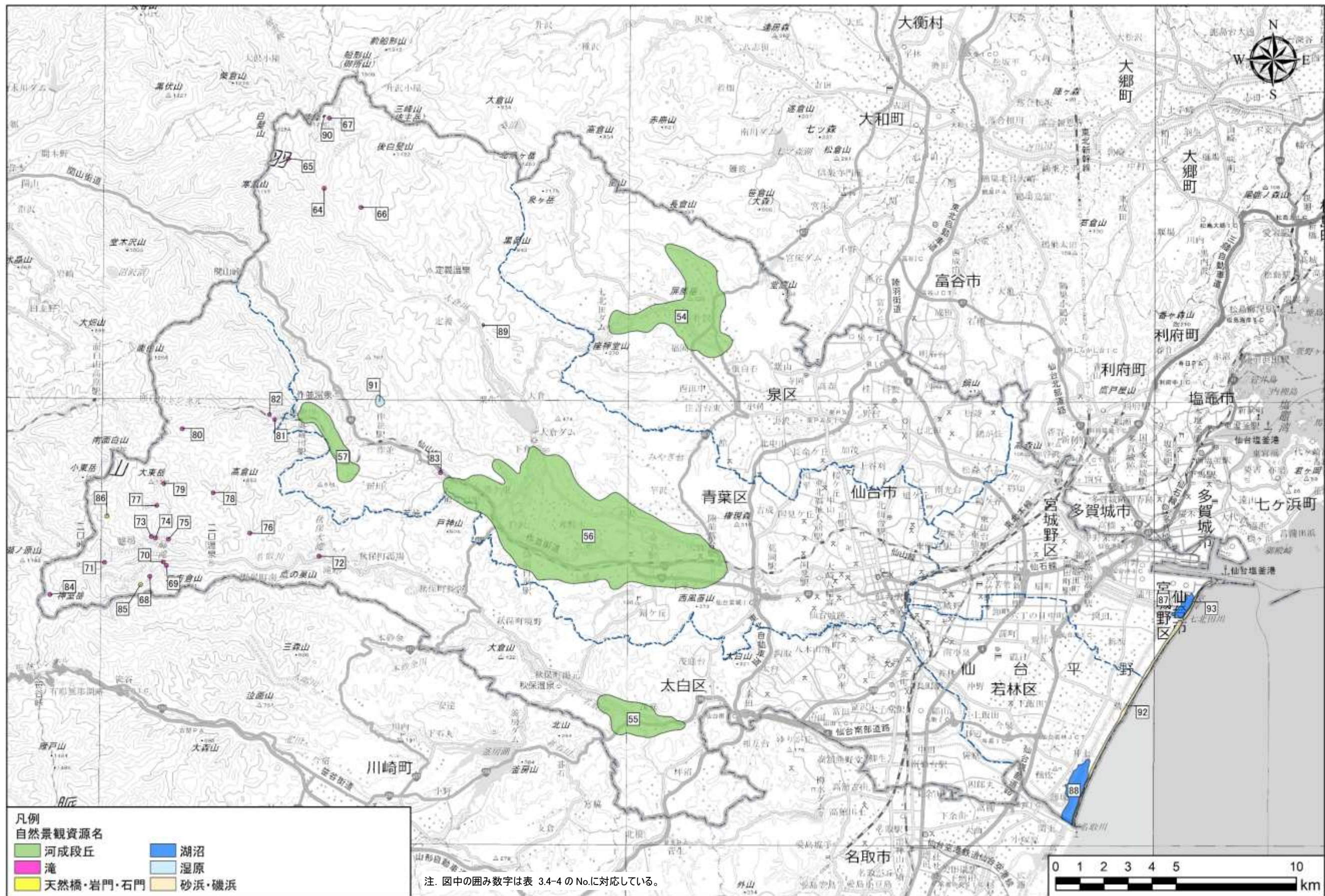
この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-2 自然景観資源分布図 (2/4)



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-2 自然景観資源分布図 (3/4)



この地図は、国土地理院の電子地形図 20 万「仙台」「石巻」を使用したものである。

図 3.4-2 自然景観資源分布図 (4/4)

令和3年度 仙台市自然環境に関する基礎調査
報告書

令和4年2月

仙台市環境局環境部環境共生課

本報告書に関するお問い合わせ先
022-214-0013（環境共生課）